2025年度

シラバス

岐阜保健大学

看護学部

2025年度　看護学部　シラバス目次　および採用図書一覧

番号	科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位 必修	単位 選択	担当教員	頁
1	基本教育科目-思考力の養成	111001	看護ゼミナールⅠ	1年　前期　必修	1		主担当：1年生担任、専任教員全員	1
2	基本教育科目-思考力の養成	111002	情報科学	1年　前期　必修	1		高久道子,國澤英雄	3
3	基本教育科目-思考力の養成	111003	情報科学の実践	2年　前期　必修	1		高久道子,國澤英雄	5
4	基本教育科目-思考力の養成	111004	基礎統計学	1年　前期　選択	1		國澤英雄　高久道子	7
5	基本教育科目-思考力の養成	111005	問題解決法	1年　後期　選択		1	栃本千鶴	9
6	基本教育科目-表現力の養成	111006	英語Ⅰ	1年　前期　必修	1		高久道子、Mandziak	11
7	基本教育科目-表現力の養成	111007	英語Ⅱ	1年　後期　必修	1		高久道子、Mandziak	13
8	基本教育科目-表現力の養成	111008	英語Ⅲ	3年　前期　選択		1	高久道子	15
9	基本教育科目-表現力の養成	111009	英語Ⅳ	4年　前期　選択		1	高久道子	17
10	基本教育科目-表現力の養成	111010	日本語Ⅰ	1年　前期　必修	1		伊藤亜希子	19
11	基本教育科目-表現力の養成	111011	日本語Ⅱ	2年　前期　選択		1	伊藤亜希子	21
12	基本教育科目-表現力の養成	111012	手話	1年　後期　選択		1	亀井明子	23
13	基本教育科目-表現力の養成	111013	中国語Ⅰ	2年　前期　選択		1	干海	25
14	基本教育科目-表現力の養成	111014	中国語Ⅱ	2年　後期　選択		1	干海	26
15	基本教育科目-人間力の育成	111015	自己管理と社会規範（性教育含む）	1年　前期　必修	1		石井英子,野田みや子,高久道子	27
16	基本教育科目-人間力の育成	111016	哲学	2年　前期　選択		1	鷲見コト江	29
17	基本教育科目-人間力の育成	111017	他者理解と信頼関係	2年　後期　必修	1		柿原加代子	30
18	基本教育科目-人間力の育成	111018	地域活動と社会貢献（ボランティア含む）	1年　後期　必修	1		高久道子、小萱康徳	31
19	基本教育科目-人間の理解	111019	現代の倫理	1年　前期　必修	2		鷲見コト江	33
20	基本教育科目-人間の理解	111020	心理と行動	1年　後期　選択		2	栃本千鶴、野田みや子	34
21	基本教育科目-人間の理解	111021	学習と行動	1年　前期　選択		1	藤丸郁代	36
22	基本教育科目-人間の理解	111022	健康と生活	1年　前期　選択		1	藤原奈佳子	37
23	基本教育科目-人間の理解	111023	岐阜県の歴史と文化	1年　後期　選択		2	高久道子、野田みや子	39
24	基本教育科目-人間の理解	111024	多文化と多様性の理解	1年　前期　選択		2	高久道子、粟津昌枝	41
25	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111025	人体構造機能学Ⅰ	1年　前期　必修	2		永井博弐	43
26	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111026	人体構造機能学Ⅱ	1年　後期　必修	2		小萱康徳	45
27	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111027	人体構造機能学Ⅲ	2年　前期　必修	2		小萱康徳	47
28	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111028	生体防御学	2年　前期　必修	1		永井博弐、　太田美智男	49
29	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111029	医療薬理学	2年　後期　必修	1		永井博弐	51
30	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111030	病理学	2年　前期　必修	1		佐藤　勝	53
31	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111031	疾病治療論Ⅰ（成人Ａ）	1年　後期　必修	2		河田美紀	54
32	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111032	疾病治療論Ⅱ（成人Ｂ）	1年　後期　必修	2		河田美紀、河田好泰	56
33	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111033	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	2年　前期　必修	1		河田美紀、井上眞人	58
34	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111034	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	2年　前期　必修	1		近藤直実、野田みや子	60
35	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111035	健康へのアプローチ	2年　後期　必修	1		藤原奈佳子	61
36	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111036	健康と運動	1年　後期　必修	1		藤原奈佳子	63
37	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111037	公衆衛生学(疫学含む)	1年　前期　必修	1		藤原奈佳子	64
38	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111038	保健統計学	1年　後期　必修	1		高久道子、國澤英雄	65
39	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111039	社会保障論	2年　前期　必修	1		永井淑子	67
40	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111040	日本国憲法（法と人権）	2年　後期　必修	2		市川季夫	68
41	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111041	家族看護論	2年　後期　必修	1		野田みや子、粟津昌枝	69
42	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111042	ケアサイエンス	2年　前期　必修	1		藤原奈佳子、石井英子、柿原加代子、野田みや子、小久保晃、秀山正和、鈴木岸子	70
43	専門看護教育科目-基礎看護学	111043	看護学概論	1年　前期　必修	2		山本澄子	71
44	専門看護教育科目-基礎看護学	111044	看護援助方法論Ⅰ	1年　前期　必修	1		山本澄子、可知久美子、原田英子	73
45	専門看護教育科目-基礎看護学	111045	看護援助方法論Ⅱ	1年　後期　必修	1		山本澄子、原田英子、可知久美子	75
46	専門看護教育科目-基礎看護学	111046	看護援助方法論Ⅲ	1年　後期　必修	1		原田英子、可知久美子、山本澄子	77
47	専門看護教育科目-基礎看護学	111047	看護過程演習Ⅰ	2年　前期　必修	1		原田英子、可知久美子、山本澄子	79
48	専門看護教育科目-基礎看護学	111048	看護過程演習Ⅱ	2年　後期　必修	1		原田英子、可知久美子、山本澄子	79
49	専門看護教育科目-基礎看護学	111049	フィジカルアセスメント	2年　前期　必修	1		原田英子、山本澄子、可知久美子	82
50	専門看護教育科目-基礎看護学	111050	看護マネジメント	3年　前期　必修	1		永坂和子	85
51	専門看護教育科目-基礎看護学	111051	看護理論	1年　後期　必修	1		山本澄子、野田みや子	87
52	専門看護教育科目-基礎看護学	111052	看護倫理	1年　前期　必修	1		山本澄子、野田みや子	89
53	専門看護教育科目-基礎看護学	111053	基礎看護学実習Ⅰ	1年　前期　必修	1		山本澄子、原田英子、可知久美子	91
54	専門看護教育科目-基礎看護学	111054	基礎看護学実習Ⅱ	2年　後期　必修	2		原田英子、可知久美子、山本澄子	93
55	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111055	地域・在宅看護学概論	1年　後期　必修	2		鈴木岸子、粟津昌枝	95
56	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111056	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2年　前期　必修	1		粟津昌枝、鈴木岸子	97
57	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111057	地域・在宅看護援助論Ⅱ	2年　後期　必修	1		粟津昌枝、鈴木岸子	99
58	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111058	地域包括ケア・多職種連携論	3年　前期　必修	1		鈴木岸子、粟津昌枝	101
59	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111059	岐阜県の地域医療	4年　前期　必修	1		石井英子、豊田雅孝、纐纈正浩、玉木ひとみ	103
60	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111060	地域・在宅看護学実習Ⅰ（予防的家庭訪問・地区診断）	3年　前期　必修	1		鈴木岸子、粟津昌枝	104
61	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111061	地域・在宅看護学実習Ⅱ	3年　後期　必修	1		粟津昌枝、鈴木岸子	106

番号	科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位 必修	単位 選択	担当教員	頁
62	専門看護教育科目−精神看護学	111062	精神看護学概論	2年　前期　必修	2		夛喜田惠子	107
63	専門看護教育科目−精神看護学	111063	精神看護援助論Ⅰ	2年　後期　必修	1		夛喜田惠子	109
64	専門看護教育科目−精神看護学	111064	精神看護援助論Ⅱ	3年　前期　必修	1		夛喜田惠子、高木みちる	111
65	専門看護教育科目−精神看護学	111065	精神看護学実習	3年　後期　必修	2		夛喜田惠子	113
66	専門教育科目 −成人・老年看護学	111066	成人・老年看護学概論	1年　後期　必修	2		永坂和子、柿原加代子	114
67	専門教育科目 −成人・老年看護学	111067	成人・老年看護援助論Ⅰ（成人・老年期の保健活動）	2年　前期　必修	1		永坂和子、柿原加代子	116
68	専門教育科目 −成人・老年看護学	111068	成人・老年看護援助論Ⅱ（疾患別健康援助看護１）	2年　前期　必修	1		永坂和子	118
69	専門教育科目 −成人・老年看護学	111069	成人・老年看護援助論Ⅲ（疾患別健康援助看護２）	2年　後期　必修	1		永坂和子	120
70	専門教育科目 −成人・老年看護学	111070	成人・老年看護援助論Ⅳ（周手術期看護とクリティカルケア）	2年　後期　必修	1		永坂和子	123
71	専門教育科目 −成人・老年看護学	111071	成人・老年看護援助論Ⅴ（機能障害の看護）	3年　前期　必修	1		永坂和子、柿原加代子、水田恵理子	125
72	専門教育科目 −成人・老年看護学	111072	成人・老年看護援助論Ⅵ（老年期による看護）	3年　前期　必修	1		柿原加代子、水田恵理子	127
73	専門教育科目 −成人・老年看護学	111073	成人・老年看護学演習（看護技術）	3年　前期　必修	1		永坂和子、柿原加代子、水田恵理子	129
74	専門教育科目 −成人・老年看護学	111074	老年看護学実習(施設)	3年　後期　必修	1		柿原加代子、水田恵理子	131
75	専門教育科目 −成人・老年看護学	111075	成人看護学実習（急性期慢性期）	3年　後期　必修	2		永坂和子、水田恵理子	132
76	専門教育科目 −母性看護学	111076	母性看護学概論	2年　前期　必修	2		野田みや子、村瀬ゆかり、清水ゆかり、石田美和	133
77	専門教育科目 −母性看護学	111077	母性看護援助論Ⅰ	2年　後期　必修	1		石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり	135
78	専門教育科目 −母性看護学	111078	母性看護援助論Ⅱ	3年　前期　必修	1		石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり	139
79	専門教育科目 −母性看護学	111079	母性看護学実習Ⅰ（妊娠～分娩期保健管理）	3年　前期　必修	1		石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり	143
80	専門教育科目 −母性看護学	111080	母性看護学実習Ⅱ	3年　前期　必修	1		石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり	145
81	専門教育科目 −小児看護学	111081	小児看護学概論	2年　前期　必修	1		水木幸子、森田真矢	147
82	専門教育科目 −小児看護学	111082	小児看護援助論Ⅰ	2年　後期　必修	1		水木幸子、森田真矢	149
83	専門教育科目 −小児看護学	111083	小児看護援助論Ⅱ	3年　前期　必修	1		水木幸子、森田真矢	151
84	専門教育科目 −小児看護学	111084	小児看護学実習Ⅰ（乳幼児・周手術期管理）	3年　前期　必修	1		水木幸子、森田真矢	153
85	専門教育科目 −小児看護学	111085	小児看護学実習Ⅱ	3年　後期　必修	1		水木幸子、森田真矢	155
86	専門教育科目 −看護の統合と実践	111086	災害看護論	4年　前期　必修	1		藤丸郁代、野田みや子、水木幸子、水田恵理子	157
87	専門教育科目 −看護の統合と実践	111087	薬物療法と看護	4年　前期　選択		1	永井博弐、野田みや子	159
88	専門教育科目 −看護の統合と実践	111088	医療安全管理論(感染含む)	3年　前期　必修	2		藤原奈佳子､野田みや子､石井英子､柿原加代子	160
89	専門教育科目 −看護の統合と実践	111089	国際保健医療活動論	2年　後期　必修	1		高久道子	162
90	専門教育科目 −看護の統合と実践	111090	国際看護活動実践看護	4年　前期　選択	◎	1	高久道子、小萱康徳	163
91	専門教育科目 −看護の統合と実践	111091	医療的ケア論実践看護(小児・母性)	3年　前期　必修	1		野田みや子、水木幸子、水田恵理子	165
92	専門教育科目 −看護の統合と実践	111092	災害看護活動実践看護	3年　前期　必修	1		藤丸郁代、野田みや子、水木幸子、水田恵理子	167
93	専門教育科目 −看護の統合と実践	111093	シミュレーション実践看護(基礎)	3年　前期　必修	1		原田英子、水木幸子	168
94	専門教育科目 −看護の統合と実践	111094	健康と運動実技(市民スポーツ教室実習)成人・老年	3年　後期　必修	1		永坂和子、柿原加代子、水田恵理子	169
95	専門教育科目 −看護の統合と実践	111095	癒しとタッチケア	3年　前期　選択		1	野田みや子	170
96	専門教育科目 −看護の統合と実践	111096	看護ゼミナールⅡ（ヒトの身体の理解）	1年　後期　必修	1		主担当：1年生担当教員、専任教員全員	171
97	専門教育科目 −看護の統合と実践	111097	看護ゼミナールⅢ（身体の変化の理解）	2年　後期　必修	1		主担当：2年生担当教員、専任教員全員	172
98	専門教育科目 −看護の統合と実践	111098	看護ゼミナールⅣ（看護･臨床の理解）	3年　前期　必修	1		主担当：3年生担当教員、専任教員全員	173
99	専門教育科目 −看護の統合と実践	111099	統合実習Ⅰ	3年　後期　必修	1		主担当：就職委員会、看護教員全員	175
100	専門教育科目 −看護の統合と実践	111100	統合実習Ⅱ	4年　前期　必修	2		主担当：4年生担当教員、専任教員全員	176
101	専門教育科目 −看護の統合と実践	111101	看護の統合と実践Ⅰ	4年　前期　必修	2		栃本千鶴、柿原加代子、専任教員全員	177
102	専門教育科目 −看護の統合と実践	111102	看護の統合と実践Ⅱ	4年　後期　必修	2		栃本千鶴、柿原加代子、専任教員全員	179
103	専門教育科目 −看護の統合と実践	111103	公衆衛生看護概論	2年　後期　必修	1		栃本千鶴	180
104	専門教育科目 −看護の統合と実践	111104	公衆衛生看護活動論	3年　前期　選択		1	栃本千鶴	181
105	専門教育科目 −看護の統合と実践	111105	健康教育論	3年　前期　選択		1	栃本千鶴、藤丸郁代、石井英子	182
106	専門教育科目 −看護の統合と実践	111106	看護研究Ⅰ	3年　前期　必修	1		夛喜田惠子	183
107	専門教育科目 −看護の統合と実践	111107	看護研究Ⅱ	4年　通年　必修	2		藤原奈佳子、専任教員全員	184

108科目　　130 単位　　うち選択 21 単位

実習科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111001				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護ゼミナールⅠ（早期体験学習）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	主担当：1年生担任、アドバイザー教員				多　職　種　連　携	○

講義概要

本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数グループで、教員との直接対話や医療現場の早期体験を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。看護職が社会で活躍する現場（病院、診療所、企業、行政，福祉施設）を見学体験して，卒業後に患者，同僚，地域社会との信頼関係を確立できるようになるために，相手の心理，立場，環境を理解するための基本的知識，技能，態度を修得する。また、看護学に対する学びの意欲を高めるとともに、SDGsへの関心を深める。

授業内容（到達目標を含む）

1. 大学で学ぶ目的を理解し、大学生としての基本的な知識・技術や態度、学修方法を説明できる。
2. 少人数グループで教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発すると共に、学生相互の親睦と連帯意識を高める。
3. 保健・医療・看護に関連するテーマ、SDGs関連の内容で、討論や早期体験を通して、関心あるテーマへの理解を深める。
4. 自分の考えを人に伝えることができ、また各自の考えとは異なる意見を受け止め、自分の考えを深める。
5. この科目での学びをレポートにまとめることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. この科目は本学での導入科目であり、主体的に学修する態度を身につけるためには積極的に参加する。
2. テーマは、学生の希望を優先するが、人数のアンバランスが生じたときには各担当教員の指示に従う。
3. 演習成果発表のためのプレゼンテーション等の資料作成は、グループメンバーが協力して行う。
4. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行うことを原則とする。

教材

テキスト「知へのステップ 大学生からのスタディ・スキルズ」(第5版)学習技術研修会編、くろしお出版、1,980円(税込)
参考図書「スタディスキルズ・トレーニング(改訂版)大学で学ぶための25のスキル」吉原恵子他、実教出版、1,320円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業の可否
第1回	科目ガイダンス、自己紹介 スタディスキルとは何か SDGsについて 大学生活、社会生活におけるマナー （教務委員）	【予習】第1章(pp3～14)、第2章（pp17～28）を読み、大学生として何をどのように学修するのかを200字程度にまとめ、更に2分程度の自己紹介文を作成する。 【復習】配布資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	**必1A1**	可
第2回	①図書館の利用方法　（図書館司書） ②文献検索方法、情報処理室利用方法 （教務委員） ①②は半分ずつの人数に分かれて実施する	【予習】第5章(pp57～75)図書館利用方法、第6章(pp76～101)文献検索方法を読み、内容を200字程度にまとめる。 【復習】配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字枚程度にまとめる。	**必7D3**	可
第3回	担当教員ごとのグループに分かれ、関心のある保健･医療･看護に関連するテーマについて発表し、意見交換　（アドバイザー教員）	【予習】第3章（pp29～41）を読み、興味・関心のあるテーマについて自己学習し、200字程度にまとめる。グループで取り組むテーマを決定する。 【復習】意見交換で出された内容を踏まえ、関心のあるテーマに関する内容を充実させる。	**必7C4**	可
第4回 ～ 第7回	選択したテーマについて、ゼミナール形式でディスカッションを重ねる。毎回の進め方は、学生主体で進め、決定したテーマについて深く探求していく。 1.選択したテーマとSDGsとの関連 2.文献の整理・要約 3.ワープロソフトの活用、レポートの作成 4.プレゼンテーションソフトの活用 5.カンファレンスの進め方 6.体験学習に向け、挨拶、意見の述べ方の復習 （アドバイザー教員）	【予習】レポート作成の基本、Wordによる文書作成、Power Pointの活用方法について、自己学習した内容を毎回200字程度にまとめる。 【復習】演習によって新たに学んだ内容を、毎回200字程度にまとめる。 ※演習及び早期体験学習によって学んだ内容を各自の担当発表資料に盛り込む。	**必7C4**	不可
第8回	各グループ別学びの成果発表会（1） （アドバイザー教員）	【予習】第12章を読み、プレゼンテーションの方法を工夫し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定の様式に沿って評価（自己評価･他者評価）する。なお、配布資料を予め読み込む。発表会の司会、書記、タイムキーパー等は、発表以外のグループがその役割を担当する。 【復習】各発表グループ発表の評価（長所・短所）をそれぞれ200字程度にまとめる。	**必7C4**	不可
評価方法 評価基準	講義・演習への参加状況（文献検索、討論、まとめ、発表）：50%、課題レポート50%により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			○	◎		20 %
宿題・授業外レポート			○	○		10 %
授業態度･授業への参加度			○	◎		15 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	20 %
演　　習	文献検索、討論		◎	◎	○	35 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

学習相談・支援体制

受講者のレディネス･理解度･到達目標に合わせ集団又は個別に演習を進めていきます。相談希望の方はメールまたは直接研究室へ来てください。

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111002				ケア・スピリット	○
授業科目名	情報科学				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、國澤英雄				多　職　種　連　携	

講義概要

情報通信における技術発達によって、私たちが日々アクセス、または受け取る情報の質が、私たちの選択や行動を大きく左右している。表現の自由や知る権利を享受しつつ、適切に情報を収集、選択し、取り扱うことが重要である。講義ではメディア・情報リテラシー（Media Information Literacy: MIL）の概念、医療従事者として個人情報とプライバシーの取り扱いについて学び、グループワークを通して理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

以下の項目を到達目標としてMILと、医療従事者として個人情報の取り扱いに関する講義とグループワークを行う。
1)メディア・情報リテラシーについて基本的な理解を獲得する。
2)情報モラルやマナーの知識を獲得し、実践できるようになる。
3)医療情報としての個人情報の取り扱いを理解し、実践できるようになる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義で出した課題は、講義期間中に完成し、グレクサに提出すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	情報科学：授業の進め方、学習支援ツール・グレクサの活用説明	復習180分：講義のまとめを300字程度にまとめ、グレクサ内の該当場所に提出する。		可
第2回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー①　考え方、情報の信頼度	予習60分：友達と食事をする店を探します。ネットでどう探索するか考えをまとめる。 復習120分：講義を踏まえて情報検索の注意や対策を300字程度にまとめる。		可
第3回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー②　著作権、肖像権	復習180分：SNSで著作権と肖像権の扱いについてそれぞれ300字程度にまとめる。		可
第4回	インターネットリテラシー・デジタルリテラシー③　フェイクニュースとデマ、ヘイトスピーチ	復習180分：講義のまとめを300字程度にまとめる。		可
第5回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー④　Chat-GPT	復習180分：講義のまとめを300字程度にまとめる。		可
第6回	医療従事者としての個人情報の取り扱い	復習180分：講義で視聴したテーマについて、個人情報の漏洩と自分の対策を500字程度にまとめる。	看統1D1	可
第7回	医療従事者としての個人情報の取り扱い グループワーク	復習180分：グループワークした内容について、それぞれ200字程度にまとめる。	看統1D1	可
第8回	医療従事者としての個人情報の取り扱い③ グループワーク発表、講義の総括	復習180分：他のグループワークの内容について、それぞれ200字程度にまとめる	看統1D1	可

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
復習課題		◎	◎	◎		30 %
課題レポート		◎	◎	◎		40 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		30 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

国内外でICT（情報通信技術）を活用した保健医療活動（公衆衛生：感染症予防啓発）を実践している。

学習相談・支援体制

研究日（木曜）以外の平日。昼休み対応可。事前にメールで連絡ください。連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111003				ケア・スピリット	○
授業科目名	情報科学の実践				実 践 的 理 解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、國澤英雄				多 職 種 連 携	

講義概要

汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上する。リスク管理や情報倫理を理解しつつインターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を習得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。PCを用いた情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT)の修得を基本的な目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

情報処理演習室（7号館3階）でコンピューター(PC)の使い方を演習する。受講生は実際にPCを使用しながら文章作成ソフト(Word)による文書やレポートの作成、表計算ソフト（Excel）を用いた表計算やデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(Power Point)を使ったスライドの作成を演習する。保健統計や医学検査等のデータを活用して集計・グラフ作成に取り組み、各自がレポート課題を完成させることを目指す。
到達目標：
1)「読み、書き、計算」の道具としてPCを操作することができる。
2)情報通信ネットワークやマルチメディアを活用できる（メディアリテラシー能力）。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位習得には約15時間の授業時間以外の学習が必要である。講義ごとに課題を提示するので、講義期間中に課題を完成し、提出すること。
2/3以上の出席がない場合は評価を受ける権利が得られず、単位取得が不可となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：演習室の使い方、授業の進め方などの説明　（高久）	本学での情報処理に関するガイダンスを行う。演習室のPCやインターネットの利用方法について学ぶ。 予習60分：学生便覧の施設の利用：情報科学演習室使用ルールについて熟読する。復習時間：60分		可
第2回	コンピューターとネットワークの基本機能と操作　（高久）	PCのオペレーションシステム（OS）やインターネットの仕組み等、基本機能と操作を学ぶ。復習時間：60分		可
第3回	ワープロソフトの演習1　（高久）	Wordの基本機能を学ぶ。復習60分 日本語や英語で文字入力、図や表の作成・挿入等基本操作を用いる。予習・復習時間を使って課題を作成し、完成物をグレクサに提出する。		
第4回	ワープロソフトの演習2　（高久）			
第5回	プレゼンテーションソフトの演習1　（高久）	Power Pointの基本機能を学ぶ。復習60分 保健医療情報データをもとに、アニメーション機能や特殊効果などを用いて、スライド(文章・表・グラフの挿入)を作成し、完成物をグレクサに提出する。		
第6回	プレゼンテーションソフトの演習2　（高久）			
第7回	プレゼンテーションソフトの演習3　（高久）			
第8回	データ分析の準備　（國澤）	データの収集、標本数と標本サイズ。グラフによる可視化、ピポットテーブルの利用。グレクサによる課題の送付する。復習60分		
第9回	データの特質の分析（分布と代表値）　（國澤）	Excelを使った度数分布表計算。順序尺度と名義尺度。平均値・中央値・最頻値とその性質。グレクサにより課題を送付する。復習60分		
第10回	データの特質の分析（散布図）　（國澤）	Excelを使った分散と標準偏差計算。四分位数・四分位範囲、箱ひげ図・外れ値、平均情報量。グレクサにより課題を送付する。復習60分		
第11回	変数どうしの関係（相関係数）　（國澤）	Excelを使った相関係数の計算。相関係数を求める計算式の意味。順位相関の計算とその意味。グレクサにより課題を送付する。復習60分		
第12回	変数どうしの関係（回帰分析）　（國澤）	Excelを使った単回帰分析・重回帰分析の計算。決定係数、多重共線性の意味。グレクサにより課題を送付する。復習60分		
第13回	母集団の特質　（國澤）	Excelを使った確率分布の計算。二項分布・正規分布・超幾何分布・ポアソン分布・他の理解。グレクサにより課題を送付する。復習60分		

第14回	根拠ある分析について　（國澤）	Excelを使った統計的検定。二項検定・平均値の検定・分散の検定・分散の差の検定。グレクサにより課題を送付する。復習60分		
第15回	順序尺度や名義尺度の検定　（國澤）	Excelを使った中央値の検定、χ2検定、独立性の検定、正規性の検定。グレクサにより課題を送付する。復習60分		

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	◎		30 %
宿題・授業外レポート		○	○		60 %
授業態度･授業への参加度		○	○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表					
演　習　文献検索、討論					
補　足　文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

高久：国内外でICT（情報通信技術）を活用した保健医療活動（公衆衛生：感染症予防啓発）を実践している。
國澤：統計関係や医療関係の学会で統計的手法の発表。国内トップ企業と、統計手法の研究会を設けている。

学習相談・支援体制

高久：研究日（木曜日）以外の平日、昼休みも対応します。連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp
國澤：メールで対応します。連絡先　h-kunisawa@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111004				ケア・スピリット	
授業科目名	基礎統計学				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	國澤英雄、高久道子				多　職　種　連　携	

講義概要

統計は地域集団の特徴を把握し活用する学問である。授業では保健統計に焦点をあてて、保健・医療データをより的確に処理する統計学の基礎を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

保健医療データの統計処理を理解するために必要な基本統計学、保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する比較検定を学習する。
到達目標：
1）統計学の基本的な考え方を説明できる。
2）分析に対して適切な検定方法を判断することができる。
3）分析結果の意味を考察できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位を修得するにあたり、約60時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要であり、講義配布資料の内容を教科書と確認し、学習すること。10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

教材

教科書：指導教授作成のテキスト「基礎統計学」を販売する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	医学データの整理１： ヒストグラム、平均、分散、標準偏差	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第2回	医学データの整理２： 標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第3回	医学データの整理３： 散布図、相関係数、回帰直線	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第4回	統計学推論推論の基礎１： 正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第5回	統計学的推論の基礎２： 仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第6回	統計学的推論の基礎３： 標準正規分布、カイ二乗分布、ｔ分布、F分布	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7回	平均値に関する推論： 正規母集団の母平均μに関する推定、二つの母平均の差の検定	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論１： 相関係数の検定と信頼区間	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論２： 回帰係数の検定と信頼区間	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第10回	頻度の関する推論１： Proportionとrate、母ｐに関する推定、2×2分割表のχ2検定	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	頻度の関する推論２： Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第12回	頻度の関する推論３： 罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	生存時間に関する推論： 生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第14回	実験計画法-分散分析１： 一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	実験計画法-分散分析２： 完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法	予習：該当する章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分		
評価方法 評価基準	演習問題の成績（40%）、定期試験成績（60%）			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。

B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。

C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。

D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（40%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎				20 %
宿題・授業外レポート		◎				20 %
授業態度･授業への参加度						
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

國澤：総合病院で指導している経験を基に、社会で役立つ事例中心の指導を行う。

学習相談・支援体制

國澤：メールで対応します。H-kunisawa@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力 ○
授業コード	111005				ケア・スピリット
授業科目名	問題解決法				実　践　的　理　解
配当年/学期	1年　後期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム
担当教員	栃本千鶴				多　職　種　連　携

講義概要

現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中で自らのキャリアをどのように描いていくのか。壁にぶつかった時にどのように課題を乗り超えて行くのかなど、主体的に考え、決断し、行動していくための思考力の養成が鍵となる。問題解決法では、課題や問題を解決していくための具体的な思考法や行動、技法を扱い、課題の整理と分析、解決に向けたプランの作成と実践と評価、逆境からの回復法について教授する。また、さっまざまなな実践例、ワークを通して自己の思考の傾向を理解し、効果的な問題解決について考えていく。

授業内容（到達目標を含む）

心理学における自己理解のあり方、問題解決技法について講義し、個人ワークを通して自己理解を深め、問題解決能力を高めていくための思考のあり方について考える。
１．古典的な心理学者たちの自己のあり方について理解することができる。
２．問題解決能力を高めていくための思考法、行動について理解することができる。
３．人生の中で遭遇する課題や問題を設定し、解決に向けた思考法を理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本講義は主体的に参加し、考えることが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、予習及び復習して臨むこと。講義時に配布するリアクションペパーには、内容のフィードバック、意見や質問を記入して提出する。

教材

テキスト・愛する人へのケアのかたちー医療従事者の家族看護体験、サンライズ出版、栃本千鶴著編、2023年、1760円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	自己とは何か：フロイト、ユング、アドラーの考える自己	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	1B2	可
第2回	問題解決能力：問題解決とは。 問題解決に必要な思考	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	3C4	可
第3回	SAT療法とは。気質、コーチングスキル	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4A1	不可
第4回	SAT療法の事柄・事柄・気持ちの明確化、	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4A2	不可
第5回	SAT療法の行動目標化	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4B3	不可
第6回	認知行動療法の自動思考の意識化	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4B4	不可
第7回	認知行動療法の自動思考の意識化、適応的思考	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4B4	不可
第8回	カウンセリングと問題解決	予習：事前資料内容を確認する。 復習：配布資料を読み返す 予習時間：120分、復習時間：120分	4B1	不可

評価方法 評価基準	授業への参加度（10%）、発表（10%）、授業内レポート（20%）、課題レポート（60%）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	◎	○		20 %
宿題・授業外レポート		○	◎	○		60 %
授業態度･授業への参加度		○		○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	○		10 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

保健所で約20年保健師として地域の精神保健福祉活動をしてきています。精神保健福祉士やヘルスカウンセラー中級資格を有し、職場のメンタルヘルス支援に活かしています。それらの活動を踏まえ、より実践的に理解できるよう教授します。

学習相談・支援体制

火曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。
できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111006				ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅰ（基礎）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、Lisa Mandziak				多　職　種　連　携	

講義概要

グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の４技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。
「英語Ⅰ」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いて、医療現場ですぐに使える英語コミュニケーション力を身に着けていく。

授業内容（到達目標を含む）

1.医療現場で使われている単語から専門的な医療英語単語など語彙力を修得する。
2.単語数の修得をもとに、医療現場で使える英語力・コミュニケーション力を養う。
3.英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

英語への積極的参加が評価の大きいポイントになる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習.復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼンテーション、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

適宜、プリント等を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の進め方オリエンテーション、英語で自己紹介・他己紹介	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第2回	Vital signs ＆ counting numbers バイタルチェック	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第3回	Vital signs ＆ counting numbers バイタルチェック	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第4回	See doctors: department and specialists 診療科と専門家	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第5回	See doctors: department and specialists 診療科と専門家	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第6回	Where is Pediatrics? 診療科の案内	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第7回	Where is Pediatrics? 診療科の案内	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第8回	Where is Pediatrics? 診療科の案内：応用編	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第9回	Where is Pediatrics? 診療科の案内：応用編	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第10回	Where is Pediatrics? 診療科の案内：応用編	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第11回	Where is Pediatrics? 診療科の案内：応用編	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第12回	Pain scale：痛みの種類と尺度	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第13回	Pain scale：痛みの種類と尺度づくり	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第14回	Pain scale：痛みの種類と尺度づくり	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第15回	Pain scale：痛みの種類と尺度づくりの発表	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		25 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		25 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		25 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		25 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

Lisa：ネイティブスピーカーによる指導でコミュニケーション力を高める授業を行います。
高久：海外生活を通して培ったコミュニケーション力を皆さんに伝授したいです。

学習相談・支援体制

Lisa：英語クラス実施日の休憩中に対応できます。
高久：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。　連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111007				ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅱ（応用・医学英語）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、Lisa Mandziak				多　職　種　連　携	

講義概要

グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の４技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。
「英語Ⅰ」に引き続き、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いて、医療現場ですぐに使える英語コミュニケーション力を身に着けていく。

授業内容（到達目標を含む）

1.医療現場で使われている単語から専門的な医療英語単語など語彙力を修得する。
2.単語数の修得をもとに、医療現場で使える英語力・コミュニケーション力を養う。
3.英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習.復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

適宜、プリント等を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	Body parts and Movement:身体の部位と動きを学ぶ	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第2回	Body parts and Movement:身体の部位と動きを学ぶ	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第3回	Body parts and Movement:身体の部位と動きを学ぶ	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第4回	Body parts and Movement:身体の部位と動きを学ぶ	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第5回	英語deYoga	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第6回	英語deYoga	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第7回	英語deYoga	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第8回	英語deYoga	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第9回	問診票でコミュニケーション	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第10回	問診票でコミュニケーション	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第11回	入院病棟でのコミュニケーションシナリオ作成	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第12回	入院病棟でのコミュニケーションシナリオ作成	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第13回	入院病棟でのコミュニケーションシナリオ作成	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第14回	入院病棟でのコミュニケーション発表	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可
第15回	入院病棟でのコミュニケーション発表	予習120分、復習120分 授業で出た新しい単語や英文を学習する。		可

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		20 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		20 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		40 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

Lisa：ネイティブスピーカーによる指導でコミュニケーション力を高める授業を行います。
高久：海外生活を通して培ったコミュニケーション力を皆さんに伝授したいです。

学習相談・支援体制

Lisa：英語クラス実施日の休憩中に対応できます。
高久：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。　連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111008				ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅲ（実践）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	3年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子				多　職　種　連　携	

講義概要

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の４技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

1）医療系の英語と実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。
2）看護研究における海外の先行研究論文を読み解くノウハウを修得する。
3）TOEIC400～500点（英検4～3級レベル）を目指す。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。
本学の海外短期研修に参加した学生については、海外研修先の語学学校による修了証明書の提出と海外研修報告会で発表することでこの科目の単位を認定する。

教材

適宜資料を配布するが、TOEICの演習では最新版の過去問題集を各自購入すること。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の進め方オリエンテーション、目標設定	予習：提示された国際保健HPのニュースを読解する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	外国籍の外来患者とのコミュニケーション：診療科・院内での案内ロールプレイ1	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統3B1	
第3回	外国籍の外来患者とのコミュニケーション：診療科・院内での案内ロールプレイ2	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統3B1	
第4回	外国籍の外来患者とのコミュニケーション：診療科・院内での案内ロールプレイ3	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統3B1	
第5回	外国籍の外来患者とのコミュニケーション：診療科・院内での案内ロールプレイ4	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統3B1	
第6回	看護研究に向けて：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた1	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7回	看護研究に向けて：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた2	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	看護研究に向けて：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた3	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	看護研究に向けて：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた4	予習：英文論文または国際保健関連記事を選び、まとめる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第10回	Let’s challenge!　TOEIC Preparation 1	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第11回	Let's challenge! TOEIC Preparation 2	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第12回	Let's challenge! TOEIC Preparation 3	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	Let's challenge! TOEIC Preparation 4	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	Let's challenge! TOEIC Preparation 5	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	Let's challenge! TOEIC Preparation 6	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
評価方法 評価基準	小テスト・課題50%、授業態度25%、発表25%より評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	25 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		25 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎	◎	25 %
演　習	文献検索、討論	◎	◎	◎	◎	25 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

皆さんが関心ある健康課題や看護ケアについて世界のスタンダードを知るために英文論文の読解にチャレンジして一緒に学びましょう。

学習相談・支援体制

高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。　連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111009				ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅳ（英語文献講読）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	4年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子				多　職　種　連　携	

講義概要

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の４技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。

授業内容（到達目標を含む）

1）医療系の英語とともに、実践的な英語力（会話、リスニング、読解）を身につける。
2）TOEIC400～500点（英検4～3級レベル）を目指す。
3）看護研究において海外の先行研究を読み解くノウハウを修得する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

英語IIIを履修していること。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。
本学の海外短期研修に参加した学生については、海外研修先の語学学校による修了証明書の提出と海外研修報告会で発表することでこの科目の単位を認定する。

教材

適宜資料を配布するが、TOEICの演習では最新版の過去問題集を各自購入すること。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の進め方オリエンテーション、目標設定	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	外国籍の入院患者とのコミュニケーション：朝のバイタルチェック・ロールプレイ1	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第3回	外国籍の入院患者とのコミュニケーション：朝のバイタルチェック・ロールプレイ2	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第4回	外国籍の入院患者とのコミュニケーション：朝のバイタルチェック・ロールプレイ3	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第5回	外国籍の入院患者とのコミュニケーション：朝のバイタルチェック・ロールプレイ4	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第6回	急性期看護で使うコミュニケーション	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第7回	慢性看護で使うコミュニケーション	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第8回	在宅看護で使うコミュニケーション	予習：提示課題に取り組む 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人4A2 看統3B1	
第9回	看護研究：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた1	予習：自分の関心ある論文をピックアップし、読解する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第10回	看護研究：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた2	予習：自分の関心ある論文をピックアップし、読解する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	看護研究：英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた3	予習：自分の関心ある論文をピックアップし、読解する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第12回	看護研究:英文論文/国際保健関連記事の読解・まとめかた4	予習：自分の関心ある論文をピックアップし、読解する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	Let's challenge! TOEIC Preparation 1	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	Let's challenge! TOEIC Preparation 2	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	Let's challenge! TOEIC Preparation 3	予習：TOEIC過去問題等に取り組む。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
評価方法 評価基準	小テスト・課題30%、授業態度30%、発表40%より評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。

B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。

C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。

D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		30 %
演　習	文献検索、討論	◎	◎	◎		40 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

臨地実習での経験を踏まえて、外国人患者さんに必要なコミュニケーション力をつけていきましょう。

学習相談・支援体制

高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。　連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111010				ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅰ（作文、論文、発表）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	伊藤亜希子				多　職　種　連　携	

講義概要

日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目の目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史の分野から日本語の特徴を概説し、日本語について理解を深める。普段使っている自分の言葉について意識を高め、看護学生としての必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。さまざまなテーマの分析を通して運用力を高める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。4回の小レポートの課題がある。

教材

テキストなし
参考図書「日本語概説」岩波書店

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	日本語概説、授業内容の説明	配布資料を読み直す、自分自身の使う日本語について振り返る、小レポート（2時間）		可
第2回	日本語の発声と発音１　発声のしくみ	配布資料を読み直す（1時間）		可
第3回	日本語の発声と発音２　ＩＰＡ	配布資料を読み直す（1時間）		可
第4回	日本語の語彙と表現１　語彙のしくみ	配布資料を読み直す、自分の使う語彙について振り返る（2時間）		可
第5回	日本語の語彙と表現２　語彙の運用	配布資料を読み直す、人を傷つける言葉、自分の言葉遣いについて考える（2時間）		可
第6回	日本語の語彙と表現３　敬語と意識	配布資料を読み直す、普段の敬語の使い方について振り返る（2時間）		可
第7回	日本語の語彙と表現４　非言語による表現	配布資料を読み直す、小レポート（3時間）		可
第8回	日本語の語彙と表現５　まとめ	配布資料を読み直す（1時間）		可
第9回	日本語の文法１　　品詞と組み立て	配布資料を読み直す、高校までに学習した品詞、活用について振り返る（2時間）		可
第10回	日本語の文法２　　配慮と丁寧さ	配布資料を読み直す、これまでに書いたLINE、メールについて振り返る、小レポート（3時間）		可
第11回	日本語の文字１　　表記上の決まり事	配布資料を読み直す、自分の普段の文章、これまでの自分の文章の書き方について振り返る（2時間）		可
第12回	日本語の文字２　　表記上の決まり事	配布資料を読み直す（1時間）		可
第13回	日本語の歴史的受容　　音声と文字の歴史	配布資料を読み直す、日本語表記の多様さを歴史的に振り返る（2時間）		可
第14回	日本語の歴史的受容　　日本語の変化	配布資料を読み直す、若者言葉、LINEで使う言葉、ネット用語などについて自分の使用を振り返る、小レポート（3時間）		可
第15回	日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史についてのまとめ	配布資料を読み直す（3時間）		可
評価方法 評価基準	授業の参加状況20%、小レポート20%、最終試験60%により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S（90−100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A（80− 89点）：基本的な目標を十分に達成している。 B（70−79 点）：基本的な目標を達成している。 C（60−69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。 D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		25 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		25 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義後に対応する。

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111011				ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅱ（討論、読解、分析）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	2年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	伊藤亜希子				多　職　種　連　携	

講義概要

コミュニケーション力の基礎として、自己の考えを論理的に明確に、相手に表現する能力が求められているが、それらの能力の育成のために、問題意識を持つこと、自分の意見を持ち、情報を選択し、整理する能力を高め、論理的にものを考えることが求められている。さらに、相手（他者）の立場に立って考えることができるためにはどのようにすることが必要なのか、幅の広いものの考え方、見方をするようにして、他者の発言を注意深く聞くようになり、ひいては協調性を養うことができることを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

前半では主に、読解力、表現力を身につけるために縮約・要約文を作成、要点を抑えてメモを取るなどの練習を行う。後半では論理的な文章を書くための小論文作成を行う。文章を書くための基本事項、感想文と小論文の違い、意見を論理的に書くための方法など、適宜解説をする。さまざまな文章を書くことを通して、看護学生として必要な日本語運用力を身につける。また、学生同士で書いたものを読み合い、評価できるようになる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。授業内に作成したものは毎回提出し、翌週の授業内でフィードバックする。

教材

テキスト　特になし
参考図書　特になし

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業内容の説明	配布資料を読み直す（1時間）		
第2回	文章の書き方１　語彙と表記	配布資料を読み直す、適切な表記、言葉遣いについて考える（2時間）		
第3回	文章の書き方２　文法と文体	配布資料を読み直す、分かりにくい文章について考える（2時間）		
第4回	要点をおさえる、メモを取る	配布資料を読み直す（1時間）		
第5回	縮約・要約とは　縮約・要約文作成１	配布資料を読み直す（1時間）		
第6回	縮約・要約文作成２	配布資料を読み直す（1時間）		
第7回	縮約・要約文作成３	配布資料を読み直す（1時間）		
第8回	縮約・要約文発表	配布資料を読み直す（2時間）		
第9回	感想文とは　感想文作成	配布資料を読み直す（1時間）		
第10回	言葉を説明する	配布資料を読み直す、国語辞典の記述を読む（2時間）		
第11回	小論文を書くための表現	配布資料を読み直す、次回テーマの内容について考える（2時間）		
第12回	小論文１	次回テーマの内容について調べる・構想を考える（2時間）		
第13回	小論文２	次回テーマの内容について調べる・構想を考える（2時間）		
第14回	小論文３	次回テーマの内容について調べる・構想を考える（2時間）		
第15回	小論文発表	配布資料を読み直す、レポートの内容について調べる・考える（3時間）		
評価方法 評価基準	提出物50%、期末レポート30%、授業態度20%により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="8">評価方法・評価基準</td><td rowspan="8">【評価基準】
S（90−100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80− 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70−79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60−69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>50 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td><td>30 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
<tr><td colspan="8">実務経験のある教員による授業内容</td></tr>
<tr><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="8">学習相談・支援体制</td></tr>
<tr><td colspan="8">講義後に対応する。</td></tr>
</table>

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111012				ケア・スピリット	○
授業科目名	手話				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　後期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	亀井明子				多　職　種　連　携	

講義概要

「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいのかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

手話及び聴覚障害に関する講義

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

テキストの指定箇所を読んでから講義を受けること。本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。DVDが視聴できる環境でであること。

教材

テキスト　「しくみが身につく手話１　入門編《DVD付き》」　白水社（2022/8/18）前川和美　下谷奈津子　平英司

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・オリエンテーション ・聴覚障害の基礎知識	予習：手話や聴覚障害者についてイメージを書く。 復習：講義資料を読み直し、整理する。		
第2回	・聴覚障害者とコミュニケーション ・テキスト1.自己紹介	予習：聴覚障害者のコミュニケーション方法を考える。 復習：講義資料を読み直し、実技の復習をする。		
第3回	・コミュニケーションと言語 ・テキスト2.質問しよう	予習：日常の自分のコミュニケーション方法を見直す。 復習：講義資料を読み直し実技の復習をする。		
第4回	・手話の歴史Ⅰ ・テキスト3.人について尋ねる	予習：手話は何時ごろからあるか考えたり調べる。 復習：講義資料を読み直し、実技の復習をする。		
第5回	・手話の歴史Ⅱ ・テキスト4.学年を尋ねる	予習：テキストP.97～97の数字の練習をする。 復習：テキスト第４課の復習・講義資料を読み直す		
第6回	・手話言語学 ・テキスト5.兄弟について話す	予習：「日本手話」について調べる。 復習：テキスト第５課の復習・講義資料を読み直す。		
第7回	・ろう者と文化 ・テキスト6.待ち合わせをする	予習：「ろう文化」について調べる。 復習：テキスト第６課の復習・講義資料を読み直す。		
第8回	・ろう者とスポーツ ・テキスト7.何をしているのか尋ねる。	予習：「デフリンピック」について調べる。 復習：テキスト第７課の復習・講義資料を読み直す。		
第9回	・聴覚障害者と医療 ・テキスト8.否定する	予習：聴覚障害者が病院を受診時に困ることを考える。 復習：テキスト第８課の復習・講義資料を読み直す。		
第10回	・聴覚障害者と災害 ・テキスト9.日にちを相談する	予習：災害時に聴覚障害者が困ることを考える。 復習：テキスト第９課の復習・講義資料を読み直す。		
第11回	・盲ろう者 ・テキスト10.「したこと」「していること」	予習：「盲ろう者」について調べる。 復習：テキスト第10課の復習・講義資料を読み直す。		
第12回	・実技復習	予習：名前以外の項目を入れた自己紹介の練習をする。 復習：自己紹介、テキストの実技を繰り返し練習する。		
第13回	・ろう者と話そう	予習：ろう者と会話できるように練習する。 復習：ろう者と会話した感想、講義で学んだ手話や聴覚障害についてレポートする。		
第14回	・手話での会話練習 ・筆記試験の準備学習	予習：学んだ手話で会話できるように練習する。 復習：講義資料、テキストで筆記試験準備をする。		
第15回	最終試験（実技試験、および筆記試験）	予習：テスト範囲の手話を再確認、練習する。 復習：試験内容をテキストや講義資料で復習する。		

評価方法 評価基準	授業の参加態度10%、レポート30%、最終試験60%により評価する。

**評価方法
評価基準**

【評価基準】

S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。

B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。

C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。

D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
授業内レポート		○	○	○	◎	30 %
最終試験		○	◎	○	○	60 %
授業態度･授業への参加度				◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

厚生労働省公認手話通訳士。高等学校、専門学校での手話指導経験10年。県内外での手話通訳活動や手話講座での指導を行う。

学習相談・支援体制

講義時間終了後に可能な限り対応する。

講義科目

科目区分	基本教育科目-表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111013				ケア・スピリット	
授業科目名	中国語Ⅰ				実 践 的 理 解	
配当年/学期	2年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	于海				多 職 種 連 携	

講義概要

中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。

授業内容（到達目標を含む）

中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

教材

テキスト　プリント配布
参考図書　随時紹介する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する		可
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する		可
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する		可
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する		可
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する		可
第6回	中国語の語順	語順の３原則を詳説する		可
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する		可
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1)を説明する		可
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティーについて詳説する		可
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する		可
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する		可
第12回	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する		可
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する		可
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する		可
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する		可

評価方法
評価基準　授業態度30%、筆記試験70%により評価する。

評価方法
評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		80 %
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度					○	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義後に対応する。

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111014				ケア・スピリット	
授業科目名	中国語Ⅱ				実 践 的 理 解	
配当年/学期	2年　後期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	于　海				多 職 種 連 携	

講義概要

「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

教材

テキスト　プリント配布
参考図書　随時紹介する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①		可
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②		可
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③		可
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文		可
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文		可
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①		可
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②		可
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①		可
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②		可
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③		可
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④		可
第12回	中国語の表現⑲	基本単語（13）と臨床会話文⑤		可
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥		可
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦		可
第15回	中国語の表現㉒	まとめ		可
評価方法 評価基準	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。			

**評価方法
評価基準**

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		80 %
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度					○	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義後に対応する。

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111015				ケア・スピリット	
授業科目名	自己管理と社会規範（性教育含む）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子、野田みや子、高久道子				多　職　種　連　携	

講義概要

日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。

授業内容（到達目標を含む）

1．大学生における自身を見極めることができる。
2．社会人・職業人としての将来像を描き個性を伸展させることができる。
3．大学生として、医療従事者として、性教育についての知識を深め、実践ができる。
4．より豊かに、より高度に、一貫性をもって創造的に自分を完成させる生き方の出来るスキルを磨くことを目標とする。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

看護学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

指定教科書はなし、講義資料を随時配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	自己理解・自己管理能力の開発Ⅰ（看護職としての事例から自己管理を理解する） （石井）	予習120分：初等・中等教育を通じた自分自身のふりかえりを通じて、今までの目標や夢、考え方や大切にしてきたことなどを再考する。　復習 120分：高校までの将来目標を再考し5項目の記述をする。		可
第2回	大学生のための性教育① 身体の仕組みを知る（野田）	予習120分：性的発達に伴う身体の仕組みについてまとめる。 復習120分：講義の学びをまとめる(500字程度)	母性3A3	可
第3回	大学生のための性教育② 性に関わる関係、暴力、人権（野田）	予習120分：避妊、デートDV、ジェンダー役割などについてまとめる。 復習120分：講義の学びをまとめる(500字程度)	母性3B5	可
第4回	大学生のための性教育③ 性の多様性と性行動（高久）	予習120分：高校まで学んだ性教育について振り返り、知識をまとめ記述する（300字程度）。 復習120分：講義の学びをまとめる(300字程度)	母性2A2	
第5回	大学生のための性教育④ 性行動と性感染症の予防行動 （高久）	予習120分：左のQRコードにアクセスし読む。 復習120分：4回と5回を通して自分の性に対する考え方がどう変わったかまとめて課題レポートする（1000字程度）	母性2A3、 母性2A4	
第6回	大学生のためのネットリテラシー SNSの情報自己管理 SNS等を活用した相談事業（吉崎）	予習120分：SNSで話題となった事例を調べて、何が問題だったのかを考察する。（200字程度） 復習120分：SNSの上手な活用について、考えを課題レポート（800字程度）にまとめる。		
第7回	大学生のための社会人マナー 討議における他者への理解（吉崎）	予習120分：配布資料を熟読する。 復習120分：ネットリテラシーと社会人マナーの学びを、課題レポート（2000字程度）にまとめる。		
第8回	自己管理能力：クレジットカード破産について 講義の総括（石井）	復習120分：クレジットカード破産と自己管理能力について課題レポート（2000字程度）を作成する。		

評価方法 評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容
野田：小学生～大学生への長年の性教育経験を活かし､｢性｣と｢生｣についてイメージできる講義展開をします。 高久：海外で実施してきた楽しくポジティブに学べる性教育を皆さんに共有します。 吉崎：ICT技術に関連した臨床・教育経験を活かし、学生に考えて欲しい社会人マナーを分かりやすく教授します。
学習相談・支援体制
各教員ごとに事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先　石井: e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp　　野田: e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp 　　高久: e-mail m-takaku@gifuhoken.ac.jp　　吉崎: e-mail s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力 ○
授業コード	111016				ケア・スピリット ○
授業科目名	哲学				実 践 的 理 解
配当年/学期	2年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム
担当教員	鷲見コト江				多 職 種 連 携

講義概要

西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考え従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。

教材

テキスト：指定しない。
参考図書：講義中に指示します。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	哲学とは	哲学の課題　あなたは今どこにいますか		可
第2回	愛智学としての哲学	哲学における愛とは・智とは		可
第3回	哲学と方法	学問の方法とは		可
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い		可
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは		可
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは		可
第7回	宇宙の歴史	物質誕生		可
第8回	ベルクソンの人間論	生命の創造的進化とは		可
第9回	現代の生命論・進化論	生命とは・生命進化とは		可
第10回	生命の進化と人類誕生	ホモサピエンス誕生		可
第11回	ベルクリンの人間論	知的社会的存在者としての人間とは		可
第12回	心的存在者としての人間論	心とは		可
第13回	社会的心的存在者としての人間	障害者の心とは		
第14回	自我と身体	人体とは		
第15回	医学と看護	看護とは		可

評価方法
評価基準：授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。

評価方法
評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		35 %
宿題・授業外レポート		○	◎	◎		50 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		5 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	◎		10 %
演　　習	文献検索、討論		○	◎		
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義後　10～15分間　非常勤講師控室

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力 ○
授業コード	111017				ケア・スピリット
授業科目名	他者配慮と信頼関係				実践的理解 ○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム ○
担当教員	柿原加代子				多職種連携

講義概要

人間と人間における関係性の形成は、良好な社会生活を送る上で重要であり、特にヒューマン・ケアリングを中核とした看護においては、患者と看護師との信頼関係の構築は不可欠である。
　本授業では、看護実践の基盤となる援助的人間関係形成の理論と技術を学ぶ。具体的には、対人関係における自己の傾向性（自己理解と他者理解）と援助的関係形成のためのコミュニケーションを理解し、看護場面で活用できる対人関係技法を演習で学習する。

授業内容（到達目標を含む）

1.人間関係の概念について理解する。
2.自己理解・他者理解を深める。
3.言語的コミュニケーション技術（傾聴・共感の技法）を効果的に活用することができる。
4.上記を考慮して、他者との信頼関係を形成することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

援助的人間関係形成について、具体的に理解するため,教科書及び授業で紹介する資料などで自己学習を行う。

教材

適宜紹介・講義資料として配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	人間関係の概念：人間関係の基本的意義、看護ケアにおける人間関係	予習：講義資料をよく読み理解して講義に望む 夏休み事前課題を取り組み講義に望む。 復習：講義で学んだこと、気づいたこと、今後の課題を200字以内でまとめる。	111105	可
第2･3回	自己理解・他者理解：ジョハリの窓、交流分析（エゴグラム）性格フィードバックの演習	予習：講義資料をよく読み理解して講義に望む。 復習：講義で学んだこと、気づいたこと、今後の課題を200字以内でまとめる。	111105	可
第４回	人間関係の基本技術：コミュニケーション(言語的コミュニケーション技法：受容・傾聴の技法（促し・繰り返しの演習）	予習：講義資料をよく読み理解して講義に望む。 復習：講義で学んだこと、気づいたこと、今後の課題を200字以内でまとめる。	111105	可
第5回	人間関係の基本技術：コミュニケーション(言語的コミュニケーション技法：共感、共感の演習	よく読み理解して講義に望む。 復習：講義で学んだこと、気づいたこと、今後の課題を200字以内でまとめる。	111105	可
第６回	人間関係とこころの健康	予習：講義資料をよく読み理解して講義に望む。 復習：講義で学んだこと、気づいたこと、今後の課題を200字以内でまとめる。	111105	可
第７回	グループワーク・グループワーク発表準備（本講義・演習での学び、気づき、今後の課題）	予習：講義・演習での学び、気づきについてまとめてグループワークに望む。 復習：グループの本講義・演習での学び、気づきについてパワーポイントにまとめ、発表の準備をする。	111105	可
第8回	グループ発表（本講義・演習での学び、気づき、今後の課題）	グループ発表における、学び、気づきについてまとめる。	111105	可
評価方法・評価基準				

評価方法 評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		10 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		30 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義科目

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111018				ケア・スピリット	
授業科目名	地域活動と社会貢献（ボランティア含む）				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	高久道子、小萱康徳				多　職　種　連　携	

講義概要

社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動である。なかでも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足などが活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、地域住民の様々な意向やニーズを把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されている。履修者は、質の高い看護活動をさらに深化させることにつながることを理解する。

授業内容（到達目標を含む）

変動する社会の中で、さまざまな地域活動の実際を通して、生命と健康を守る仕事の大切さを学ぶ。履修学生は地域で活動している団体を検索し、ボランティア活動を体験する機会としている。到達目標は以下とする。
1）東海地域で活動している様々な団体の活動と活動内容を通して自分のできる社会貢献を考える。
2）東海地域のニーズを把握して、積極的に社会貢献活動に取り組む。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義で出した課題は、講義期間中に完成し、グレクサに提出すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

随時講義資料を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	講義の進め方、ボランティアとの定義（高久）	復習120分：講義の学びを300字程度にまとめる。	健支5C3	可
第2回	グループワーク① ニーズのある地域・社会貢献活動の探索	予習120分：関心のあるボランティア活動をいくつか検索する。 関心のあるボランティア活動先を候補出しし、グループ分けする。 復習120分：ボランティア活動先の関心動機、何をしたいか、何が学べるか500字程度にまとめる。		
第3回	グループワーク②	予習120分、復習120分： グループごとのリサーチワークについての進捗状況を300字程度にまとめる。		
第4回	グループワーク③	予習120分、復習120分： グループの取り組みをパワーポイントにまとめていく。グループごとのリサーチワークについての進捗状況を300字程度にまとめる。		
第5回	グループ発表①	予習120分、復習120分： グループごとの活動状況について300字程度にまとめる。グループワークのまとめをパワーポイント等にまとめる		
第6回	グループ発表②	予習120分、復習120分： 他グループの発表について300字程度にまとめる。		
第7回	岐阜県赤十字血液センター訪問	予習120分：赤十字血液センターの取り組みについて 訪問の中で血液の仕組みや管理・運搬（通常時や災害時）、献血活動について学び体験する。 復習120分：訪問での学びを考察し感想300文字程度をグレクサに提出する	成人16D3	
第8回	岐阜県赤十字血液センター訪問		看統2A2	
評価方法 評価基準	参加態度20%、グループワーク30%、課題レポート50%で評価する			

評価方法 評価基準	**【評価基準】** **S**(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 **A**(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。 **B**(70-79 点)：基本的な目標を達成している。 **C**(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。 **D**(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		25 %
演　　習	文献検索、討論	◎	◎	◎		5 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

高久：国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊として海外ボランティアの貴重な経験を社会還元として伝えています。この講義でも皆さんにボランティア活動のノウハウを伝えます。

学習相談・支援体制

高久：研究日以外の平日、昼休みも対応します。連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp
小萱：メールで対応します。連絡先　y-kogaya@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111019				ケア・スピリット	○
授業科目名	現代の倫理				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	鷲見コト江				多　職　種　連　携	

講義概要

現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。

授業内容（到達目標を含む）

倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

テキスト　指定しない。
参考図書　講義中に指示します。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	倫理と道徳	倫理とは		可
第2回	倫理的判断	価値判断の方法		可
第3回	倫理的規則	道徳的法則とは		可
第4回	現代の倫理的課題Ⅰ	環境とは		可
第5回	現代の倫理的課題Ⅱ	SDGsとは		可
第6回	現代の倫理的課題Ⅲ	社会的問題とは		可
第7回	ホセ・ヒムカの倫理観	環境問題とは・幸福とは		可
第8回	アリストテレスの倫理学Ⅰ	幸福とは		可
第9回	アリストテレスの倫理学Ⅱ	善とは		可
第10回	デカルトの道徳	道徳の格率		可
第11回	育児と人権	虐待とは		
第12回	障害者の人権	障害者福祉とは		
第13回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは		
第14回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権		
第15回	医療倫理	医療倫理の歴史		可
評価方法 評価基準	授業の参加状況10%、学習課題４０%、最終試験またはレポート50%により評価する。			

評価方法
評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	◎	◎		40 %
宿題・授業外レポート		○	◎	○		50 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義後　15分間　非常勤講師控室

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111020				ケア・スピリット	
授業科目名	心理と行動				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　後期　選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	栃本千鶴　　野田みや子				多　職　種　連　携	

講義概要

心理学は、人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また行動科学はその心理学の手法を応用して、現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では、社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。

授業内容（到達目標を含む）

1. 社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的にとらえることができる。
2. 人の理解や対応に活かす力を身につけることができる。
3. 鍵概念である「発達」「動機づけ」「学習」「知的能力」「社会性」「不適応」「障害」が理解できる。
4. 評価や集団等の重要な概念を理解できる。
5. 自分自身の振り返り、将来の職場での自分のあり方のイメージ作り等ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。

教材

テキスト：系統看護学講座-基礎分野-、心理学（第6版）、医学書院、山村豊著、2017年、2,530円（税込）ISBN:978-4-260-02768-7
参考図書：生涯人間発達論（第3版）、医学書院、服部祥子著、2020年、2,310円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 対人援助職が心理学を学ぶ意義 心理学の概念と歴史　（栃本）	予習：指定参考図書に目を通す　(120分) 復習：心理学を学ぶ意義についてまとめる(120分)	1B1	可
第2回	学習の定義とその仕組み 行動の特性と行動分析学の基本的理解（栃本）	予習：指定参考図書に目を通す(120分) 復習：学習の定義と仕組みについてまとめる(120分)	3B1	可
第3回	オペラント条件付けの4つの基本パターン 行動随伴性の理解、随伴性ダイアグラムを用いた行動分析の実践　（栃本）	予習：指定参考図書に目を通す(120分) 復習：随伴性ダイアグラムを用いた行動分析を行う(120分)	3B２	可
第4回	記憶の理解 記憶の定義、記憶のプロセスと分類 記憶の特徴と忘却、記憶の重要性　（栃本）	予習：指定参考図書に目を通す(120分) 復習：記憶の分類、プロセスについてまとめる(120分)	3B3	可
第5回	パーソナリティの心理学的定義、パーソナリティの理論 パーソナリティの病理、心理検査　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：パーソナリティ理論についてまとめる(120分)	2G1	可
第6回	外界を理解する心の働き：知覚、外界を知覚するプロセス 感覚、知覚の特徴①視覚②聴覚　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：知覚の特徴についてまとめる(120分)	1B5	可
第7回	思考・言語・知能 思考と問題解決、言語とコミュニケーション、知能検査と知的障害　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：思考と言語の特徴についてまとめる(120分)	3A3	可
第8回	感情の諸相、感情の定義とその要素 感情のメカニズム　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：感情と言語の特徴についてまとめる(120分)	3A2	可
第9回	動機づけ：理論と実際　（野田）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：2つの動機づけ理論について、理解する(120分)	1B3	可
第10回	適応①不登校　（野田）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：不登校の問題について、理解する(120分)	1D4	可
第11回	適応②いじめ　（野田）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：いじめの防止方法についてまとめる(120分)	1B5	可
第12回	発達障害①：発達障害とは、事例　（野田）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：発達障害の諸相についてまとめる(120分)	5.00E+06	可

第13回	発達障害②：発達障害への援助　　（野田）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：発達障害の支援方法についてまとめる(120分)	3A3	可
第14回	社会と集団、　組織・集団の構造と機能 社会現象と集団心理　　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：集団心理の特徴についてまとめる(120分)	2C3	可
第15回	医療・看護と心理、患者の心理、医療・看護職の心理特性　まとめ　　（栃本）	予習：指定された参考図書に目を通す(120分) 復習：患者心理の特徴についてまとめる(120分)	1D4	可

評価方法・評価基準	授業への参加度（10%）、発表（10%）、授業内レポート（20%）、課題レポート（60%）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。

B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。

C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。

D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○			20 %
宿題・授業外レポート		◎	○			60 %
授業態度･授業への参加度		○		○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表		○		○		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

栃本：保健所で約20年保健師として地域の精神保健福祉活動をしてきています。精神保健福祉士やヘルスカウンセラー中級資格を有し、職場のメンタルヘルス支援に活かしています。

学習相談・支援体制

火曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力 ○
授業コード	111021				ケア・スピリット
授業科目名	学習と行動				実 践 的 理 解
配当年/学期	1年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム
担当教員	藤丸郁代				多 職 種 連 携

講義概要

本講義では、心理学や保健医療の側面から、学習や行動に関する基本的な理論を学び、日常生活や身の周りで起こるできごとをとおして人間理解へとつなげていくことを目的とする。大学生が直面する生活からの健康問題や課題を取り上げ、それに対する解決方法を考え、社会生活の一員として行動できる視点を養う。この科目では、主に大学生において健康や生活に関する動向、法・制度などを紹介する。また、グループワークを取り入れ、セルフマネジメントの具体的な考え方や行動の理解を深めていく。

授業内容（到達目標を含む）

1. 大学生活における心身の健康問題や課題を理解できる
2. 学習と行動の基本的な知識から身近な事象を理解できる
3. 大学生の健康や生活に対する考え方や行動からセルフマネジメント行動を説明できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業は、ワークシートに記載をしながらすすめていきます。授業後のワークシートや最終レポート課題は必ず提出してください。グループごとで発表してもらいますので積極的なグループワークへの参加や発言を望みます。

教材

教科書は特に指定しない。随時講義資料を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス、大学生活とは	復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第2回	大学生活とメンタルヘルス	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第3回	大学生活とけがや病気	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第4回	大学生活と労働	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第5回	援助行動とソーシャルサポート	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第6回	グループダイナミックスと集団行動	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第7回	セルフマネジメント行動	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可
第8回	災害における危機管理行動	予習：指定する用語について学習する 復習：ワークシートをまとめ、課題を行う		不可

評価方法・評価基準：毎回授業後のワークシートやリアクションシートによるレポートの提出（40%）、最終レポート課題（50%）、授業態度・授業の参加（10%）で評価する

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎				40 %
宿題・授業外レポート		◎				50 %
授業態度･授業への参加度		○				10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

藤丸郁代：行政保健師として、健康診査、健康相談、健康教育、地区組織活動などに従事し、また産業保健師として、健康保険組合での業務に従事
授業内容との関連性：地域保健活動の基礎知識や保健指導の技術について実務経験をいかして教授する

学習相談・支援体制

藤丸郁代：事前に連絡をください

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111022				ケア・スピリット	○
授業科目名	健康と生活				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	藤原奈佳子				多　職　種　連　携	

講義概要

生活習慣に起因する健康問題について、そのメカニズムや評価法などについて学ぶ。学習した内容を他者に説明できるように整理することを通して考える力を養い、理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

対象と対象を取り巻く環境により、様々な健康の捉え方があることを理解した上で、私たちの日々の生活習慣が健康問題にどのように関わっているかを理解し、社会人として、また、看護師として説明ができるようにする。
到達目標
1. 自身が捉えた健康の概念を説明することができる。
2. 生活習慣に起因する健康問題にはどのようなものがあるか、そのメカニズムについて説明することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目は8コマで1単位であるため、1コマにつき毎回の授業時間外に予習(120分)・復習(120分)が必要となる。毎回、共通する内容として、学習課題に記載してある事を参考に、予習は教科書などの該当箇所の通読（一通り目をとおす）または熟読（よく読んで理解をする）をして授業に臨むこと。復習は、授業のまとめとして各コマに記載されている内容を整理し、わからないところがあれば次回に質問をすること。

教材

教科書：イラスト　Well-beingを目指す公衆衛生学<初版,2024>、藤原奈佳子ほか著、東京教学社、2,970円（税込）

参考資料（2025年1月31日現在）：
①「食事摂取基準の概要と日本人の食事摂取基準（2020年版）のポイントについて、
厚生労働省健康局健康課栄養指導室、令和5年8月1日，第1回食事摂取基準(2025年版)」策定検討会、参考資料2
＜https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001128381.pdf＞の中から沿革（No.3），対象（No.6），BMI，
栄養素の指標（No.7,9-11，23-24）
②「早わかり!食事バランスガイド、農林水産省、実践食育ナビ」＜https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/＞
③「口腔の健康状態と全身的な健康状態の関連」、
厚生労働省、 e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/teeth/h-01-006.html>
④「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023 RECOMMENDATION 1（成人版）」、
厚生労働省、e-ヘルスネット＜https://www.mhlw.go.jp/content/001195866.pdf＞
⑤「若者の健康と喫煙」、厚生労働省、e-ヘルスネット＜https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/tobacco/t-02-006.html＞
⑥「アルコールによる健康障害」、厚生労働省、e-ヘルスネット<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/alcohol>

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	**健康の概念：**健康とは、健康寿命、健康と疾病、健康の多面的捉え方とQOL、世界規模の健康問題、ヘルスリテラシーと健康管理、	▸予習：教科書【第1章】 1▷健康の概念（pp.2-5）、2▷5ヘルスプロモーション(pp.9-10)、3▷健康づくりと予防の段階（pp.11-13）を熟読する。第1章　表1-01健康の捉え方の歴史的変遷　を通読する。【第12章】1▷世界規模の健康問題（pp.266-268） ▸復習：1.多様な健康観を理解し、自身の健康に対するとらえ方への道標としてゆく。/2.健康を理論的に捉えた多様な健康観があることを学び、対象の健康感を配慮できるようにする。	**必1A1** **必1A2** **看統3A1** **必6B1** **必6B2** **健支6D7** **健支10A4**	
第2回	**栄養と食生活、歯と口腔：**食習慣と健康、食事バランスガイド、日本人の食事摂取基準、適正体重、BMI、肥満、糖尿病、コモンリスクファクター、食品の安全・安心を守るしくみ（食品衛生法、HACCP(ハサップ)、食品表示）	▸予習：教科書【第7章】 6▷栄養と食生活、歯と口腔（pp.168-173）、【第8章】3▷代謝疾患（pp.182-183）を通読する。【第6章】1▷健康危機管理-3.食中毒、4.食品の安全・安心を守しくみ（pp.125-127） ▸復習：1.自身のBMIを算出し、判定ができるようにする。/教科書（p.171）の図7-29「歯周病と全身疾患の関係」の説明ができるように参考資料③を読み、ノートに文字で記述しておく。	**必2A1** **必7B4** **健支10A6**	
第3回	**身体活動と健康：**身体活動・運動の現状（国民健康・栄養調査）、身体活動・運動の健康影響、ライフステージごとの身体活動・運動に関する推奨事項	▸予習：教科書【第7章】 2▷身体活動、運動（pp.148-151）を通読する。▸復習：巻末資料10「生活活動・運動のメッツ表」(p.298)、参考資料③参考に自身の身体活動を評価する。	**必2A3**	
第4回	**喫煙と健康：**喫煙の現状、喫煙の健康影響と社会的問題、受動喫煙、禁煙サポート、ニコチン依存症スクリーニングテスト（TDS)、ブリンクマン指数、たばこ対策	▸予習：教科書【第7章】3▷喫煙行動（pp.152-158）を通読する。▸復習：参考資料⑤などを読み、若者の健康と喫煙に関するパンフレットをA4用紙１枚に作成しておく。	**必2A8** **健支10A3**	
第5回	**飲酒と健康：**飲酒の現状、飲酒の健康影響と社会的問題、アルコール依存症、アルコール対策と適正飲酒	▸予習：教科書【第7章】4▷飲酒行動（pp.159-161）を通読する。▸復習：アルコールによる健康障害について授業や参考資料⑥をもとにA4用紙1枚で図やイラストを作成しておく。	**健支5H2**	

第6回	**睡眠、休養、ストレスと健康：**睡眠と生活リズム、睡眠指針、休養指針、ストレスの概念とストレスマネジメント、脳腸循環	▸予習：教科書【第7章】5▷睡眠、休養、ストレス(pp.162-167)を通読する。▸復習：授業の中で関心のあった事柄について、A4用紙1枚で図やイラストで説明できるようにしておく。	**必2A7**	
第7回	**プレゼンテーション：**第1-6回の授業（予習、復習を含む）の要点をA用紙1/2枚（パワポイント１枚）でわかりやすく整理し、発表する。	▸予習：プレゼンテーション用資料の作成 ▸復習：他者が発表した内容を自身の授業記録や教科書などで確認する。	**健支9B5**	
第8回	（前半）まとめ （後半）筆記試験			
評価方法・評価基準	筆記試験 60%、プレゼンテーション 20%、授業態度 20%			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S(90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	60 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	10 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	○	○	10 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			○	○	◎	20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

連絡先：藤原〈n-fujiwara@gifuhoken.ac.jp〉

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111023				ケア・スピリット	
授業科目名	岐阜県の歴史と文化				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、野田みや子				多　職　種　連　携	

講義概要

学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表により授業を進める。

授業内容（到達目標を含む）

岐阜県内の市・町のフィールド調査（地域診断）を行うことで、その市・町の統計や社会的資源、歴史、文化、自然環境、生活習慣を調べ、岐阜県で暮らす人々の暮らし、または課題について学ぶ。
到達目標：
1）地域診断についての手法を学び、理解する。
2）地域診断で選んだ市・町を訪問・観察・考察し、他の人に説明することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

講義内で、グループで地域診断する市・町を訪問する日を設けている。この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

教科書は特に指定しない。随時講義資料を配布する。
参考図書：岐阜県ホームページ、岐阜県の概要、https://www.pref.gifu.lg.jp/page/109.html

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション	予習：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	岐阜県の歴史と文化を調べる： 地域診断の手法	予習：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第3回	地域診断の確認、地区視診の手法、グループ分け、地域診断場所決め	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第4回	各グループの地域診断の準備	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	健支6D3	
第5回	岐阜県内の地域診断①	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	健支6D4	
第6回	岐阜県内の地域診断②	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	健支6D5	
第7回	岐阜県内の地域診断③	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	岐阜県内の地域診断④	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	岐阜県内の地域診断⑤	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第10回	岐阜県内の地域診断⑥	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や量的データ・保健統計データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	地域診断のまとめ①	予習：グループで実施した地区視診データをまとめる。 復習：質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第12回	地域診断のまとめ②	予習：グループで実施した地区視診データをまとめる。 復習：質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	地域診断のまとめ③	予習：グループで実施した地区視診データをまとめる。 復習：質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	地域診断の結果グループ発表①	予習：グループ発表データから課題レポートを作成する。 復習：他グループの発表内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	地域診断の結果グループ発表②、講評と総括	予習：課題レポート作成の準備を行う。 復習：他グループの発表内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

評価方法・評価基準	グループ発表30%、課題レポート70%より評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。

B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。

C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		30 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

野田：岐阜県で生まれ育った経験を活かし、岐阜県の素晴らしい歴史や文化を伝えます。
高久：地域診断（社会福祉分野では社会調査）を使って地域の魅力から健康課題を発掘します。

学習相談・支援体制

事前にメールでアポイントを取ってください。
野田みや子：月、水、木、金の16:00～17:00　　連絡先　m-noda@gifuhoken.ac.jp
高久道子：木曜以外の平日、昼休み対応可。　　連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111024				ケア・スピリット	○
授業科目名	多文化と多様性の理解				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、栗津昌枝				多　職　種　連　携	

講義概要

医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる人間力を養う。

授業内容（到達目標を含む）

多文化と多様性、異文化コミュニケーションに関する文献を読み解く。
履修学生は、講義で実施されるグループワークやディスカッションに対して積極的に参加する。
履修学生は、想像力・考察力を高めるためにレポート課題を提出する。
到達目標：
1.「多文化と多様性の理解」について説明できる。
2. 異なる文化を尊重しようとする寛容性を獲得すると同時に、自己のもつ文化とアイデンティティを認識する。
3. 異なる文化・宗教・言語等を有する人々に対する看護の在り方「異文化看護」理論の基礎的知識を獲得する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国際社会の今日、在日外国人の医療アクセスも増加し、多文化を理解した看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

教科書1：「ナーシンググラフィカ看護の統合と実践④　国際化と看護」メディカ出版（2,600円+税）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、 「多文化と多様性の理解」のイントロダクション　（高久）	予習120分：教科書1 p.18-29を熟読する 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	必13A1、 必13A2、 必13B1	可
第2回	日本で暮らす外国籍の人々の背景1： 「東・中央アジア地域」　（高久）	予習120分：教科書1 p.30-39を熟読する 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3A3	可
第3回	日本で暮らす外国籍の人々の背景2： 「東南アジア地域」　（高久）	予習120分：教科書1 p.40-42,118-126 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3B1	可
第4回	日本で暮らす外国籍の人々の背景3： 「中南米地域」　（高久）	予習120分：教科書1 p.127-136 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3B1	可
第5回	日本で暮らす外国籍の人々の背景4： 「北米、ヨーロッパ、オセアニア地域」 （高久）	予習120分：教科書1 p.138-148 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3B1	可
第6回	日本で暮らす外国籍の人々の背景5： 「中東、アフリカ地域」（高久）	予習120分：教科書1 p.149-160 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3B1	可
第7回	自己とアイデンティティ（高久）	予習120分：教科書１p.161-170 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	小児3I2	可
第8回	ステレオタイプとスティグマ（高久）	予習120分：教科書１ p.172-177 復習120分：予習と講義内容を300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	精神1C2	可
第9回	ジェンダー、セクシュアルマイノリティ （LGBTQ）と健康課題（高久）	予習120分：教科書1 p.178-185 復習120分：予習と講義内容を300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	母性2A2	可
第10回	日本で暮らす外国籍住民の健康課題　（栗津）	予習120分：教科書1：p.186-192 復習120分：課題レポートは2週間後に提出	看統3B1	可
第11回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループワーク1　（高久）	予習120分：教科書1：p.193-206 復習：予習内容を300字程度にまとめ、グレクサに提出する。		

第12回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループワーク2　　（高久）	予習120分・復習120分でグループワークに取り組む グループワーク課題：グループで選定した国籍の人々について、文化、生活習慣、価値観、保健医療に関する考え方等の情報収集・整理・まとめを行い、パワーポイント等で発表の準備を行う。		
第13回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループワーク3　　（高久）			
第14回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループ発表1（高久）	予習120分：グループ発表・課題レポートを準備する。 復習120分：他のグループ発表から得た理解について300字程度にまとめる。		
第15回	日本で暮ら外国籍住民の理解：グループ発表2、講評と総括　（高久）			
評価方法・評価基準	復習課題の提出20%、課題レポート50%、グループワーク30%より評価する。 ＊課題レポート（50%）の配分については、高久（40%）、栗津（10%）とする。			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		70 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎		20 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

高久：海外留学や医療保健分野での国際協力活動経験を通して、多文化や性的マイノリティへの理解を深める授業を行います。
栗津：在日外国人の方たちの健康課題について、行政機関で保健師としてたずさわった事例を皆さんと共有します。

学習相談・支援体制

事前にメールでアポイントを取ってください。
栗津昌枝：連絡先　m-awazu@gifuhoken.ac.jp
高久道子：木曜以外の平日、昼休み対応可。　　連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111025				ケア・スピリット	○
授業科目名	人体構造機能学Ⅰ				実　践　的　理　解	
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	永井博弐				多　職　種　連　携	

講義概要

人体のしくみを各器官のはたらき・生理学的機能と関係付けて学修し、機能形態学から生命現象の基本を理解する。前半は多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために細胞の構造と機能、細胞の増殖・分化、老化についての細胞生物学を学び、後半は人体の構成と機能（骨格、関節、筋肉、感覚、脳・神経系、内分泌、循環、血液、呼吸)について生理解剖学の基礎を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

人体の構造と機能を細胞・組織・器官・器官系の順に学び、体の基本構造と生命活動の基本を理解して説明できるようにする。第一段階として、細胞の構造と機能を理解することにより、生命現象の本質を述べることができることと、次いで、各器官の基本的な機能を理解したのち、器官間での相互作用について、説明できる。化学伝達物質および神経での電気的な変化を介する機構については詳しく説明できることを目的とする。各講義での到達目標は講義時間に合わせてその都度配布する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

生理学を理解するためには基礎となる生物学の理解が必須である。従って、生物学と生理学での基本的な用語をまず理解する。そのためには少なくとの各講義の前に１時間、教科書および教材資料を予習をして用語を正しく理解しておく。さらに、各講義のあと、プリントで単元ごとの復習をするので、それを完全に理解するまで、教科書および参考書で調べて理解すること（１時間）。わからないことがあればそのままにしないで、必ず質問をして理解をしておくこと。

教材

新体系　看護学全書　人体の構造と機能１　解剖生理学　坂井建雄・岡田隆夫著

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シート	遠隔授業
第1回	生理学とは、細胞生理学から始める	人体のさまざまな器官,素材から見た人体、について教科書で予習し、プリントで復習する		可
第2回	細胞生理(細胞内小器官、代謝、細胞膜、細胞分裂)	細胞内小器官、代謝、膜、分裂について教科書で予習、講義中配布のプリントで復習する		可
第3回	組織、ホメオスタシス(神経、内分泌)	組織、ホメオスタシスについて教科書で予習し、講義をプリント問題で復習する		可
第4回	神経生理学(神経細胞、神経の分類、中枢神経の構造と機能の分担)	神経細胞・中枢神経系について教科書で予習し、講義内容をプリント問題で復習する		可
第5回	神経生理学(中枢と末梢神経の繋がり、自律と体性神経の構造と機能)	中枢神経系・末梢神経系について教科書で予習し、講義内容をプリント問題で復習する		可
第6回	運動神経と筋　(神経筋接合部、筋収縮)	筋肉の種類、神経筋接合部、筋収縮について教科書で予習し、講義をプリント問題で復習する		可
第7回	感覚神経上行性神経）と感覚の種類と受容器、伝導経路	感覚神経、特殊、体性、内臓感覚について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第8回	心・循環器系　(心臓と血管の構造と機能）、神経支配と調節	心臓、血管、循環について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第9回	血液(分類;血球と血漿、役割；運搬、恒常性維持など)	血液、血漿、血球、免疫について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第10回	呼吸器系(呼吸運動、神経支配、呼吸曲線、ガス交換、血液ガス)	呼吸器、呼吸筋、呼吸調節について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第11回	消化器系(器官、役割;消化運搬、吸収)、神経・ホルモンの影響	消化器、消化、吸収、排泄、運動について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第12回	泌尿器系(腎臓の生理学的役割、尿生成、尿排泄)	尿生成、体液バランス、排尿について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第13回	内分泌系(内分泌器官、ホルモンの種類と生理作用)	内分泌器官、ホルモンの種類と生理作用を教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
第14回	神経・内分泌・免疫による生理学的防御システム	生体防御、ホメオスタシス、炎症、再生について教科書で予習し、プリント問題で復習する		可
第15回	生殖・発生・老化	生殖・発生・老化について教科書で予習し講義内容をプリント問題で復習する		可
評価方法・評価基準	定期試験　80%、提出物・レポート　20%			

<table>
<tr><td rowspan="8">評価方法・
評価基準</td><td rowspan="8">【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td>評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>70 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>20 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td>受講者発表(プレゼン)</td><td colspan="5">討論、まとめ、発表</td></tr>
<tr><td>演　　習</td><td colspan="5">文献検索、討論</td></tr>
<tr><td>補　　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
<tr><td colspan="8">実務経験のある教員による授業内容</td></tr>
<tr><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="8">学習相談・支援体制</td></tr>
<tr><td colspan="8">月曜日から水曜部の午後（１３時から１７時まで）</td></tr>
</table>

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111026				ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	小萱康徳				多　職　種　連　携	

講義概要

人体の基本的な解剖学的構造の学修は、その機能、疾病および病態の理解の礎となる。本科目では肉眼解剖学的及び組織学的に人体を構成する各器官系（骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）の構造と機能を学修する。全身の運動器系（骨格系、筋系）と神経系の関わりを理解する。循環器系では血管系とリンパ管系の関係、体循環と肺循環、血管（動静脈、毛細血管）の構造を理解する。各内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンの働きを理解する。腎臓が有する機能の多様性を学修する。生殖器の構造の性差および相同性について、その発生過程を通して学修する。

授業内容（到達目標を含む）

授業ではパワーポイント資料と板書を基軸とするが、人体を構成する各器官の解剖学的及び組織学的視覚素材を学生と共有し（ポータルサイト等）、必要に応じて授業の補助教材とする。授業内容に関連した国家試験問題を中心とした練習問題を、各授業ごとに提示するので、授業後これら練習問題を解くことで授業理解度を確認し必ずすべての問題が正解できるようにする。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

２/３以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いなのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

テキスト：解剖生理学　人体の構造と機能　①　坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	人体の構造の概要	人体の形状（体幹と体肢の各部位の名称）及び方向と位置を示す用語について説明できる。人体内部の腔所（頭蓋腔、脊柱管、胸腔、腹腔、骨盤腔）を説明できる。	1-D-4	
第2回	全身の骨と関節	人体の骨格（頭部、体幹、上肢、上肢帯、下肢および下肢帯の骨）の構成並びに各骨間の関節について説明できる。	4-A-1,2,3	
第3回	骨格筋の構造と働き	上気道（鼻腔、咽頭、喉頭）と下気道（気管、気管支、肺胞）を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。	10-A-1,2 10-B-1,2	
第4回	骨格筋の構造と働き	上気道（鼻腔、咽頭、喉頭）と下気道（気管、気管支、肺胞）を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。	10-C-1,2 10-D-1,5 11-A-1,2	
第5回	消化器系	消化管の基本構造と各部位での粘膜上皮の形態的特徴を説明できる。口腔、食道、胃、十二指腸。空腸、回腸、大腸の構造と機能を説明できる。付属消化腺（唾液腺、膵臓、肝臓）の組織構造とその働きを説明できる。	11-A-1～5 11-B-1～9	
第6回	全身の動脈系と静脈系	血管系とリンパ管系の関係、心臓の内部構造と出入りする血管、冠状動静脈、心膜を説明できる。動脈と静脈の血管壁の構造の違いを説明できる。	6-A-1～4 6-B-1～8 6-C-1	
第7回	血管系とリンパ管系、心臓	体循環の動脈（上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈及び腹大動脈）の主な枝を説明できる。体循環の主な静脈（上・下大静脈、上・下肢の静脈、肝門脈、奇静脈）を説明できる。	6-B-1～8 6-C-1,2	
第8回	泌尿器系の組織構造と機能	腎臓、尿管、膀胱、尿道の組織構造を説明できる。腎臓の機能の多様性をその組織構造に基づいて説明できる。	13-A-1～3 13-B-1,2 13-C-1,2,3	
第9回	ヒトの初期発生の概要	受精、着床、胚盤胞、二層性胚盤、三層性胚盤（外胚葉、内胚葉、中胚葉）、体節、神経管、神経堤細胞に由来する組織等の発生過程を説明できる。	16-A-1～4 16-B-1,2,3 16-C-1～4	
第10回	生殖器系の発生と性差	男性生殖器と女性生殖器の構造の違いと相同性を説明できる。生殖器系の発生を通して、生殖器の分化と発達過程を説明できる。	16-A-2 16-B-1 116-C-3	
第11回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（１）	各内分泌器官（下垂体、甲状腺、上皮小体）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。内分泌と外分泌の違いを説明できる。	15-C-1～8	

第12回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（２）	各内分泌器官（副腎、膵臓、性腺）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。	15-C-6, 7, 8 15-C-10 15-A-1～7 16-B-1, 2, 3	
第13回	視覚器、聴覚・平衡覚器の組織構造と機能	眼球の組織構造（強膜、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、色素上皮、脈絡膜）、蝸牛および半規管の組織構造を説明できる。	5-A-1, 2, 3 5-B-1～6 5-C-1, 2, 3 5-D-1, 2	
第14回	中枢神経（脳と脊髄）	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄そして髄膜の位置と構造を説明できる。大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と働きを説明できる。	3-B-1～5	
第15回	末梢神経（脳神経、脊髄神経、自律神経）	脳神経１２対の線維構成と支配領域を説明できる。各脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）の支配領域と伝導路を説明できる。 人体構造機能学Ⅱの学習の要点及びまとめ	3-C-1～4	

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎			90 %
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		○	○			10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

毎週木曜日16:20～18:00まで 質問は随時受付る

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111027				ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅲ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	小萱康徳				多　職　種　連　携	

講義概要

人体の各機能とその制御機構について学修する。生物が生存のために常に身体の内部環境を一定に保ち、生体の各臓器、各部分がどの様に機能しているのか、またその機能を制御統合している機構について、感覚器、神経系の形態的特徴とともに理解する。人体の発生、基礎代謝と体温調節、内部環境（電解質、酸塩基平衡）、生体内情報伝達（神経系、ホルモン、各種伝達物質等）、中枢神経の構造と機能、脳の統合機能について学修する。また感覚器、自律神経の構造と機能及びそれらの相互作用についても理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

1学年で学んだ人体の解剖学的生理学的構成を基礎に、生体が様々な外的及び内的環境の変化に対応して内部環境を一定に保って生存を維持する機構について、パワーポイント資料と板書を基軸として授業する。授業で使用する解剖学的及び組織学的視覚素材や関連した練習問題を前もってポータルサイト等に提示するので、予習と復習に活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

２/３以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いなのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

テキスト：解剖生理学　人体の構造と機能　①　坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ホメオスタシス（恒常性）とは	生体の恒常性維持機構の概略を説明できる。	15-B-1 8-B-2	
第2回	人体の初期発生、外胚葉、内胚葉、中胚葉	外胚葉性、内胚葉性、中胚葉性上皮組織の発生過程を理解し、上皮の形態的特徴と恒常性維持に果たす役割を説明出来る。	1-Dˆ1 16-C-3	
第3回	上皮組織の発生過程及び形態的特徴と恒常性	上皮組織が恒常性に果たす役割について説明できる。	9-A-1 9-A-2 9-B-1	
第4回	内分泌系（１）	各内分泌器官と分泌ホルモンを説明できる。負のフィードバック機構と正のフィードバック機構を説明できる。	15-B-1 15-c-2 15-A-2	
第5回	内分泌系（２）	血中Ca2+濃度調節におけるカルシトニンとパラトルモンの機能を説明できる。血糖値の調節機構（高血糖時と低血糖時）における関連ホルモン、神経系、肝臓、筋細胞及び脂肪細胞の関わりについて説明できる。	15-C-4 15-C-5 15-C-6 15-C-7,8	
第6回	ストレス反応と視床下部・下垂体・副腎皮質系及び視床下部・交感神経・副腎髄質系	ストレス反応と視床下部-下垂体-副腎皮質系（HPA軸）及び視床下部-交感神経-副腎髄質系（SAM軸）の関係を説明できる。副腎髄質の発生由来と交感神経系との関係を説明できる。	3-B-2 15-C-7,8 3-C-4	
第7回	血圧調節機構	血圧上昇及び下降に関わる要因（心拍出量、末梢血管抵抗、循環血液量、血液の粘着度、大動脈の弾力）と神経性調節及び体液性調節機構を説明できる。レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系を説明できる。	6-B-2 13-B-2	
第8回	泌尿器系(1) 腎臓の機能の多様性と恒常性	腎臓の尿生成、代謝産物排泄、酸塩基平衡調節、レニン分泌、エリスロポエチン、ビタミンD3の活性化作用について腎臓の組織構造に基づいて説明できる。	13-A-1,2,3 13-C-1,2	
第9回	泌尿器系(2) 酸塩基平衡と浸透圧調節	腎臓による体液の組成を一定に保つ機能を、腎臓の組織構造に基づいて説明できる。代謝性及び呼吸性アシドーシスとアルカローシスを説明できる。	8-A-1,2, 8-B-2	
第10回	リンパ系と免疫系	血管系とリンパ管系との関係を理解し、免疫細胞の循環路とリンパ組織での免疫反応について説明できる。	6-C-1,2 9-B-1	
第11回	感覚器系と恒常性	平衡聴覚器の組織構造を理解し、身体の位置及び運動の感知と反射的平衡維持機構を説明できる。視覚器に関連した対光反射、角膜反射、輻輳反射を説明できる。	5-C-1～3 5-D-1,2	
第12回	自律神経系と恒常性	自律神経の走行経過と節前ニューロン、節後ニューロン及び自律神経節について説明できる。各器官に対する交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	3-C-4	

第13回	中枢神経系(1) 大脳皮質の一次野と連合野	大脳皮質機能局在を説明できる。一次野と連合野（前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野）の連携と機能障害による高次脳機能障害を説明できる。	3-B-1,2	
第14回	中枢神経系(2) 間脳と脳幹における生命維持機構	間脳-視床下部（体温調節中枢、摂食調節中枢、飲水調節中枢、下垂体機能調節）と脳幹-延髄（呼吸中枢、心臓血管中枢、嚥下中枢、嘔吐中枢、唾液分泌中枢）の生命維持機構に果たす役割を説明できる。	3-B-3,4,5	
第15回	中枢神経と体性神経 人体構造機能学Ⅲの学習の要点及びまとめ	中枢神経（脳と脊髄）内における体性神経（感覚神経と運動神経）の伝導路を、求心性伝導路と遠心性伝導路に分け、様々な刺激に対する反射的な反応を迅速に行う過程を説明できる。	3-C-3	

評価方法・評価基準	定期試験90%、課題レポート10%により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。

B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。

C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。

D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎			90 %
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		○	○			10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

毎週木曜日16:20～18:00まで 質問は随時受付る

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111028				ケア・スピリット	
授業科目名	生体防御学				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永井博弐　太田美智男				多　職　種　連　携	

講義概要

免疫系による生体防御機構について学修する。免疫系は身体を外界の異物から守り、生体の恒常性を保つために必須な機能である。様々な感染症やアレルギー疾患、癌の問題など、現代の医学、医療において免疫系が関わる様々な問題は少なくない。本講義では、免疫学と関連の深い感染症の基礎及び臨床について学び、次いで、免疫系の仕組みを中心に広範な生体防御機構について体系的に学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

免疫は、微生物感染に対する生体防御機構として生命の進化とともに発達してきた。本授業では、まず、病原微生物の種類と感染の形態について学び、ついで免疫による生体防御機構について学ぶ。
１．病原微生物の種類とそれらの相違点を説明できる。
２．細菌の分類と主な細菌の病原因子と疾患の関係を説明できる。
３．ウイルスの増殖形態を理解し、病原性を説明できる。
４．主なウイルスの感染症を説明できる。
５．生体防御と免疫学概論が説明できる
６．自然免疫と獲得免疫について、その意義、細胞、機能分子による防御機構及び応用面を説明できる
７．アレルギー疾患と自己免疫疾患の発症機序についての基礎と臨床および診断治療法を説明できる
８．免疫学の臨床応用として診断法およびワクチンなどの治療への応用について説明できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業の復習として、各章の終わりにある国家試験過去問題および演習問題をその都度学習しておくこと。

教材

テキスト　看護学テキスト「微生物学・感染症学」　編集　中野隆史　南江堂
参考図書　成人看護学　　「感染症・アレルギー・免疫・膠原病」編集内藤俊夫、メジカルフレンド社

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	微生物の種類と特徴（第１章） 原核生物と真核生物の細胞の違いを知る。 ウイルスの特徴と大きさを知る。 細菌の形態・構造と機能（第２章） グラム陰性菌とグラム陽性菌、細菌細胞壁の構造、環境と増殖の関係、細菌の毒力と病原性、常在細菌叢について学ぶ。　（太田）	予習90分：動物細胞の構造、細胞内小器官について調べる。第１・２章を読む。 復習90分：原核生物、真核生物、ウイルスの増殖について説明する。グラム染色性と細菌細胞壁の構造の関係を説明する。細菌の病原性と病原因子の関係を説明する。感染防御における常在細菌叢の役割を説明する。		可
第2回	主な細菌（第３章） 細菌の命名法、細菌の分類を理解する。感染症を起こす主な細菌：グラム陽性菌、グラム陰性菌、グラム陰性好気性・通性嫌気性桿菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌、らせん菌、リケッチア、クラミジアについて学ぶ。（太田）	予習90分：好気性細菌と嫌気性細菌の生育環境の違いを調べる。 復習90分：主な病原性細菌の起こす疾患と病原因子を説明する。MRSAの薬剤耐性を説明する。細胞内寄生性細菌について説明する。		可
第3回	ウイルスの性質（第４章） ウイルスの形態・構造、増殖、遺伝・変異、病原性、発がんについて学ぶ。 主なウイルス（第５章） DNAウイルスに属するウイルスの種類とその感染症を学ぶ。　（太田）	予習90分：教科書第４章ウイルス総論および第５章のDNAウイルスの項を読む。 復習90分：エンベロープを持つウイルスと持たないウイルスの増殖様式の違いを説明する。ヘルペス、アデノ、パピローマ、ポリオーマのそれぞれのウイルス科に属するウイルスの特徴とその感染症を説明する。		可
第4回	主なウイルス（第５章） RNAウイルスに属するウイルスの種類とその感染症を学ぶ。 肝炎ウイルスの分類と感染の経路、感染症としての特徴を学ぶ。　（太田）	予習90分：教科書第５章のRNAウイルスの項を読む。 復習90分：ピコルナ（ポリオ、ライノ）、オルトミクソ（インフルエンザ）、パラミクソ（麻疹、ムンプス）、コロナ、トガ（風疹）、カリシ（ノロ）、レトロ（HIV）を中心としたウイルス科のウイルスの特徴とその感染症を説明する。A、B、C、D、E型肝炎ウイルスの感染経路、感染症の特徴を説明する。		可
第5回	生体防御機構 ヒトが持つ生体防御機構の概略と、免疫についての基本的な仕組みについて説明できるように学ぶ。特に自然免疫と獲得免疫の2種類の免疫の特徴とワクチンなどの免疫反応の応用について理解する。　（永井）	予習90分：教科書第8章「１．免疫の基本的な仕組み」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学、第9章Ｂ　生体防御機構」をよく読んで、免疫学の用語について慣れておく。 復習90分：生体防御の総論と免疫学の全体について説明できるまで復習する		可

第6回	自然免疫系および獲得免疫系の詳細を関与する細胞及び因子を中心に説明できるように学ぶ。（永井）	予習90分：教科書の第8章「2.自然免疫系」と「3. 獲得免疫系」をよく読んで、両者の違い、実際の臨床での応用面を知っておく。 復習90分：自然免疫系および獲得免疫系の詳細を関与する細胞及び因子を中心に説明できる。加えてガンの発症、老化における免疫機能について説明できるまで復習する		可
第7回	免疫異常疾患とアレルギー疾患および自己免疫疾患について、免疫の異常による疾患の発症とその種類及びアレルギー疾患と自己免疫疾患の種類と検査と治療法について説明ができるように学ぶ。特に急性期及び慢性期の治療について説明できる。（永井）	予習90分：教科書の第8章「４アレルギー」と「5自己免疫疾患」をまず読み、その後「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学台9章Ｂ　生体防御機構　5　免疫の異常」をよく読んで、アレルギー・自己免疫疾患の概略を知っておく 復習90分：免疫の異常による疾患の発症とその種類及びアレルギー疾患の4型と検査および治療法について説明できるまで復習する。		可
第8回	ワクチンおよび血清療法など免疫学の生体防御における臨床的な応用面の基礎について説明できるように学ぶ。（永井）	予習90分：教科書の第8章「６ワクチンと血清療法」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学第9章Ｂ　生体防御機構　第3章Ｃ血液」をよく読んで、免疫の生体防御における役割を知っておく 復習90分：免疫学を応用した検査および治療法について説明できるまで復習する。		可

評価方法・評価基準	期末試験（80%）、小テストおよび課題レポート（20%）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（0%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		○	○			
授業態度･授業への参加度			○	○		
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

太田美智男：月、水、木曜日の午後13：00～17：00　事前にアポイントメントを取ってください。
永井博弐：月、火、水曜日の午後13：00～17：00　事前にアポイントメントを取ってください。
連絡先　e-mail h-nagai@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力 ○
授業コード	111029				ケア・スピリット ○
授業科目名	医療薬理学				実 践 的 理 解
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム
担当教員	永井博弐				多 職 種 連 携

講義概要

薬理学および薬物治療学の基礎と臨床応用の知識について講義する。薬物は各種臓器別に使用される医薬品の薬理作用とその機序について学ぶ。疾患治療に使用される薬物の基本作用と機序を理解し、臨床で使用されている薬物について中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。また代表的医薬品についてその機能を理解する。病態との関連について臨床現場で役立つよう、臨床薬理に重点を置き講義する。

授業内容（到達目標を含む）

疾病の治療には薬物療法が必須である。しかし、薬物は適正使用をしないと患者に重篤な副作用を引き起こすことがある。各種疾患に応じた、薬物治療において、投与前の準備から、投与後の経過観察まで一連のプロセスについての詳細を知り、薬物による副作用など患者にとって不利益とならない投薬について理解して、説明できることを目的とする。各講義の到達目標は講義に沿って、講義前に別紙にて配布する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

理解できないことは随時質問すること。　さらに予習として、教科書および教材資料よくを読んでおく（約１時間）。復習として問題プリントを教科書および参考書などを調べて完全にしておくこと（約1時間）。

教材

臨床薬理学（ナーシング・グラフィカ；MCメディカ出版、第7版）、プリント

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	医薬品総論(薬とは、医薬品の分類、法律、薬理作用)	医薬品とは、関連法規、薬理作用について教科書で予習し、講義内容をプリントで復習する		可
第2回	医薬品の生体内動態、相互作用、副作用、注意すべき医薬品	体内動態、副作用、与薬について教科書で予習し、講義内容をプリントで復習する		可
第3回	ガンに使用する薬(ガンの病態生理と治療薬、ガン性疼痛（痛みと鎮痛薬）、	ガンに使用する薬とガン性疼痛について教科書で予習し、講義内奥をプリントで復習する		可
第4回	脳・中枢神経系疾患の治療薬（化学伝達物質と疾患、てんかん、パーキンソン病）	中枢神経系化学伝達物質とてんかん、パーキンソン病について教科書で予習、プリントで復習		可
第5回	中枢神経系疾患の治療薬（認知症、精神病、うつ病、不眠）	認知症、精神病、うつ病、不眠について教科書で予習し、講義内容をプリントで復習する		可
第6回	循環器疾患の治療薬（高血圧、狭心症、心筋梗塞、動脈硬化）	高血圧、狭心症、心筋梗塞、動脈硬化について教科書で予習し、プリントで復習する		可
第7回	循環器系疾患音脂質異常症(脳卒中、)と動脈硬化・脂質代謝異常	脳卒中と脂質代謝異常について教科書で予習し、プリントで復習する		可
第8回	代謝・内分泌系疾患治療薬(糖尿病、骨粗鬆症、ホルモン異常症)	糖尿病、骨粗鬆症、ホルモン異常症について教科書で予習し、プリントで復習する		可

評価方法・評価基準　定期試験　80%、提出物・レポート　20%

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（0%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート				○		
宿題・授業外レポート		○		○		
授業態度･授業への参加度				○		
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

月曜日から水曜日の午後

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111030				ケア・スピリット	
授業科目名	病理学				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	佐藤　勝				多　職　種　連　携	

講義概要

多様な疾患の原因を体系的に理解し、その原因により生体にどのような変化が生じ、どのような経過をたどり最終的にどのような結果がもたらされるかを組織の構造変化および機能的な変化の両面から学ぶ。授業では、病理学の概要、炎症、免疫とアレルギー、自己免疫疾患、感染症、循環障害、代謝異常、ホルモンの作用と分泌異常、先天異常、および腫瘍に分類してそれぞれに含まれる疾病についての基礎的および臨床滴知識を習得する。

授業内容（到達目標を含む）

講義内容は疾患に関する生物学的な知識習得に限定せず、看護学に必要な臨床的側面についても言及し、看護師として必要とされる実践的知識の習得を目標とする。この目的を達成するために毎回、まとめプリントを配布する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

全授業時間数のうち2/3以上の出席を受験資格とする。また各授業終了後、確認問題（看護学科および関連学科の国家試験問題）を練習した後、解説を行い知識の拡大と定着を図る。各授業のため、予習と復習に90分を想定している。

教材

テキスト：系統看護学講座　　病理学　疾病のなりたちと回復の促進①　医学書院　2024　2640円（税込み）
参考図書：カラーで学べる病理学[第5版]　ヌーヴェルヒロカワ　2022　2750円　（税込み）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	病理学概説：病理学の役割・意義・方法・病因・細胞損傷・素因と代表的疾患・個体の死と脳死・公害病	病理学の役割と方法論、疾病の原因と素因についてまとめよう。公害病と医原病について知ろう。個体死と脳死の違いを理解しよう。		
第2回	細胞の適応現象：変性・萎縮・壊死の定義と種類	刺激の程度(強さ・作用時間)の違いによる細胞反応のパターンをまとめよう。		
第3回	炎症　：分類・経過・病理組織学的多様性・炎症性メデイエーター・再生と修復	炎症の定義・種類・症状についてまとめよう。また炎症の起こり方を理解しよう。肉芽組織の役割と再生・修復について理解しよう。		
第4回	免疫：定義・細胞性免疫・体液性免疫・免疫臓器と免疫担当細胞、抗体の種類と役割	免疫の種類とその起こり方、免疫に働く臓器と担当細胞および抗体について理解を広げよう。		
第5回	アレルギー反応（Ⅰ～Ⅳ型）：種類と起こり方、および各型に含まれる疾患	アレルギー反応とは何か、どんな種類があり、それが惹起される過程と疾患を理解しよう。、		
第6回	自己免疫疾患：代表的疾患名と症状・免疫不全・臓器移植と拒絶反応	自己免疫疾患の定義とその種類をまとめよう。また臓器移植に関わる拒絶反応を理解しよう。		
第7回	感染症：ヒトに感染を起こす微生物の種類と性状・感染経路・滅菌と消毒	細菌、ウイルス・真菌を始めとする微生物の種類と性状・感染経路・滅菌と消毒の概念と方法を理解しよう。		
第8回	代表的な感染症：種類とその原因微生物、および症状	代表的な感染症をグループ別にまとめてみよう。また原因微生物の特徴と、各感染症の症状と引き起こされる結果についてて理解しよう。		
第9回	ホルモン：定義と種類およびその働き・ホルモンの産生部位と分泌異常による疾患	ホルモンとは何か、生体での働きと分泌される部位、分泌異常による疾患を理解しよう。、		
第10回	循環障害：血液・リンパ液の循環障害・浮腫・出血・血栓・塞栓・梗塞・側副循環	血液・リンパ液の循環とその障害の結果、引き起こされる多くの病変をまとめよう。		
第11回	高血圧症・播種性血管内凝固症候群・ショックの種類と原因・ビタミン	高血圧症の原因と症状・播種性血管内凝固症候群の原因と病態、各種のショックの原因と病態、ビタミンの働きについて理解しよう。		
第12回	代謝異常：糖質・タンパク質・脂質・ビリルビンの代謝障害に基づく疾患	糖質・タンパク質・脂質・ビリルビンなどの代謝異常に基づく疾患にはどのような種類があり、どのような病態を示すかについて広く理解をふかめよう。		
第13回	先天異常：DNA・遺伝子異常・染色体異常	先天異常の種類と原因についてまとめよう。		
第14回	腫瘍：腫瘍の分類・良性腫瘍悪性腫瘍・発生母組織・転移と悪液質・代表的腫瘍名と特徴・腫瘍の病期決定・腫瘍発生の外因と内因・腫瘍マーカー	腫瘍とはなにか・発生母組織に基づく分類・悪性腫瘍と良性腫瘍の相違点・腫瘍の転移・TNM分類・代表的な腫瘍の病態・腫瘍発生の外因と内因・主な腫瘍マーカーについて理解する		
第15回	総まとめ	14回目までの学習内容の総まとめと疑問点の解消を通じて看護師に必要とされる病理学の知識を深めよう		
評価方法・評価基準	定期試験と提出物の結果を総合して評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="8">評価方法・評価基準</td><td rowspan="8">【評価基準】
S(90−100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80− 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70−79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60−69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>40 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td>◎</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>30 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
<tr><td colspan="8">実務経験のある教員による授業内容</td></tr>
<tr><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="8">学習相談・支援体制</td></tr>
<tr><td colspan="8">講義後の30分間および講義の翌日と翌々日の12時から12時45分まで講師控室にて質問・相談に応じる</td></tr>
</table>

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111031				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅰ（成人A）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	河田美紀				多　職　種　連　携	

講義概要

看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸器、循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、腎泌尿器の病態を理解し、適切な対応について理解する。

授業内容（到達目標を含む）

疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。

教材

テキスト　南山堂　看護のための臨床病態学　改訂５版　ISBN 978-4-525-50515-8
参考図書　医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	呼吸器疾患（呼吸器感染症）	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺炎、肺結核を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第2回	呼吸器疾患(気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患)	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第3回	呼吸器疾患（肺癌、気胸）	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺癌、気胸を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第4回	循環器疾患（虚血性心疾患）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第5回	循環器疾患（心不全、不整脈）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の心不全熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第6回	循環器疾患（弁膜症・心筋症）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の弁膜症、心筋症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第7回	循環器疾患（大動脈疾患・先天性心疾患）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の大動脈解離、ファロー四徴症、心房中隔欠損症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第8回	血液疾患（出血性疾患・貧血疾患）	予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の血友病、播種性血管内凝固症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第9回	血液疾患（造血器腫瘍）	予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可

第10回	内分泌疾患（下垂体・甲状腺疾患）	予習：下垂体・甲状腺の解剖生理の確認と教科書のバセドウ病、橋本病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第11回	内分泌疾患（副腎疾患）	予習：副甲状腺・副腎の解剖生理の確認と教科書のクッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第12回	代謝性疾患	予習：糖・脂質代謝の解剖生理の確認と教科書の糖尿病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第13回	自己免疫疾患・免疫不全	予習：免疫機能の解剖生理の確認と教科書の関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、ＡＩＤＳを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第14回	腎疾患（腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群）	予習：腎臓の解剖生理の確認と教科書の腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第15回	腎・泌尿器疾患（尿路疾患・前立腺疾患）	予習：泌尿器系の解剖生理の確認と教科書の前立腺肥大、尿管結石、腫瘍疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可

評価方法・評価基準

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎		◎		20 %
宿題・授業外レポート		◎		◎		20 %
授業態度･授業への参加度		◎		◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

月～金　15時～17時　事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先　m-kawada@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111032				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人Ｂ）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	河田美紀、河田好泰				多　職　種　連　携	

講義概要

看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆膵の代表的な疾患に加え、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、整形外科疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患の病態を理解する。

（オムニバス方式　全15回）
（1　河田美紀/12回）
消化器・肝胆膵疾患、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患における代表的な疾患の病因、症状、検査、治療について
（45　河田好泰/３回）
運動器疾患（整形外科疾患）における特徴的症候や主な疾患（外傷、脊椎疾患、骨粗鬆症など）の病因、症状、検査、治療と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法について

授業内容（到達目標を含む）

疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。

教材

テキスト　南山堂　看護のための臨床病態学　改訂５版　ISBN 978-4-525-50515-8
参考図書　医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	運動器疾患運動器疾患（骨粗しょう症）	予習：骨代謝の解剖生理の確認と教科書の骨粗鬆症、フォルクマン拘縮、廃用症候群を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第2回	運動器疾患（外傷）	予習：骨の解剖を確認と教科書の大腿骨・腰椎骨折、骨折・捻挫・脱臼を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第3回	運動器疾患（脊椎疾患）	予習：脊椎・脊髄の解剖生理の確認と教科書の椎間板ヘルニア、脊椎損傷、脊柱管狭窄症、側弯を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第4回	消化器疾患（食道・胃疾患）	予習：食道・胃の解剖生理の確認と教科書の食道癌、胃炎、潰瘍、胃癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第5回	消化器疾患（小腸・大腸疾患）	予習：小腸・大腸の解剖生理の確認と教科書の虫垂炎、イレウス、炎症性腸疾患、大腸癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第6回	肝胆膵疾患（ウイルス肝炎）	予習：肝臓の解剖生理の確認と教科書のウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第7回	肝胆膵疾患（胆嚢・膵臓疾患）	予習：胆のう、膵臓の解剖生理の確認と教科書の胆石症、急性膵炎、膵臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第8回	脳神経疾患（脳血管障害①）	予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳出血、クモ膜下出血を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第9回	脳神経疾患（脳血管障害②）	予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳梗塞を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可

第10回	脳神経疾患（腫瘍・てんかん）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の脳腫瘍、てんかんを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第11回	脳神経疾患（感染症、変性疾患）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の髄膜炎、パーキンソン病、重症筋無力症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第12回	乳腺疾患	予習：乳腺組織の解剖生理の確認と教科書の乳癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第13回	皮膚疾患　感染症	予習：皮膚組織の解剖生理の確認と教科書の水痘・帯状疱疹、麻疹、風疹を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第14回	耳鼻咽喉疾患　口腔外科疾患	予習：耳・鼻・咽頭・喉頭・口腔の解剖生理の確認と教科書の中耳炎、副鼻腔炎、メニエール病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第15回	眼疾患	予習：眼組織の解剖生理の確認と教科書の白内障、緑内障、網膜剥離を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可

評価方法・評価基準：定期試験（100%）

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎		◎		20 %
宿題・授業外レポート		◎		◎		20 %
授業態度･授業への参加度		◎		◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

医療機関における内科いいとしての実務経験を活かし、臨床で頻度の多い疾患の病態、診断、治療について実践的な講義をする。

学習相談・支援体制

月～金　15時～17時　事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先：m-kawada@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード	111033				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）				実践的理解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	河田美紀、井上眞人				多職種連携	

講義概要

看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について、後半は高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

（45井上眞人／8回）
精神疾患に関する知識を学習することにより、保健医療福祉の各側面に配慮しつつ、QOL（Quality of Life)を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション，社会参加，在宅医療，介護を含む）に資する精神看護の課題について理解する。
（１河田美紀／7回）
老年医学に加齢による心身の変化の特徴的症状や疾患（認知症を代表とする神経疾患、誤嚥性肺炎を代表とする呼吸器疾患、高血圧を代表とする循環器疾患、逆流性食道炎を代表とする消化器疾患等）の病因、症状、検査、治療を理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

講義時に指定する。なお、本科目は予習及び復習時間として90分を設定している。

教材

精神
テキスト　岩崎弥生/渡邉博幸(編)：新体系看護学全書　精神看護学②精神障害を持つ人の看護　第6版．メヂカルフレンド社，2021　ISBN：978-4-8392-3390-7
参考図書　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学の基礎　精神看護学①　第6版．医学書院，2021
　　系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　第4版．医学書院，2022
高齢者
テキスト　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾病論　医学書院2018　ISBN：978-4-260-03172-1
参考図書　新体系看護学全書　老年看護学　健康障害を持つ高齢者の看護　第4版　メディカルフレンド社　2016

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	総論：精神疾患の分類，精神科リハビリテーション…リカバリー（回復）を支えるための援助方法 ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の診断	予習：既習の精神医学的問題に関する看護過程をふり返る。 復習：リカバリー（回復）のプロセスにおいて、看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第2回	ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の治療	統合失調症の診断・治療に関する看護過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第3回	ICD10；F3：気分（感情）障害：うつ病の診断・治療	気分（感情）障害：うつ病の診断・治療に関する看護過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第4回	ICD10；F3：気分(感情)障害：双極性感情障害の診断・治療	気分（感情）障害：双極性感情障害の診断・治療に関する看護過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第5回	ICD10；F4:神経症性障害の診断と治療	神経症性障害の診断・治療に関する看護過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第6回	ICD10；F4:ストレス関連障害，F5：生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断と治療	ストレス関連障害，生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断・治療に関する看護過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第7回	ICD10;F7:知的障害，F8:心理的発達の障害，F9:小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療	知的障害,心理的発達の障害,小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療に関する援助過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第8回	ICD10;F0: 器質性精神障害の診断と治療，F1:精神作用物質等による精神及び行動の障害，F6：成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療	器質性精神障害，精神作用物質等による精神及び行動の障害,成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療に関する援助過程において，看護職が担う役割と看護目標を理解する。		可
第9回	認知・知覚・呼吸循環機能の老化	予習：脳神経・呼吸循環器の解剖生理学の確認。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可

第10回	消化・代謝・排泄・免疫機能の老化	予習：消化・代謝・腎・免疫機能の解剖生理学の確認。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第11回	老年症候群	予習：意識障害、脱水状態の理解。 復習：配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第12回	高齢者のフィジカルアセスメント（診察方法・検査）	予習：老化にともなう生理学的変化の確認。 復習：配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第13回	高齢者の疾患の特徴（神経疾患）	予習：教科書のパーキンソン病、認知症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第14回	高齢者の疾患の特徴（循環器・呼吸器疾患）	予習：教科書の高血圧、動脈硬化病変、肺炎を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
第15回	高齢者の疾患の特徴（消化器疾患）	予習：教科書の逆流性食道炎、虚血性腸炎を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間：30分　復習時間：60分		可
評価方法・評価基準	試験（50%），受講課題に関する提出物（50%）により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎		◎		20 %
宿題・授業外レポート		◎		◎		20 %
授業態度･授業への参加度		◎		◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

河田美紀：医療機関における内科いいとしての実務経験を活かし、臨床で頻度の多い疾患の病態、診断、治療について実践的な講義をする。
井上眞人：精神保健指定医，精神科専門医・指導医，日本医師会認定産業医としての臨床医等経験に基づき授業を行う。

学習相談・支援体制

授業前後に質問を受付ます。
月～金16：10～17：10　事前にアポイントメントを取ってください。m-kawada@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード	111034				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）				実践的理解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	近藤直実、野田みや子				多職種連携	

講義概要

（概要）看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。
本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。
後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。
（オムニバス方式　全15回：母性疾病8回、小児疾病7回）

授業内容（到達目標を含む）

母性：周産期の異常と婦人科疾患およびその原因、症状、検査、治療
小児：小児期の疾患、障害の特徴、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

テキストの内容について、しっかりと理解しておく。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

第1回～第8回（母性疾病）
テキスト：必要時、適宜提示する、母性看護学のテキストに準ずる
参考図書　女性生殖器（松岡浩他　医学書院　2,530円）　母性看護各論（森恵美他　医学書院　3,300円）
第9回～第15回(小児疾病)
テキスト（小児）　以下のテキストは小児看護学のテキストに準ずる
ナーシンググラフィカ　小児看護学　（１）小児の発達と看護　第7版　中野編　メディカ出版　4,180円
ナーシンググラフィカ　小児看護学　（３）小児の疾患と看護　第3版　中村編　メディカ出版　3,520円

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス、医療の動向と看護　女性生殖器の構造と機能　（野田）	予習：我が国の女性と小児の医療について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	疾16A1	可
第2回	診察・検査と治療・処置　（野田）	予習：女性と男性の違いについて考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	疾16A2	可
第3回	母性に関する疾患の理解　（野田）	予習：産婦人科における疾病について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	疾16A3	可
第4回	母性に関する疾患の理解　（野田）	予習：産婦人科における治療について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	疾16A4	可
第5回	出生前診断　遺伝学　（野田）	予習：遺伝的疾患について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	母3B4	可
第6回	妊娠の異常と看護　（野田）	予習：出生前診断について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	母4A1-4	可
第7回	分娩の異常と看護　（野田）	予習：妊娠の異常について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	母4A5-8	可
第8回	産褥の異常と看護　（野田）	予習：分娩の異常について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	母4A9-13	可
第9回	小児の成長と発達　（近藤）	予習：産褥の異常について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	母4A14-18	可
第10回	新生児と疾患　（近藤）	小児の成長と発達につき修得する。		可
第11回	遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患(近藤)	新生児と疾患につき修得する。		可
第12回	免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症　（近藤）	出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。		可
第13回	循環器疾患、腎泌尿器疾患　（近藤）	免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。		可
第14回	消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患　（近藤）	循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。		可
第15回	まとめ　（近藤）	消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患につき修得する。につき修得する。		可

評価方法・評価基準	講義開始時の5分間テスト(10点)、授業態度(10点)、課題レポート(20点)、最終試験(60点)により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S(90-100点): 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A(80- 89点): 基本的な目標を十分に達成している。

B(70-79 点): 基本的な目標を達成している。

C(60-69 点): 基本的な目標を最低限度達成している。

D(60点未満): 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	◎	◎		40 %
宿題・授業外レポート		○	◎	◎		40 %
授業態度･授業への参加度		○	○	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111035				ケア・スピリット	○
授業科目名	健康へのアプローチ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	藤原奈佳子				多　職　種　連　携	

講義概要

国民健康づくり対策の変遷から多様な集団の健康への効果的なアプローチを学ぶ。また、健康な生活を送るための生活習慣病予防やライフステージ別の健康づくりと予防について、疫学的な知見を参照しながら理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

健康は日々の暮らしの資源の一つであり、豊かな人生を実現するために必要なものである。特に医療専門職においては、自身はもちろん様々な健康状態の人々を対象とした健康へのアプローチに関する考え方を修得する。
到達目標
1.健康や健康づくりの概念（人の生涯を経時的に捉えた健康づくりを含む）を説明できる。
2.健康問題を個人から国民、世界へと配慮できる。
3.健康寿命の延伸をめざすための生活機能の維持・向上の観点からの健康づくりについて説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目は8コマで1単位であるため、1コマにつき毎回の授業時間外に予習(120分)・復習(120分)が必要となる。毎回、共通する内容として、学習課題を参考に予習は教科書などの該当箇所の通読（一通り目をとおす）または熟読（よく読んで理解をする）をして授業に臨むこと。復習は、授業のまとめをしてわからないところがあれば次回に質問をすること。

教材

教科書：イラスト　Well-beingを目指す公衆衛生学<初版,2024>、藤原奈佳子ほか著、東京教学社、2,970円（税込）
参考資料（2025年1月31日現在）：
①「岐阜保健大学SDGｓ宣言」＜https://www.gifuhoken.ac.jp/news/2022/10/sdgs.html＞
②「食事摂取基準の概要と日本人の食事摂取基準（2020年版）のポイントについて，厚生労働省健康局健康課栄養指導室，令和5年8月1日，第1回食事摂取基準(2025年版)」策定検討会，参考資料2
＜https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001128381.pdf＞の中から沿革（No.3），対象（No.6），BMI，栄養素の指標（No.7,9-11，23-24）
③「早わかり!食事バランスガイド、農林水産省、実践食育ナビ」
＜https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/＞
④健康日本21（第三次）推進のための説明資料、・令和5年5月、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会他、＜
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kenkounippon21_00006.html#h2_free5＞
→健康日本21（第三次）推進のための説明資料（その2）＜https://www.mhlw.go.jp/content/001158871.pdf＞
p.67図表1：循環器病領域のロジックモデル、p.77図表3：糖尿病領域のロジックモデル
⑤尾島・近藤（2011）,健康の社会的決定要因「ライフコース疫学」.日本公衆衛生雑誌,58(3),199-201.
＜https://www.jsph.jp/docs/magazine/2011/03/58-3-199.pdf＞
⑥a.提言　ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造、令和2年（2020年）9月2日、日本学術会議、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会. https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-7.pdf
　aの提言をまとめたもの<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t291-7-abstract.html>

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	健康の概念と健康づくりの考え方： 健康観と健康感、QOL、自己実現、健康増進、ヘルスプロモーション等	▸予習：教科書【第1章】 1▷健康の概念（pp.2-5）、2▷5ヘルスプロモーション(pp.9-10)、3▷健康づくりと予防の段階（pp.11-13）を熟読する。第1章　表1-01健康の捉え型の歴史的変遷　を通読する。 ▸復習：1.多様な健康観を理解し、自身の健康に対するとらえ方への道標としてゆく。/2.健康を理論的に捉えた多様な健康観があることを学び、対象の健康感を配慮できるようにする。	**基礎1C 健支6A3 健支9A3**	不可
第2回	世界規模の健康問題と持続可能な開発目標（SDGｓ）へのアプローチ： MDGｓからSDGsへ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の評価に用いられる保健医療サービス、ウェルビーイングとSDGs、SDGｓのウエディングケーキ図等	▸予習：1.教科書【第12章】国際保健（pp.265-274）を通読する。／2.岐阜保健大学SDGｓ宣言（参考資料①）を閲覧する。 ▸復習：健康や健康づくりの概念を理解し、健康問題を個人から国民、世界へと配慮できるようにしておく。	**看統3B2**	不可
第3回	施策や事業の効果的な健康へのアプローチ： 対象の健康問題の根拠、疫学、予防レベル、国民健康づくり対策、疾病のロジックモデル、PDCAサイクル等	▸予習：教科書【第1章】3.健康づくりと予防の段階(pp.11-13）、4.効果的な公衆衛生活動（pp.14-17）を熟読する。第2章保健統計と指標を通読する。 ▸復習：健康を支援するための対象の現状分析と健康問題の把握のために、保健統計調査による指標を読み解く。	**健支6A4 健支6C2,3**	不可
第4回	健康行動に関連する心理（認知）行動的要因と保健行動:自己効力感、ストレスへの対処、KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、生物心理社会モデル、行動変容ステージモデル、エンパワメント等	▸予習：教科書【第7章】1-3.保健行動に関する理論（pp.145-147）、第7章3.喫煙行動（pp.152-158）、4.飲酒行動（pp.159-161）、5.睡眠、休養、ストレス(pp.162-167)を通読する。 ▸復習：自身の健康行動に関する心理行動的要因を考える。	**必2A 必7D3 必7G3 必14C5 疾病1A3 健支9B4,5 健支10A 成人6C3**	不可

第5回	主要疾患の発症予防･重症化予防と生活機能の維持・向上：がん、循環器疾患（脳血管疾患･心疾患）、糖尿病、フレイル等	▸予習：教科書【第8章】,【第10章】3.高齢者保健・介護を通読する。 ▸復習：健康日本21（第三次）における循環器病と糖尿病の予防対策を閲覧（参考資料④など）し、計画的な対策を理解する。	**必11B1-2 疾病2A2**	不可
第6-7回	ライフコースアプローチとしての健康づくり：社会的公正と健康格差の是正、胎児期、乳幼児期、青壮年期、高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり	▸予習：教科書【第1章】4-3.社会的公正と健康格差の是正（p.17）、ジャカルタ宣言（p.17）、 表1-06.健康の社会的決定要因のソリッド・ファクツ（明確な根拠「のある事実）（pp.18-19）、 【第7章】ライフステージ（p.144）、ライフコースアプローチ(p.144)、【第10章】ライフステージに応じた保健活動（1.母子保健（pp.222-227）／2.成人保健(pp.228-232）／3.高齢者保健･介護(pp.233-245) ▸復習：参考資料⑤[尾島・近藤（2011）,健康の社会的決定要因「ライフコース疫学」.日本公衆衛生雑誌,58(3),199-201.] <https://www.jsph.jp/docs/magazine/2011/03/58-3-199.pdf>を閲覧し、過去の疫学研究の蓄積が現在の健康づくり対策に反映されていることを理解する。	**小児3B2 ー4**	不可
第8回	まとめ：地域社会で人々が「よい状態（well-being）」を目指す保健活動について考え、課題レポートとしてまとめる。	▸予習：参考資料⑥を閲覧する。 ▸復習：これまでの授業内容を整理する。	**必1A2 健支9A3**	不可

評価方法・評価基準	定期試験　60%、課題レポート20%、授業態度20%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80-89 点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		○	○	◎		20 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		40 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	○	20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

連絡先：藤原 <n-fujiwara@gifuhoken.ac.jp>

実習科目

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	111036				
授業科目名	健康と運動				
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		
担当教員	藤原奈佳子				

人　間　力	○
ケア・スピリット	
実　践　的　理　解	○
プロフェッショナリズム	○
多　職　種　連　携	

講義概要

様々な運動・スポーツの実践を通して、生涯に亘って健康の保持増進を図るための基礎知識と技能を身につけるとともに、仲間との交流を通して、コミュニケーション能力の向上や協働の精神の醸成を図る。

授業内容（到達目標を含む）

1. スポーツ医･科学と健康について理解する。
2. 様々な運動（ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞやﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ）及びスポーツを実践するための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 運動の実践では運動のできる服装と体育館シューズ･運動靴を着用し、アクセサリー類の着用は避けること。
2. 出席回数が開講回数の３分の２に達しない者は評価の対象外とする。
3. 怪我や病気などで運動の実践に支障がある場合はその都度申し出ること。（見学者はﾚﾎﾟｰﾄ提出）
4. 天候等の状況により内容や場所を適宜変更するため、適切に対応すること。

教材

指定しない　　※教室・講堂（体育館）・グラウンド（その都度連絡）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回 ～ 第30回	ガイダンス 本講義の目的･意義及び授業展開について 各種運動の実践①集団行動・身体つくり・身体ほぐし運動 ※この講義は、学生の健康の保持増進が目的であり、日々の運動の習慣づけを最終目標とする。そのために、1回の講義時間は、5限目の16:20～17:05の45分間とし、年間を通して実施する。 年間を通して30回の出席を目標とする。 ※「予習・復習について」 ・週240分程度、自らに適した運動や各種スポーツを選択・実施し、本講座での運動実践が円滑・安全に実施できるよう備えると共に、自ら健康の増進を図る。			不可

評価方法・評価基準	出席･授業態度100％

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		○	◎	○		30 %
授業態度･授業への参加度		○	○	◎		70 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

長年のの実務経験、運動経験を活かし、自ら運動に親しみ、生涯にわたって健康の保持増進を図る知識や技能ををを身に付け、仲間との交流を通してコミュニケーション能力の向上や協働の精神の醸成が図られる指導を展開する。

学習相談・支援体制

事前にアポイントを取ってください
高久道子：木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可　　連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp
野田みや子：火･木･金 16:10～17:00　　連絡先e-mail:m-noda@gifuhoken.ac.jp
水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp
水田：　　連絡先　e-mail e-mizuta@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111037				ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生学（疫学含む）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	藤原奈佳子				多　職　種　連　携	○

講義概要

公衆衛生の歴史と公衆衛生行政の発展を概観し、公衆衛生の考えかたを基盤に、人々が社会の中で健康に生きることについて、理解を深めることができるようになることを期待する。また、個人の集まりである集団を対象とした健康状態を客観的に把握し、科学的根拠に基づいた実践につながる疫学の考え方を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

全ての人々が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現をめざす公衆衛生活動につながる知識や考え方を学ぶ。
到達目標
1.健康・疾病・障害と生活の関わりの基礎的な概念を説明できる。
2.疾病の予防とヘルスプロモーションの考え方を論じることができる。
3.疫学の主な手法を述べることができる。
4.公害から環境問題へ環境施策の変遷をとおして、環境が健康に及ぼす影響を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目は8コマで1単位であるため、1コマにつき毎回の授業時間外に予習(120分)・復習(120分)が必要となる。毎回、学習課題に記載してある事を参考に、予習は教科書などの該当箇所の通読（一通り目をとおす）または熟読（よく読んで理解をする）をして授業に臨むこと。復習は、授業のまとめとして各コマに記載されている内容を整理し、わからないところがあれば次回に質問をすること。
関連する科目として、「健康と生活」（1年、前期、選択）と「健康へのアプローチ」（2年、後期、必修）がある。
なお、小項目確認シートNo.で[保]は保健師国家試験出題基準（令和5年版）を示す。

教材

教科書：イラスト　Well-beingを目指す公衆衛生学<初版 2024>、藤原奈佳子ほか著、東京教学社、2,970円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	**公衆衛生とは**：医科学の発展、公衆衛生の目的・目標・意義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、疾病の予防、社会的公正、健康格差、健康の社会的決定要因、個と集団、保健統計 **国際保健：**世界規模の健康問題、持続可能な開発目標（SDGs）、国際協力、国際機関	▶予習：教科書【第1章】 2▷医科学の発展と公衆衛生（pp.6-10）、3▷健康づくりと予防の段階-2.疾病予防の段階（pp.12-13）、4▷効果的な公衆衛生活動-2.対象へのアプローチ、3.社会的公正と健康格差の是正（pp.16-17）、【第12章】国際保健（pp.265-274）を通読する。 ▶復習：巻末資料1「医科学の発展と公衆衛生に関連する年表」(pp276-284)の中で、気になる内容のところをマークしておく。	**看統3A3 健支6A3 健支6A4 [保]疫9B2 [保]疫9A1 [保]疫9A2**	
第2回	**保健統計と指標**：保健統計の概要、人口静態統計、国勢調査、年齢3区分別人口、人口動態統計、出生、死亡、死因、国際疾病分類（ICD）、年齢調整調死亡率（直接法、間接法（標準化死亡比））	▶予習：教科書【第2章】保健統計と指標(pp.21-54)を通読する。 ▶復習：①人口動態統計と人口静態統計、患者調査、国民生活基礎調査の主な調査内容をまとめる。②図2-09.主な死因別にみた死亡率の年次推移（教科書p.32）を説明できるように文章で記述しておく。	**健支1A1,2 健支1B1,5 健支6D [保]疫4F1-2 [保]疫4B1-2**	
第3回	**健康状態・疾病の測定と評価（疫学）**：有病率、罹患率と累積罹患率、曝露、曝露効果の測定（相対危険、寄与危険、オッズ比）、バイアスと交絡、スクリーニング検査（検査の目的と適用条件、感度、特異度、的中率、真陽性、擬陽性）	▶予習：教科書【第3章】健康状態･疾病の測定と評価（疫学）2▷疫学の指標(pp.57-61)、3▷疫学における留意事項　1.バイアスと交絡(pp.62-63)、2.スクリーニング検査（pp.63-65)を通読する。▶復習：授業でふれた内容について、章末チェック項目(p.78)で整理しておく。	**[保]疫2A1-3 [保]疫3A2-3 [保]疫3B1-2 [保]疫4D1-**	
第4回	**環境と健康**：生態系と地球環境、環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染）、公害、環境基本法、環境衛生（気候、温熱、放射線、上下水道、廃棄物処理）、住居	▶予習：教科書【第4章】環境と健康(pp.76-106)を通読する。▶復習：授業でふれた内容について、章末チェック項目(p.106)で整理しておく。	**健支8A1-6 健支8C1-2**	

第5回	**衛生行政と政策のしくみ**:日本国憲法第25条、衛生行政の体系、法のピラミッド構造、衛生法規 **健康危機管理と感染症対策：**健康危機管理の定義と種類、災害、食中毒、食品の安全・安心を守しくみ、感染症法、感染症発生動向調査、検疫、学校感染症、予防接種、新興感染症、再興感染症	▶予習：教科書【第5章】1▷衛生行政と政策のしくみ(pp. 108-112)、【第6章】1▷健康危機管理(pp. 122-127)、2▷感染症(pp. 128-142)を通読する。 ▶復習：授業でふれた内容について、章末チェック項目（p. 120、p. 142）で整理しておく。	**健支3A2 健支11D2 健支8B2-3 健支11D3 ―――― 健支7A1 健支7A5 健支7A2 健支7B2-3**	
第6回	**生活習慣および社会環境改善と健康：**生活習慣病の概念、保健行動に関する理論（KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、生物心理社会モデル、行動変容ステージモデル、エンパワメント） **疫学の方法：**観察研究、生態学的研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究 **疫学研究の評価：**EBM、因果関係の捉え方	▶予習：教科書【第7章】1▷-3.保健行動に関する理論（pp. 145-147）、【第3章】4▷疫学の方法（pp. 66-71）、 5▷疫学研究の評価（pp. 72-75）を通読する。 ▶復習：授業でふれた内容について、章末チェック項目（p. 174、p. 78）で整理しておく。	**疾病1A3 [保]疫4B1-5**	
第7回	**公衆衛生と社会保障：**社会保障の定義と機能、社会保障制度の４つの柱、国際生活機能分類（ICF） **医療制度：**医療保険制度、国民医療費、医療圏、医療法と医療計画、医療提供体制 **産業保健：**労働基準法、労働安全衛生法、労働衛生の3管理、産業疲労、職業病、作業関連疾患	▶予習：教科書【第9章】1▷-1.社会保障の定義（pp. 198-199）、1▷-3.公衆衛生と社会保障（p. 200）、1▷4.医療制度（pp. 201-208）、【第11章】1▷産業保健（pp. 248-257） ▶復習：①社会保障制度の4つの柱について、図9-02 社会保障制度とは（p. 199）を理解する。②図9-09 ICFの生活機能モデル（p. 211）の図が示す内容を説明できるように文字で記述しておく。	**健支3B1 健支4A2 健支11C1 健支11C2**	
第8回	（前半）まとめ （後半）筆記試験			
評価方法・評価基準	筆記試験 60%、宿題・授業外レポート 30%、授業態度 10%			

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

評価方法・評価基準

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	◎	○	○	60 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	30 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	○	○	5 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	○	○	5 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容
学習相談・支援体制
連絡先：藤原〈n-fujiwara@gifuhoken.ac.jp〉

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111038				ケア・スピリット	
授業科目名	保健統計学				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	高久道子、國澤英雄				多　職　種　連　携	

講義概要

国民の健康、生活衛生の動向を把握するために国レベルの統計データの解読や関連する健康指標について学修する。「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口静態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口静態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口静態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査から国民の生活と健康の特徴を把握する。
到達目標：
1）保健統計データで用いられる各指標の意味を理解し、他の人に説明できる。
2）保健統計データから現代社会の現状や課題を把握することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は最終試験の受験権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

教科書：厚生労働統計協会「厚生統計協会　国民衛生の動向・厚生の指標」最新号、2,695円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	講義の目標と内容について 人口静態統計：国勢調査・日本の人口・世界の人口	予習：教科書 第２編第１章を熟読する。 復習：国勢調査について200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必1B1~9、健支6A3、健支6D2	
第2回	人口動態統計：出生の動向と死亡の動向	予習：教科書 第２編第２章を熟読する。 復習：日本の出生と死亡の動向について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	健支6D3、健支6D4	
第3回	人口動態統計：死亡の動向（粗死亡率・年齢調整死亡率）	予習：教科書 第２編第２章を熟読する。 復習：粗死亡率と年齢調整死亡率について各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	健支6D3、健支6D4	
第4回	人口動態統計：主要死因とその動向	予習：教科書 第２編第２章を熟読する。 復習：日本の男女の主要死因について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必1B8	
第5回	人口動態統計：妊娠・出産関連と乳児死亡	予習：教科書 第２編第２章を熟読する。 復習：妊産婦死亡、周産期死亡、乳児死亡について各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必1B7、健支6D5	
第6回	人口動態統計：平均余命・平均寿命・死因分析	予習：教科書 第２編第３章を熟読する。 復習：平均余命、平均寿命について各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必1B9、健支6D6	
第7回	健康状態と受療状況：国民生活基礎調査・患者調査	予習：教科書 第２編第４章を熟読する。 復習：国民生活基礎調査、患者調査について各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必2A8、健支6D8	
第8回	生活習慣と健康　飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等	予習：教科書 第２編第１章を熟読する。 復習：飲酒、喫煙、栄養について各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必2A8	
評価方法・評価基準	復習課題の提出20%、最終試験70%、授業参加度・態度10%により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="2">評価方法・
評価基準</td><td>【評価基準】
S(90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>70 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>20 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

高久：日本で暮らす外国人やLGBTQ＋の方たちの健康課題に取り組むとき、データを読み解くことはとても重要なことだと実感しています。基本的なデータの読み方を学んでいきましょう。

学習相談・支援体制

高久：木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。できれば事前にメールで連絡ください。
連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111039				ケア・スピリット	
授業科目名	社会保障論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永井　淑子				多　職　種　連　携	

講義概要

社会保障は「生活の基本的必要の不充足による困難」を解決する方法として制度化されたものであり、具体的には医療保険、年金保険、介護保険といった社会保険制度、生活保護制度、社会福祉制度がある。本講義では、社会保障の基本的考え方、わが国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学修する。

授業内容（到達目標を含む）

到達目標
1.日本の社会保障についての基本的知識を身につける。
2.日本の社会保障制度の現状と課題を理解する。
3.海外の社会保障制度についての基本的知識を身につけ、日本の制度と比較ができる。
4.医療従事者としての視点を意識しながら社会保障の課題について考えることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。

教材

教科書：「国民衛生の動向・厚生の指標」、厚生労働統計協会（1年次後期に購入済）
参考図書1：「最新社会福祉士養成講座　社会保障」、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規
参考図書2：「令和5年版厚生労働白書」ダウンロードURL:https://www.mhiw.go.jp/stf/wp/hakusho/kousei/

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、社会保障制度とは	公衆衛生の定義を理解する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 復習時間：90分		可
第2回	社会保険制度①（医療保険制度）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第3回	社会保険制度②（介護保険制度）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第4回	社会保険制度③（労災保険・雇用保険）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第5回	社会保険制度④（年金制度）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第6回	公的扶助（生活保護法及び関連法）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第7回	児童・高齢者福祉：1)児童福祉法 2)老人福祉法	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第8回	障害者福祉：身体障害者福祉法、　知的障害者福祉法、精神保健福祉法法発達障害者支援法、その他関連法	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可

評価方法・評価基準：復習の課題提出20%、最終試験80%により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○				20 %
宿題・授業外レポート		○	○			20 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			○	○		20 %
演　　習	文献検索、討論		○	○		10 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

1981年4月～1987年3月　鹿野温泉病院　医療ソーシャルワーカー　1992年4月～1996年3月　愛知県精神保健福祉センター　非常勤相談員

学習相談・支援体制

なし

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111040				ケア・スピリット	
授業科目名	日本国憲法（法と人権）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	市川　季夫				多　職　種　連　携	

講義概要

法は私たちが共同生活を行うルールを定めたものです。看護の仕事は人間の生命と健康に深く関わり「保健師助産師看護師法」という法律に定められています。この授業では、「保助看法」を規定している憲法の精神と人権について学びます。

授業内容（到達目標を含む）

日本における法の基本は日本国憲法です。あらゆる法律は、憲法に則り作成されています。憲法は一人ひとりの人権と自由の尊さを定めています。人権は人間の生命と健康を守り実現することを含めた考え方で、看護師の仕事と深い関係が有ります。授業では憲法の考え方を通して看護の仕事を学びます。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1　日本国憲法を読む。　2　保健師助産師看護師法を読む。　3　看護師の倫理綱領を読む。

教材

1　伊藤　真著　「伊藤　真の憲法入門」（講義再現版第７版）ISBN 978-4-535-52698-3　日本評論社　２０２２年　１８００円+税

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	どうして看護学生が憲法を学ぶのか？	いのちの重みを考える。		可
第2回	法とは何か	法は、人間が共同生活を送るためのルールである。		可
第3回	憲法は法律よりも上位の法である	憲法は「最高法規である」		可
第4回	憲法の前文を読む	憲法の精神。平和主義。民主主義、主権在民主義を理解する。		可
第5回	基本的人権　1	人権とは誰の権利のことか？		可
第6回	基本的人権　2　§13　§14	すべての国民は個人として尊重され、平等である。		可
第7回	基本的人権　3　§24	夫婦別姓、同性婚を考える。（婚姻、個人の尊厳と両性の平等）		可
第8回	基本的人権　4　§25	ホームレスも医療を受ける権利がある。（生存権保障）		
第9回	基本的人権　5　§26	子どもが家族の看護で学校に行けない。（ヤングケアラーと教育権）		
第10回	保健師助産師看護師法	看護師の仕事と身分などが決められている。		
第11回	看護職の倫理綱領	看護師はどのような態度で職務に専念すか？　行動指針を学ぶ。		
第12回	事例　1	認知症に対する看護師の爪ケア事件		
第13回	事例　2	褥瘡裁判		
第14回	憲法９条を考える	戦争と平和（再度いのちの重みを考える）		
第15回	まとめ	授業の振り返り		
評価方法・評価基準	毎回授業の振り返り（授業から学んだ新たな発見）を記述する20%。最終試験80%、により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="8">評価方法・
評価基準</td><td rowspan="8">【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（0%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>演　　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　　足</td><td colspan="6">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

名古屋市職員として３３年間、福祉行政に携わる。退職後"名古屋家族相談室"を開設し、家族の悩み相談を行う。ＤＶ、虐待、夫婦間の葛藤など人権にかかわる多くの相談がある。看護は患者本人を含めた家族も視野に入れる。

学習相談・支援体制

講義時間終了後に可能な限り対応する。

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111041				ケア・スピリット	○
授業科目名	家族看護論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	野田みや子、栗津昌枝				多　職　種　連　携	

講義概要

看護における家族の概念、家族を理解するための諸理論、家族アセスメントの視点について概説する。
家族の病気体験の理解をもとに、家族への支援のあり方を考える。

授業内容（到達目標を含む）

1．家族を単位として援助することの意義を説明できる。
2．家族員が病気になることによる家族への影響について説明できる。
3．理論を活用しながら、家族像を描くことができる。
4．家族との援助関係の形成や支援について、考えることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。

教材

テキスト　特に指定しない（授業ごとに、必要な資料を配布する）
参考図書　「家族看護学」（改訂第3版）山崎あけみ著、南江堂、2022年、2,750円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・ガイダンス ・家族の定義、家族の機能、家族看護とは	予習：家族が病気になった時の体験をまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)	必8A1	可
第2回	・家族看護に活用できる理論 ・グループワーク①	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)	必8A2	可
第3回	・家族の情報収集、アセスメントの視点 ・グループワーク②	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)	必8A3	可
第4回	・疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響 ・グループワーク③	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)	必8B1	可
第5回	・家族員が病気になることによる家族の体験の理解 ・グループワーク③	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)	必8B2	可
第6回	・家族支援のシステム、理論 ・グループワーク④	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第7回	・家族支援の実際 ・グループワーク⑤	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第8回	・グループワークのまとめ ・発表、相互評価	予習：家族の病気体験(事例)をグループでまとめる。(120分) 復習：最終課題レポートを作成する。(120分)		可

評価方法・評価基準：復習の課題提出20%、グループワーク･最終発表20%、最終試験40%により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		20 %
宿題・授業外レポート		○		○		10 %
授業態度･授業への参加度				◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	◎		30 %
演　習	文献検索、討論		○	◎		30 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111042				ケア・スピリット	
授業科目名	ケアサイエンス				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	藤原奈佳子、石井英子、柿原加代子、野田みや子、 小久保晃、秀山正和、鈴木岸子				多 職 種 連 携	○

講義概要

現代社会における「ケア」は社会に暮らす人々の生活の質を支える実践、ないし営みであり、多角的な視点から取り組みされている。日本学術会議では、2020年にケアに関わる社会の共通課題に対応するため、多学問分野、市民、行政等は協働して取り組む新たな知の体系として「ケアサイエンス」の創設が提唱された。この授業では、現代社会に求められるケアサイエンスの概念と、地域社会（コミュニティ）における多職種協働を視野に入れている。

授業内容（到達目標を含む）

到達目標：1.現代社会において、地域に暮らす人々が継続的により良く生きてゆくための支援を検討できる。
2.多角的な視点から生活の質を支えるとはどのようなことかを論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

原則として対面授業でおこなう。毎回の授業で予習120分、復習120分を必要とする。

教材

（参考資料）◆①提言　ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造、令和2年（2020年）9月2日、日本学術会議、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会. https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-7.pdf　◆②①をまとめたもの〈https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t291-7-abstract.html〉　◆③特集 ケアサイエンス−「ケア共同社会」の実現をめざす学際的アプローチ,看護研究,56(3),189-233,2023.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回 （藤原）	ケアサイエンスの概念(学際的融合)： 多層的なケアが必要となる背景／持続可能なケア／人とモノ等	▶[予習]参考資料②を閲覧しておく。▶[復習]多層的なケアについて自身の考えを400字程度にまとめる。	**必1A2 健支6A3 基礎1B1**	
第2回 （柿原）	ケア・ケアリングの概念（ケア哲学）： メイヤロフ、ノッテングス、ワトソン理論を柱に理論的理解をする	▶[予習]授業資料を読みケア・ケアリングについて理解して講義に臨む。身近で用いられているケア/ケアリングについて考える。▶[復習]配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	**基礎1A3**	
第3回 （野田）	・チーム医療におけるリスク管理(安全管理学) ・DX化、デジタル化時代の多職種連携(情報学)	▶[予習]課題資料を読みチーム医療について理解して講義に臨む。▶[復習]配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	**健支11D2 成人7D1 基礎2C2 看統1D1**	
第4回 （石井）	自己実現を可能とする住宅改修、介護保険制度の介護度申請の一次判定（住居学）	▶[予習]介護保険制度の要介護度1度から５度までをまとめておく。▶[復習]介護度の一次判定の仕組みをスマホを用いて再度判定し、介護に必要な時間量を具体的に、A4用紙1枚にまとめる。	**健支4C2 基礎1C6 成人7B2**	
第5回 （石井）	介護度一次判定に基づく住宅改修（住居学）	▶[予習]現在住んでいる住宅図を描いておく。改良したい場所はあるかを理解して講義に臨む。在宅療養上で自己実現を可能としたい住宅改良について考える。▶[復習]住宅改良の基本的な改善点とその効果を看護師の視点から、A4用紙1枚にまとめる。	**在/地7E4 必15A3**	
第6回 （小久保）	介護シミュレーション(リハビリテーション学)： 在宅復帰に向けた移動補助具における生活支援	▶[予習]授業資料を読みケア・ケアリングについて理解して講義に臨む。在宅復帰に向けて必要な移動補助具について考える。▶[復習]あなたが目指すリハ職としての視点も踏まえ、A4用紙1枚にまとめる。	**在/地7E3 基礎1B4**	
第7回 （秀山）	東洋医学に学ぶ地域ケア（東洋医学）： 予防医学におけるセルフケアの活用	▶[予習]東洋医学についてどのような医学なのかを調べておく。▶[復習]配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	**人体5A1**	
第8回 （鈴木岸）	コミュニティにおける医療専門職と住民の協働一事例を通して考える（コミュニティ学）	▶[予習]先行文献（新聞情報含む）から「医療専門職と住民の協働」または、「住民同士の協働」で生み出されたサービスや町づくりの事例を調べる。▶[復習]あなたが目指す「医療専門職と住民の協働」によるコミュニティづくりとは何か、A4用紙1枚にまとめなさい。	**健支2A1-4 在/地8B1 −8F4**	
評価方法・評価基準	1-8回で提示された課題（80%）、授業態度（20%）			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A（80-89 点）：基本的な目標を十分に達成している。 B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。 C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。 D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			○	◎		24 %
宿題・授業外レポート			○	○		16 %
授業態度･授業への参加度			◎	◎	○	32 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		16 %
演　習	文献検索、討論		○	○	○	12 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

藤原は職域集団における健康管理や研究活動における多職種と関わった経験を活かし授業する。石井は行政保健師として勤務した経験および訪問看護での勤務を活かし、地域住民を支える看護やその役割を教授する。柿原は急性期･慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義する。野田は臨床での長年の助産師経験･病棟管理経験を活かし具体的にわかりやすく教授する。小久保は理学療法士として臨床での勤務の経験を有し多職種連携、生涯学習に関わっている。秀山は、はり師きゅう師として臨床での勤務の経験を有し、地域ケアの予防･医療に携わる。鈴木は保健師の勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援した経験を生かして、地域で自分らしく暮らすことの意義や地域を支える看護の役割を教授する。

学習相談・支援体制

連絡先窓口：藤原 n-fujiwara@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111043				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子				多　職　種　連　携	○

講義概要

これから学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象者とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解して、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようにする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。

授業内容（到達目標を含む）

看護とは何か、看護に必要な知識を身につけ、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、根拠に基づいた看護実践の必要性を教授する。
到達目標　①看護の本質を論じることができる。②健康の捉え方を述べることができる。③主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。④看護の対象、看護の場、看護の機能と役割を述べることができる。⑤保健・医療・福祉提供システムと看護、チーム医療の重要性を関連づけることができる。⑥看護専門職としての課題と、これからの展望を論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護とは、看護の本質と責務	予習：　看護の本質と責務について調べる。 復習：　「看護のイメージ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第2回	看護の定義、看護の理論家たち	予習：　看護の定義について調べる。 復習：　「看護とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第3回	対象の理解：統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会	予習：　看護の対象の理解について調べる。 復習：「統合体としての人間とは」について200　字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第4回	対象の理解：健康障害をもつ対象の理解、ストレスと適応、人間の暮らし	予習：　看護の対象の理解について調べる。 復習：「統合体としての人間とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第5回	健康の捉え方：健康の定義、障がいの定義、社会状況の変遷と健康観の変化	予習：　健康の捉え方について調べる。 復習：「健康とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第6回	看護の歴史的変遷：原始～古代～中世～近世の看護	予習：　看護の歴史的変遷、事前配布資料について調べる。 復習：「第6回・第7回の授業内容から印象に残ったこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第7回	看護の歴史的変遷：アメリカ・ヨーロッパの看護	予習：　看護の歴史的変遷について調べる。 復習：「第6回・第7回の授業内容から印象に残ったこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第8回	看護の歴史的変遷：日本の看護	予習：　看護の歴史的変遷について調べる。 復習：「日本の看護の歴史で印象に残った内容」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第9回	看護の機能と役割：看護の目標・看護の活動	予習：　看護の機能と役割、看護目標、看護活動について調べる。 復習：「看護活動と医療チームの中での看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第10回	看護の機能と役割：看護の機能・役割、医療チームの中の役割	予習：　看護の機能と役割、看護目標、看護活動について調べる。 復習：「看護活動と医療チームの中での看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第11回	看護倫理とは：倫理学と看護学、価値とQOL、看護関係用語	予習：　看護における倫理について調べる。 復習：「看護倫理がなぜ必要か」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可

第12回	看護における法的側面：看護実践と医療安全、医療の質保証と医療過誤	予習：　看護における法的側面について調べる。 復習：「医療安全と医療過誤」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第13回	職業としての看護：看護の専門分化、看護職養成制度	予習：　事前配布資料を熟読する。 復習：　「日本の看護教育制度で思うところ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第14回	日本の看護教育の歴史的変遷、看護教育とキャリア開発	予習：　事前配布資料を熟読する。 復習：　「日本の看護教育制度で思うところ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
第15回	看護の継続性、保健・医療・福祉サービスと看護活動、看護の課題と展望	予習：　保健・医療・福祉システムについて調べる。 復習：「保健・医療・福祉と看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		可
評価方法・評価基準	定期試験80%、課題レポート20%により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		60 %
宿題・授業外レポート		◎	◎			20 %
授業態度･授業への参加度			◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

看護師として総合病院、大学病院、保健師として企業の保健管理部の経験をもとに看護学とは何かを教授していきます。

学習相談・支援体制

連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111044				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子、可知久美子、原田英子				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる。生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

コミュニケーション技法（基本的かかわり技法）、感染防御（スタンダードプリコーション、ガウン・手袋の着脱法）、ベッドメーキング（リネン類のたたみ方、オープンベッド・クローズドベッドの作製法）を教授する。到達目標　①基本的かかわり技法を通して、援助的対人関係について論じることができる。　②感染予防の意義と手指消毒の必要性を述べることができる。　③オープンベッドとクローズドベッドの基本に基づいたベッドを作製することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を２時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを２時間程度行ない次の授業に備える。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト　ナーシンググラフィカ基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、松尾ミヨ子他編、メディカ出版、3,740円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護援助方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの構成と内容の関連性、看護技術援助の意義と必要性、生活行動援助技術と診療に伴う援助技術は、コミュニケーション技術（講義）	予習：　保健・医療・福祉における生活行動援助技術の意義について調べる。 復習：「生活行動援助技術の意義と必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	コミュニケーション技術（基本的かかわり技法）、プロセスレコードとは（講義・演習）	予習：　コミュニケーションについて調べる。 復習：「対人関係とコミュニケーション」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第3回	場面設定による基本的かかわり技法（ロールプレイ）、プロセスレコード作成（演習）	予習：　患者に対する基本的かかわり技法とプロセスレコードについて調べる。 復習：「プロセスレコード作成の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第4回	患者と家族への支援、カウンセリング	予習：　カウンセリングとはについて調べる。 復習：「看護に必要なカウンセリング技法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第5回	環境調整技術、病床環境とは、環境アセスメント、患者（対象者）の生活の場の必要条件（講義）	予習：　環境アセスメントについて調べる。 復習：「患者の病床環境について思うこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第6回	環境を整える技術、テリトリーと個人空間、病院・病棟の構造と設備（講義）	予習：　病院・病棟の役割と病床環境とテリトリーについて調べる。 復習：「患者の病床環境について思うこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7回	感染防御技術、感染防御に必要な基礎知識、感染症に関する法律（講義）	予習：　感染症に関する法律を調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	感染防御アセスメント、実習室の使用法（講義・演習）	予習：　感染防御アセスメントについて調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	衛生学的手洗い法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：　スタンダードプリコーション、手洗いの意義について調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第10回	衛生学的手洗い法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：　スタンダードプリコーション、手洗いの意義について調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	リネン類・タオル類・寝衣のたたみ方、三角コーナー・四角コーナー・横シーツの作製法（演習）	予習：　リネン類・タオル類のたたみ方と日常生活との関連性、ベッドの角のシーツの作製法の意義について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、足元のタックをつくる意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第12回	ベッドメーキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習：　ベッドメーキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッドメーキングとボディメカニクスの関係、足元のタックをつくる意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	ベッドメーキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習：ベッドメーキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、シーツのしわの身体への影響」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	ベッドメーキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：ベッドメーキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、シーツのしわの身体への影響」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	ベッドメーキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：　オープンベッド・クローズドベッドと病床環境との関係について調べる。 復習：「患者にとっての安楽なベッドについての自身の考え」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

評価方法・評価基準	定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○		○		15 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	◎	50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	○		15 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援　助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。
山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。

学習相談・支援体制

原田連絡先：e-mail　e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：e-mail　k-kachi@gifuhoken.ac.jp
山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111045				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子、原田英子、可知久美子				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において様々な健康
段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について学内の実習室にて演習を行なう。具体的には衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取扱い、防御用装具、ベッドメーキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車椅子への移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

活動・休息援助技術、食事・排泄援助技術、清潔援助技術について教授する。
到達目標　①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。　②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。　③対象者の安全・安楽を踏まえた看護援助を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を２時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを２時間程度行ない次の授業に備える。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト　看護技術　講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）□

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、体位の安定性、人間工学とボディメカニクス（講義）	予習：　人間工学について調べる。 復習：「看護業務と人間工学の関係」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	活動・休息援助技術：体位変換の原理・法則、移乗と移送の意義と必要性、休息と睡眠への援助（講義）	予習：　活動・休息援助技術について調べる。 復習：「活動と休息の意義と関係」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第3回	体位変換法：4つの原理・法則（演習）	予習：　体位変換法について調べる。 復習：「体位変換4つの原理・法則の図示化」についてA4版2枚程度（縦置き横書き）にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第4回	体位変換法：4つの原理・法則法則（演習）	予習：　体位変換法について調べる。 復習：「体位変換4つの原理・法則の図示化」についてA4版2枚程度（縦置き横書き）にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第5回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習：　患者の移乗と移送について調べる。 復習：「患者の移乗・移送時の注意事項（留意事項）」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第6回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習：　患者の移乗と移送について調べる。 復習：「患者の移乗・移送時の注意事項（留意事項）」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7回	食事援助技術：栄養と食事、食欲と空腹感、栄養状態の評価、消化と吸収、非経口的栄養法（講義）	予習：　栄養とは何か、栄養状態の評価について調べる。 復習：「摂取物の消化と吸収」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	排泄援助技術：排泄の意義、排泄の生理、排尿・排便の異常（講義）	予習：　排泄の意義、排泄の生理について調べる。 復習：「摂取物の排泄の生理」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習：　食事介助時の留意事項、口腔ケア・排泄介助の留意事項について調べる。 復習：「口腔ケアの意義とブラッシング法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第10回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習：　食事介助時の留意事項、口腔ケア・排泄介助の留意事項について調べる。 復習：「口腔ケアの意義とブラッシング法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	清潔援助技術：身体清潔の意義と必要性、皮膚の生理作用、清潔法の種類（講義）	予習：　皮膚の生理作用について調べる。 復習：「皮膚の生理作用と身体清潔の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第12回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習：　皮膚の生理作用について調べる。 復習：「皮膚の生理作用と身体清潔の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習：　各種身体清潔方法について調べる。 復習：「入浴法と清拭法の相違、足浴の効果」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習：　洗髪の意義、洗髪法について調べる。 復習：「ケリーパッドによる洗髪での対象者と留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習：　洗髪の意義、洗髪法について調べる。 復習：「ケリーパッドによる洗髪での対象者と留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

評価方法・評価基準	定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○				10 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		30 %
授業態度･授業への参加度		○	○	◎	◎	50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	○		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。
山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。

学習相談・支援体制

研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。
原田連絡先：e-mail　e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：e-mail　k-kachi@gifuhoken.ac.jp
山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111046				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、可知久美子、山本澄子				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

医師の指示のもとで行なう診療に伴う援助技術を中心とした内容である。感染防御技術、安楽を促す援助技術、与薬と看護、呼吸を整えるための看護、排泄援助技術について教授する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を２時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを２時間程度行ない次の授業に備える。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト　看護技術　講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、診療における看護師の役割、診療（診察・検査）に伴う看護、滅菌物の取扱い・無菌操作について（講義）	予習：診療における看護師の役割について調べる。 復習：「診療（診察・検査）における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0154～157.127～224.233.234疾30～32基N047～51.53.56 112～114	
第2回	創傷保護管理、包帯法 安楽を促す援助（講義）	予習：創傷保護管理、褥瘡について調べる。 復習：「創傷保護管理と看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必251.252基N057.59～61.98～101	
第3回	与薬と看護 　与薬に関する基礎知識 　与薬における看護師の役割（講義）	予習：薬物療法の基礎知識について調べる。 復習：「薬物療法における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必175.176 213.214 基N0102～108	
第4回	与薬と看護 　注射法の基礎知識 　注射法の種類と適応 　輸血について（講義）	予習：薬物療法の基礎知識について調べる。 復習：「薬物療法における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	疾N041 基N074	
第5回	呼吸を楽にする技術：吸引・酸素吸入 体温を調節する技術：罨法	予習：酸素吸入、吸引について調べる。 復習：「人間にとって酸素吸入や吸引実施が　なぜ必要なのか」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0235～243 基91～97	
第6回	排泄援助技術 　排便障害に関する基礎知識：浣腸・敵便 　排尿障害とその援助（導尿）	予習：導尿法とは、浣腸法とはについて調べる。 復習：「人間にとっての導尿することの意義、浣腸することの意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0192～194 基N080	
第7回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域） 滅菌物の取扱い 滅菌手袋の着脱法 創傷処置（演習）	予習：清潔区域と汚染区域におけるガウンテクニック手技の必要性について調べる。 復習：「消毒と滅菌について」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0220～222	
第8回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域） 滅菌物の取扱い 滅菌手袋の着脱法 創傷処置（演習）	予習：清潔区域と汚染区域におけるガウンテクニック手技の必要性について調べる。 復習：「消毒と滅菌について」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0220～222	
第9回	温罨法、冷罨法（演習）	予習：温罨法と冷罨法について調べる。 復習：「温罨法と冷罨法の効用と禁忌」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基N097	

第10回	包帯法、三角巾、腹帯（演習）	予習：包帯法、三角巾について調べる。 復習：「包帯法の種類と適用部位、三角巾使用の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基N0100	
第11回	与薬の技術 注射針・シリンジ・真空採血管の取扱い 注射液の吸い上げ・アンプルカット（演習）	予習：与薬法の種類と使用法について調べる。 復習：「与薬法の種類とその効用」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基N0103～108	
第12回	与薬の技術 皮下注射法、筋肉内注射法、静脈内注射法 採血法（演習）	予習：与薬法の種類と使用法について調べる。 復習：「与薬法の種類とその効用」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0233.234 基N0102～108	
第13回	排泄を促す援助技術 導尿法、浣腸法（演習）	予習：医師の指示のもと行なう導尿法、浣腸法について調べる。 復習：「導尿法実施の注意事項、浣腸法実施の注意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0192～194.141	
第14回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	予習：医師の指示のもと行なう導尿法、浣腸法について調べる。 復習：「導尿法実施の注意事項、浣腸法実施の注意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0192～194 基N0102～108	
第15回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	復習：「診療（診察・検査）における看護師の役割」について今回の講義で学んだことを基に自分の考えを200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0192～194 基N0102～108	

評価方法・評価基準

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（0%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	◎		
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度				○		
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表					◎	
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な　基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。

学習相談・支援体制

原田連絡先：e-mail　e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：e-mail　k-kachi@gifuhoken.ac.jp
山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111047				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護過程演習Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、可知久美子、山本澄子				多　職　種　連　携	

講義概要

看護過程について理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導ける判断力を養成するため模擬患者を使用した授業を行なう。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象とのかかわりで得た情報を客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。さらに、対象により異なる理論を用いて看護過程を展開する能力を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

看護過程について理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導ける判断力を養成するため模擬患者を使用した授業を行なう。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象とのかかわりで得た情報を客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。さらに、対象により異なる理論を用いて看護過程を展開する能力を修得する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を1時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを1時間程度行ない次の授業に備える。２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。３．事例展開演習であり、学生個々が事例に対する看護過程の展開を行なうものである。

教材

テキスト　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、秋葉公子他著、ヌーヴェルヒロカワ、2,200円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護過程とは、看護過程の位置づけ	予習：　看護過程とは何かについて調べる。 復習：　課題「看護過程とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0180～183 基N023～28.35～41	
第2回	看護の本質と看護過程の関係性、看護過程と看護診断	予習：　看護の本質と看護過程の関連性とは何かについて調べる。 復習：　課題「看護論と看護過程の関連性、看護を記録する必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0180～183 基N035～41	
第3回	看護過程の構成：情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価	予習：　看護過程の構成について調べる。 復習：　課題「看護過程の構成立ての必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0180～183 基N035～41	
第4回	看護過程の展開法について、記録用紙の記載法について	予習：　看護過程の展開について調べる。 復習：　課題「看護過程の構成立ての必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0180～183 基N035～41	
第5回	事例の紹介	予習：　看護過程の展開について調べる。 復習：　課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第6回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習：　看護過程の展開について調べる。 復習：　課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習：　看護過程の展開について調べる。 復習：　課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第8回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第9回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第10回	体温表の記載方、事例の全体像	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11回	事例の全体像	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第12回	アセスメント、全体像の修正・追加	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	看護診断、看護計画立案	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14回	看護診断、看護計画立案、看護援助法	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第15回	事例に対する看護過程の一連の流れの確認	予習：　看護過程の実際について調べる。 復習：　課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

評価方法・評価基準

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	50 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表					○	10 %
演　　習	文献検索、討論				○	10 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。

学習相談・支援体制

山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
原田連絡先：e-mail　 e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：e-mail　 k-kachi@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111048				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護過程演習Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、可知久美子、山本澄子				多　職　種　連　携	

講義概要

前期開講の看護過程演習Ⅰで学習したペーパーペイシェントを継続して、各自が立てた看護計画を学生間同士で実践してみる。看護過程演習Ⅱはケーパーペイシェントによる看護計画立案実践の試みとバイタルサイン測定、各種看護技術（日常生活援助技術、診療に伴う援助技術）の再履修を行ない、後期の基礎看護学実習Ⅱにつなげていく。
看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象とのかかわりで得た情報を客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

ペーパーペイシェントによる看護計画立案の学内実践による看護過程とは何かを理解し、看護実践能力を高める。バイタルサイン測定、日常生活援助技術、診療に伴う看護技術の繰り返しの学習力を高め、医療関係従事者の中の看護師の役割について理解していく。
到達目標　①看護過程における看護計画立案の必要性・実践の意義を説明できる。
②バイタルサイン測定を確実に実施できる。
③各種看護技術のEBNに基づいた看護実践ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１学生個々の積極的参加姿勢により、学生個々の意識と技術の到達度に相違が生じる科目内容となる。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1-2回	授業の概要・授業の進め方、看護過程とは何かの意識づけ・位置づけの再確認	予習：看護過程とは何かについて調べる。 復習：課題「看護過程における重要ポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第3-4回	看護過程演習Ⅰで作成した記録用紙類の再確認。検査データの基準値と異常値。臨床判断能力とOSCE。	予習：看護師にとって患者の看護過程の展開がなぜ必要なのか考察する。 復習：課題「看護過程を展開する意義についての自身の考え」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第5-6回	ペーパーペイシェントによる各自の立案した看護計画の確認	予習：患者中心の看護とは何かについて考察する。 復習：課題「患者中心の看護とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第7-8回	バイタルサイン測定法の技術練習	予習：バイタルサインを測定の重要性について調べる。 復習：課題「バイタルサイン測定の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基N045.46	
第9-10回	学生自身が立てた看護援助法の実践	予習：自身の立てた看護援助法の技術法を確認する。 復習：課題「自身の立てた看護援助法の難点」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第11-12回	学生自身が立てた看護援助法の実践	予習：自身の立てた看護援助法の技術法を確認する。 復習：課題「自身の立てた看護援助法の難点」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第13回	バイタルサイン測定法の技術練習と確認	予習：バイタルサインを測定の重要性について調べる。 復習：課題「バイタルサイン測定の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第14-15回	事例設定によるバイタルサイン測定法	予習：バイタルサインを測定の重要性について調べる。 復習：課題「バイタルサイン測定の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
評価方法・評価基準				

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	50 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表					○	10 %
演　　習	文献検索、討論				○	10 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師としての総合病院、大学病院の経験から、看護師という専門職への意識づけ、役割を教授していきます。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。

学習相談・支援体制

山本連絡先：sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
原田連絡先：e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：k-kachi@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111049				ケア・スピリット	○
授業科目名	フィジカルアセスメント				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、可知久美子、山本澄子				多　職　種　連　携	

講義概要

看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を系統的に収集し、アセスメントする技術を身につける。
看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では、頭頚部、眼・耳・鼻・口、胸部（肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系）、腹部、直腸・肛門・外性器・鼠径部、四肢（筋・骨格筋系/末梢血管系、神経系）の系統別に診察を行ない、その結果のアセスメントを行なう。

授業内容（到達目標を含む）

フィジカルアセスメントとは何か。看護の対象である人間の健康にかかわる身体状態のアセスメント（評価・査定）技術について教授する。
到達目標　①フィジカルアセスメントの必要性を説明できる。
　　②フィジカルアセスメントに共通する技術を実施できる。
　　③バイタルサイン測定技術が正確にできる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を２時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを２時間程度行ない次の授業に備える。２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト　看護がみえる　vol3　フィジカルアセスメント　MEDIC　MEDIA　(3,300+税)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントとは、フィジカルイグザミネーション、フィジカルセスメントに臨む姿勢、フィジカルアセスメントの流れ （フィジカルアセスメントの共通技術：問診、視診、聴診、触診）	予習：　ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは何かについて調べる。 復習：　課題「ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは」について 　　200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基礎 N042.43. 44	
第2回	系統別アセスメント 1.頭部、顔面、頸部 2.鼻・耳・口腔/咽頭のアセスメント 3.眼（視覚）のアセスメント	予習：　頭部、顔面、頸部、眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「頭部、顔面、頸部、眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	人N046.47 人N049.50 52.53 基N046	
第3回	系統別アセスメント 1.胸部・肺(呼吸器系) 2.心臓・血管系（循環器系）	予習：　胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	人 N062.63.6 4.69.101 基N091 基N046	
第4回	系統別アセスメント：乳房・腹部・生殖器	予習：　乳房、腹部、生殖器、肛門のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基N0187 基N046	
第5回	系統別アセスメント：筋・骨格系、脳・神経系	予習：　筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0188 人N031～ 35.45.46	
第6回	バイタルサインとは 意識状態のアセスメント	予習：　意識状態のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「意識状態のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	人N0139 140.141 必N0184 必N0185 必N0186 N021.45	
第7回	バイタルサイン測定の意義 体温・呼吸・脈拍・血圧	予習：　バイタルサインとは何かについて調べる。 復習：　課題「バイタルサインの観察・測定・評価」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 人N0139 140.141 人N018 基N045.91	

第8回	フィジカルアセスメントしてみよう！	予習：　問診・視診・聴診・触診について調べる。 復習：　課題「診察技術における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 必N0186 基N042 43.44	
第9回	バイタルサイン測定の実際	予習：　体温のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「体温維持のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 必N0186 人N018 基礎43～46	
第10回	バイタルサイン測定の実際	予習：　脈拍のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「循環系とは何か」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 必N0186 基43～46	
第11回	バイタルサイン測定の実際	予習：　呼吸のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「呼吸のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 必N0186 基43～46	
第12回	バイタルサイン測定の実際	予習：　血圧のアセスメントについて調べる。 復習：　課題「血圧測定時の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0184 必N0186 基43～46	
第13回	バイタルサイン測定の実際 呼吸音・心音・腸蠕動の聴取	予習：　呼吸音、心音、腸蠕動について調べる。 復習：　課題「呼吸音、心音、腸蠕動の異常」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	必N0187	
第14回	バイタルサイン測定の確認	予習：　バイタルサインとは何かについて調べる。 復習：　課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	N0184	
第15回	バイタルサイン測定の確認	予習：　バイタルサインとは何かについて調べる。 復習：　課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	N0184	

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

評価方法・評価基準

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	◎		60 %
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度				○	◎	30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表				○		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な　基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。

学習相談・支援体制

可知連絡先：e-mail　k-tachi@gifuhoken.ac.jp
原田連絡先：e-mail　e-harada@gifuhoken.ac.jp
山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111050				ケア・スピリット	
授業科目名	看護マネジメント				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必須	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護マネジメントの概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学び、看護マネジメントの必要性と重要性を理解する。具体的には、病院経営、看護政策、看護部門マネジメント、看護人材マネジメント、看護目標管理、医療・看護の質保証等について理解を深める。医療提供体制の中で、看護管理者の果たす役割と今日的課題についても考察する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 看護者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明できる。
2. 医療安全に必要な看護職としての責任や役割、組織の取組みを学び、事故防止システムを説明できる。
3. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

・医療安全・国際看護活動等社会の動きにも問題意識を持ち、能動的に学ぶ姿勢を期待する。

教材

手島恵,藤本幸三：看護管理学(改訂第3版) 南江堂 2023.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	看護管理の基礎：看護管理学とは、マネジメント	予習：教科書Ⅰ章P1～P24を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は看護管理がなぜ必要であるかを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統１A1 看統１A3 看統１E1 看統３B1	可
第2回	看護組織と管理：組織論、看護提供方式、リーダーシップ・メンバーシップ・意思決定・組織変革・看護管理のプロセス	予習：教科書Ⅰ章P25～82を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は看護提供方式の種類と特徴を記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統１A2看統１C2	可
第3回	看護管理のスキル：看護収支管理、医療経費と看護、人的資源管理、キャリアマネジメント	予習：教科書Ⅱ章P212～P249を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は看護師が満足すると考える人的資源管理について記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統１C1看統１F1　看統１F2　看統１F3	可
第4回	連携と協働：医療連携、他職種との連携、演習	予習：教科書Ⅲ章170～183を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は臨床現場で行われている連携の実際について記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	基礎2C1 基礎2C2 基礎6A3 基礎6B1 看統１B1看統4E1	可
第5回	アウトカムマネジメント：看護の質マネジメント、働きやすい職場環境づくり、演習	予習：教科書Ⅲ章185～208を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：具体的な時間管理、働きやすい職場作りを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	基礎6B2 看統１B2看統１F2看統１F3	可
第6回	看護サービス管理の周辺：医療制度、医療制度の変遷、現代法制度と看護管理	予習：教科書Ⅲ章P212～P249を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は看護職の法的根拠をもとに記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統１A3	可
第7回	看護管理と倫理：看護実践における倫理とは、組織の社会的使命を果たすための看護管理、事例	予習：教科書Ⅲ章P252～260を読み各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題は事例を看護実践の倫理の視点で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	基礎1D1 基礎1D2 基礎1D4 看統3A2	可
第8回	看護管理の展望：これからの時代の看護管理、これからの看護管理に求められるリーダーシップ,演習	予習：教科書Ⅳ章 復習：課題はどんなマネジメントが求められているか記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	看統１A3看統２A2看統１F3	可
評価方法・評価基準				

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）						
評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎			60 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		20 %
授業態度･授業への参加度			○	◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	◎		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：病院施設のトップマネージャーとしての経験を活かし、リアルな看護管理について授業を展開します。

永坂和子：連絡先　e-mail　k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111051				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護理論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子、野田みや子				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護理論家たちが「看護とは何か」を問い、探究し、その結果を著した看護の本質論である看護理論に接する。看護理論の発達、理論の発達過程、年代に沿って主たる理論家とその理論概要を紹介する。看護実践に必要となる主な看護理論を取り上げ、その理論について考察する。成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学のそれぞれの領域における看護理論について学び、将来の看護実践につなげる。

授業内容（到達目標を含む）

看護の先行研究とクリテイーク、看護理論との関連性について探求する。看護理論は看護実践の裏づけとなる考え方の枠組みを示すものであり、人間・環境・健康・看護の基礎概念を理解することにより、科学的思考を基盤とした看護実践基礎能力が身につくよう教授する。この科目はオムニバス形式で進める。
到達目標　①先行研究論文に対するクリテイークの必要性を論じることができる。
②先人の看護理論を学習し、それぞれの特性について述べることができる。
③看護学に共通する基本的概念と看護理論の関連性について論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を1時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを1時間程度行ない次の授業に備える。
２．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

プリントを適宜配布する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護学と看護理論、理論の定義、看護活動と看護理論家 （山本）	予習：　理論の定義について調べる。 復習：　課題「理論とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：90分		可
第2回	看護実践における倫理的概念と倫理的行動の規律、理論の看護実践活用に活かす意義 （山本）	予習：　看護者の倫理綱領について調べる。 復習：　課題「看護師の倫理綱領と倫理的行動の規律に対する自身の考え」について200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：90分		可
第3回	看護理論の分類と特徴、看護理論と看護過程、クリテイークの意義、フローレンス-ナイチンゲールとヴァージニア-ヘンダーソン （山本）	予習：　理論と看護過程について調べる。 復習：　課題「看護理論と看護過程の関係性」について200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：90分		可
第4回	主な看護理論家の紹介とそれぞれの特徴について （山本）	予習：どのような看護理論家がいるのか調べる。 復習：課題「看護理論家の特徴」について200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：90分		可
第5回	小児看護に活用できる理論： ①H.E.Peplau『対人関係理論』 ②D.E.Orem『セルフケア不足看護理論』 （野田）	予習：指定された資料に目を通す 復習：課題レポートを記述する ※授業開始時　5minutes test 予習時間30分、復習時間90分		可
第6回	母性看護に活用できる理論： ①S.C.Roy『適応理論』 ②ウエルネス志向の看護 （野田）	予習：指定された資料に目を通す 復習：課題レポートを記述する ※授業開始時　5minutes test 予習時間30分、復習時間90分		可
第7回	成人・老年看護に活用できる理論： ①M.Gordon『機能的健康パターン』 ②ストレングスモデル （野田）	予習：指定された資料に目を通す 復習：課題レポートを記述する ※授業開始時　5minutes test 予習時間30分、復習時間90分		可
第8回	看護理論家と看護理論が臨床看護とのかかわりについて （山本）	予習：興味のある看護理論家を一人挙げて調べる。 復習：課題「興味ある看護理論家を一人挙げ、その特徴と選んだ理由」について200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：90分		可
評価方法・評価基準	定期試験（レポート含む）100%＜山本40%、内藤30%、野田15%、臼井15%＞			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		O	○	◎		20 %
宿題・授業外レポート		O	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度			○	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			○	○		20 %
演　習	文献検索、討論		○	○		20 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師としての操業病院、大学病院の経験を通して、看護理論の重要性を教授していきます。
野田：臨床での長年の助産師経験・病棟管理経験を活かし、母性看護の特徴と概要、法律や制度、女性のライフサイクル各期の特徴や支援等について、学生にとって　イメージしやすく理解しやすい授業を構築展開します。

学習相談・支援体制

山本：研究室在室時は可能な限り対応します。メールも可： sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10から17:00まで、研究室(事前のアポイント必要：m-noda@gifuhoken.ac.jp)

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111052				ケア・スピリット	
授業科目名	看護倫理				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子、野田みや子				多　職　種　連　携	

講義概要

看護を実践するうえで看護倫理は基盤となることを理解し、基礎的な知識としての倫理の原理原則や看護者の倫理綱領、臨床倫理の諸問題、看護上の倫理概念（アドボカシー、責務と責任、ケアリング）などについて、事例を用いながら学ぶ。後半では、感受性を高めるためのセッション、最後に倫理的問題を解決するための方法を学び、事例を展開させながら、検討、発表会を行う。学生は、本科目の過程で自身の倫理的価値を省察する。

授業内容（到達目標を含む）

看護倫理学では、看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察することによって、倫理的感受性、倫理観を高めることを目指している。実際には、学生は、患者の権利を護ることに焦点をあてた事例検討を行い、倫理的感受性を養うと共に倫理観を培う。学習の到達目標として以下を目指す。
1．倫理の意義、看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）について説明できる
2．倫理の原理原則や看護者の倫理綱領について説明できる
3．対象の意思決定を支える看護職の倫理的意思決定について説明できる
4．臨床倫理の諸問題について指摘できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

看護実践では、看護倫理は重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。

教材

参考文献授業で適宜紹介する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	看護倫理を学ぶことの意義、なぜ学ぶのか、倫理学の基本的な考え方、生命倫理について、生命倫理の理論、看護職の責務　（山本）	予習：看護学概論で学習する「看護とは」について考えをまとめておく　(120分) 復習：倫理･生命倫理とはなにかについてまとめる　(120分)	必4A1,2	不可
第2回	看護倫理とはなにか、看護実践上の倫理的概念、専門職に求められる倫理、専門職の倫理綱領等　（山本）	予習：看護職の倫理綱領を熟読しておく　(120分) 復習：看護師の責務についてまとめる　(120分)	必4A4-6	不可
第3回	看護実践における倫理的問題の特徴、倫理的実践へのアプローチ(Jonsenの臨床4分割法、他) 事例によるグループ討議　（山本）	予習：臨床での倫理的課題について考えをまとめる　(120分) 復習：Jonsenの臨床4分割法を用いて事例分析する　(120分)	必4B1-4	不可
第4回	倫理的問題へのアプローチ（ナラティブアプローチ、レストによる4要素分析質問票） 事例によるグループ討議　（山本）	予習：倫理的問題のアプローチについて考えをまとめる(120分) 復習：4要素分析質問票等を用いて事例分析する　(120分)	必4B1-4	不可
第5回	性と生殖の生命倫理、生殖に対する医療的介入の課題、死について、死と医療、死と生命倫理 生殖医療に関する課題提示　（野田）	予習：生命倫理について考えをまとめる　(120分) 講義開始時：5minutes's test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	必4C1-3	不可
第6回	先端医療①移植医療・再生医療・遺伝子医療の歴史と現状②医療資源と保険制度 先端医療に関する課題提示　（野田）	予習：再生医療、遺伝子治療について考えをまとめる　(120分) 講義開始時：5minutes's test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	必4C1-3	不可
第7回	トンプソンの意思決定モデルについて10ステップで分析（グループワーク）　（野田）	予習：意思決定方法について考えをまとめる　(120分) 講義開始時：5minutes's test 復習：提示された課題についてまとめる　(120分)	必4C1-3	不可
第8回	看護職と研究倫理、研究における倫理的問題、倫理的配慮の要点　（野田）	予習：研究倫理について考えをまとめる　(120分) 講義開始時：5minutes's test 復習：提示された最終課題についてまとめる　(120分)	必4A-C	不可

評価方法・評価基準	課題レポート30%、期末試験70%により評価する

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。

B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。

C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		50 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30 %
授業態度･授業への参加度				◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		10 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師としての操業病院、大学病院の経験を通して、看護理論の重要性を教授していきます。
野田：臨床での長年の助産師経験・病棟管理経験を活かし、母性看護の特徴と概要、法律や制度、女性のライフサイクル各期の特徴や支援等について、学生にとって　イメージしやすく理解しやすい授業を構築展開します。

学習相談・支援体制

山本：研究室在室時は可能な限り対応します。メールも可： sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10から17:00まで、研究室2(事前のアポイント必要：m-noda@gifuhoken.ac.jp)

実習科目						
科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111053				ケア・スピリット	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	1年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、可知久美子、山本澄子				多 職 種 連 携	○

講義概要

入院生活を送る患者とのかかわりの実際を見学し、保健・医療分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。同時に看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面をもつものである。看護学を学ぶ者としての自覚と看護者の倫理綱領に則った責任ある行動の自覚を促すものである。
到達目標　①医療分野における看護職者の機能と役割を説明できる。
　　②看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた態度・行動ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1．実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
　（例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する　等）
2．看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。
3．実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。

教材

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1　実習場所

愛知県内、岐阜県内の病院、

2　対象学年

岐阜保健大学看護学部看護学科1学年次生（前期）80名

3　実習時期・実習時間

実習期間：8月に実施、一人当たり1週間（45時間）の実習

実習時間：　9：00～15：30

4　実習メンバー

1病棟につき基本4名の学生配置

5　実習スケジュール

詳細は「基礎看護学実習Ⅰ実習要項」参照のこと

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	80 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	◎		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。

学習相談・支援体制

可能な限り適宜対応します。
山本連絡先：e-mail　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
原田蓮絡先：e-mail　e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：e-mail　k-kachi@gifuhoken.ac.jp

実習科目						
科目区分	専門教育関連科目-看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111054				ケア・スピリット	○
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	可知久美子、原田英子、山本澄子				多　職　種　連　携	

講義概要

医療機関において健康障害により入院生活を送っている患者を受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力を修得する。看護に必要な情報を適切にアセスメントし、看護上の問題を明確化し、それを言動化する能力、また看護計画を立案し実践できる能力を身につける。これらの看護過程を通して、看護職として必要な態度を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

入院生活を送る患者を受け持ち、患者のニーズに沿った看護を提供できるように、看護過程の展開の基礎を身につけることができるように、また看護過程の展開から必要な看護援助法を考え導き出せるよう教授する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
　　（例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する　等）
２．看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。
３．実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。

教材

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1．実習場所

病棟実習：　岐阜県内、愛知県内の病院

２．実習対象学生

岐阜保健大学看護学部看護学科2学年次生（後期）80名

３　実習時期および実習時間

実習時期：2月～3月にかけて、3クールに分けて実習を行なう。一人当たり2週間（2単位）

実習時間：　9：00～15：30

４　実習メンバー

1病棟につき基本4名の学生配置

５　実習スケジュール

詳細は基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照のこと

1病棟につき基本4名の学生配置

５　実習スケジュール

火曜日～木曜日に病棟実習

詳細は「2021年度基礎看護学実習Ⅱ実習要項」参照のこと

評価方法・評価基準

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	80 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

山本：看護師として総合病院、大学病院の経験をもとに、看護過程の展開の重要性と展開法を教授していきます。
原田：臨床にて根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者にとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助に必要な基本的な看護援助の知識と技術について、一緒に修得していきましょう。
可知：長年の臨床経験を活かし、患者の安全・安楽を守るための「科学的根拠に基づいた看護」を教授していきたい。

学習相談・支援体制

山本連絡先：　sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp
原田蓮絡先：　e-harada@gifuhoken.ac.jp
可知連絡先：　k-kachi@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111055				ケア・スピリット	○
授業科目名	地域・在宅看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	鈴木岸子、栗津昌枝				多　職　種　連　携	○

講義概要

全ての看護学領域および諸関連専門科目で学んだ知識を基盤として、在宅療養者が、望む住まいでその人らしく健やかに療養生活が送れるよう、地域医療・ケアシステムの中で個別的看護を行うための基礎的能力を養う。在宅看護ケアの基盤となる保健・医療・福祉制度について理解し、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を踏まえた在宅ケアのありかたについて考察する。在宅のケアシステムにおける多職種の連携や、地域の社会資源やネットワークについても理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

地域で療養生活を続ける療養者とその家族の「望む生活」を支援する、在宅看護に関わる看護師に必要な様々な基礎的知識や理念に関して広く学び、地域・在宅看護に関する考え方を深める。到達目標として以下を目指す。
１．生活の場である地域と暮らしを理解することができる。
２．地域・在宅看護の対象者（療養者と家族）の特性と、在宅看護の基本となる知識・技術、倫理的配慮について説明できる。
３．地域療養を支える法・制度、在宅看護の基盤を通して、地域療養を支える看護の役割・機能が説明できる。
４．地域包括ケアシステムの中で展開される様々な看護と多職種との連携協働について説明できる。
５．在宅療養を支える訪問看護の特徴とケースマネジメント/ケアマネジメントが理解できる。
６．在宅療養を支える健康危機・災害対策について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、看護・医学・法制度に関する基礎的な知識・用語の理解が予備知識として必要です。各自で予習・復習をしてください。授業中に発言を求めます。無断遅刻・無断欠席等がある場合、学生生活改善レポートの提出を求めます。本授業は2/3以上（10日以上）の出席がない場合は単位取得できません。なお、「20分以上の遅刻は欠席」「遅刻・早退3回で欠席1回」となります。

教材

テキスト　石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス、 ・地域と生活と健康 ・地域看護（歴史的背景、地域看護の実践）	予習：テキストの該当部分を熟読し、関心があるテーマや質問をまとめる。（予習60分）　復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をノートにまとめる。（復習120分）	在/地1B6,在/地2A1	
第2回	・在宅看護（基盤、役割・機能）	予習：同上 復習：同上	在/地2A2,在/地2C1-5	
第3回	・地域・在宅看護における倫理と理論	予習：同上 復習：同上	在/地2B1,在/地2B3	
第4回	・地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	予習：同上 復習：同上	在/地5B4,在/地8A1-4,在/地8B1-2,在/地9A1-5	
第5回	・地域・在宅看護の対象者①療養者 小テスト①	予習：同上 復習：同上	在/地1A1-4,在/地6B1-9	
第6回	・地域・在宅看護の対象者②家族	予習：同上 復習：同上	在/地1B1-6	
第7回	・在宅療養を支える訪問看護	予習：同上 復習：同上	在/地4A1,在/地4B1-5,在/地5A1-3,在/地5B1-2,在/地9B1-2	
第8回	・在宅療養を支える訪問看護の展開	予習：同上 復習：同上		
第9回	・在宅看護に用いるアセスメントツール（国際生活機能分類　ICF）	予習：同上 復習：同上	在/地2D1-4	
第10回	・在宅看護におけるケアマネジメント 小テスト②	予習：同上 復習：同上	在/地2D5,在/地5B3,在/地8B3,在/地8C3,在/地8D3,在/地8E3,在/地8F3	

第11回	・地域療養を支える法・制度①社会資源の活用、在宅療養者の権利絵御擁護する制度と社会資源、医療保険制度	予習：同上 復習：同上	在/地2A2, 在/地2B1-4	
第12回	・地域療養を支える法・制度②介護保険制度、高齢者施策、障害者に対する法律	予習：同上 復習：同上	在/地1A3-4,在/地6B2-3	
第13回	・地域療養を支える法・制度③難病法、子どもの在宅療養を支える制度、生活保護制度	予習：同上 復習：同上	在/地1A1, 在/地6B1 在/地6B4	
第14回	・在宅療養を支える健康危機・災害対策	予習：同上 復習：同上	在/地3B1-2	
第15回	・日本における地域・在宅看護の動向 ・期末テスト	復習：同上	在/地9B2	

評価方法・評価基準	期末試験（70%）、小テスト（20%）、課題ノート（10%　加点・減点対象）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		90 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○		
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

鈴木岸子：保健師としての勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を用い、地域で自分らしく暮らす意義や地域を支える看護の役割を教授する。
粟津昌枝：行政保健師として勤務した経験を活かし、様々な健康レベルにある子どもから高齢者等、地域住民を支える看護やその役割が学べるよう教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：水曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
粟津昌枝：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111056				ケア・スピリット	○
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栗津昌枝、鈴木岸子				多　職　種　連　携	○

講義概要

本授業は、地域で療養する人々とその家族の安定した生活の維持や意思決定を支援するために、国際生活機能分類（ICF）をアセスメントツールとして用いて、情報収集、課題分析、看護計画、実施、評価のPDCAサイクルを展開する。併せて、在宅における臨床判断能力の基礎について教授する。

授業内容（到達目標を含む）

8コマの授業を通して、在宅療養者と家族のストレングスを生かす看護過程の展開と臨床判断に必要な、知識・技術、思考力を講義と演習方式で学習する。学習の到達目標は以下の5つとする。
１．介護保険制度におけるケアマネジメントの理念と目的から、看護過程の展開が説明できる。
２．在宅療養者と家族に対する看護過程の基本的な考え方が説明できる。
３．ICFを用いた情報収集、ヘルスアセスメントの特徴や視点等が説明できる。
４．在宅療養者と家族の望む生活を支援するため看護計画の立案ができる。
５．リスクマネジメントに求められる臨床判断能力が説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本授業の履修には、地域・在宅看護学概論の単位取得が必要です。また、本授業を受講するにあたり予習・復習をしてください（予習30分・復習60分）。講義は合同で行い、演習は、A,Bのグループに分け個人ワークを行います。無断遅刻・無断欠席等がある場合、学生生活改善レポートの提出を求めます。本授業は8コマ授業の為、3コマ休んだ場合は単位取得できません。なお、「20分以上の遅刻は欠席」「遅刻・早退3回で欠席1回」とします。

教材

テキスト　石田千絵編『地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』メディカ出版、最新版、3300円（税別）
参考図書　石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・ガイダンス、介護保険制度におけるケアマネジメントと在宅療養における看護計画の特徴およびICFの理解	予習：テキストの該当部分を熟読し、関心があるテーマや質問をまとめる。（予習120分） 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をまとめる。（復習120分）	在/地8C1-4,在/地8D1-4,在/地8E1-4,在/地8F1-4	
第2回	・看護過程の展開①事例の確認、記録用紙の説明と記録物の作成、疾患の理解	予習：講義内で課す課題についてまとめる。 復習：同上	在/地6B6,在/地6B7	
第3回	・看護過程の展開②情報収集、アセスメント	予習：同上 復習：同上	在/地6A1-4,在/地7A1-2,在/地7B2,在/地7C1	
第4回	・看護過程の展開③アセスメント（分析解釈のまとめ）	予習：同上 復習：同上	在/地7D1,在/地7E1,在/地7F1	
第5回	・看護過程の展開④看護計画の作成	予習：同上 復習：同上	在/地7C2 在/地7D2 在/地5B3	
第6回	・看護過程の展開⑤看護計画の作成と発表　提出	予習：同上 復習：同上		
第7回	・臨床判断能力（ケースメソッド）	予習：同上 復習：同上	在/地6A1-4	
第8回	・臨床判断能力（ケースメソッド）発表 ・期末テスト	復習：同上		
評価方法・評価基準	期末試験50%、成果物の提出40%、授業態度・授業への参加度10%により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="7">評価方法・
評価基準</td><td rowspan="7">【評価基準】
S(90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>50 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>40 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

鈴木岸子：保健師としての勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を用い、地域で自分らしく暮らす意義や地域を支える看護の役割を教授する。
粟津昌枝：行政保健師として勤務した経験を活かし、様々な健康レベルにある子どもから高齢者等、地域住民を支える看護やその役割が学べるよう教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：水曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
粟津昌枝：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111057				ケア・スピリット	○
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栗津昌枝、鈴木岸子				多　職　種　連　携	○

講義概要

地域・在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる援助技術について講義・演習、技術試験を通して修得する。さらに、在宅看護で必要とされる、医療的ケアに関連する看護技術、日常生活を支える看護技術、訪問看護師による健康危機・災害時対応に求められる看護技術を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

本授業は、地域で療養する人々と家族の健康を支える訪問看護師の役割や基本的看護技術について、講義・演習・グループワークを通して修得する。また、安全な住宅環境の整備や危機管理など多職種連携で行う支援の中での看護の役割と独自性について、学生自身が思考を深める場とする。到達目標は以下の6つである。
１．保健医療福祉制度における看護サービスの役割と独自性が説明できる。
２．介護保険制度および医療保険制度の中での訪問看護師の役割と機能について説明できる。
３．在宅療養生活を支える訪問看護の基本的な技術が修得できる。
４．在宅療養の日常を支援する看護技術が修得できる。
５．在宅で展開される医療ケアを支える看護技術について説明ができる。
６．訪問看護師による健康危機管理や災害時対応について説明ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本授業の履修には、地域・在宅看護学概論の単位取得が必要です。また、本授業を受講するにあたり予習・復習をしてください（予習30分・復習60分）。演習を行う場合は、2コマ連続で行い、A,Bのグループに分け、ユニフォームの着用を求める場合があります。本授業では、地域・在宅看護学実習に参加できる技術を有するかを判断するための技術試験（OSCE)を授業内で実施する。無断遅刻・無断欠席等がある場合、学生生活改善レポートの提出を求めます。本授業は2/3以上（10回以上）の出席がない場合は単位取得できません。なお、「20分以上の遅刻は欠席」「遅刻・早退3回で欠席1回」とします。

教材

テキスト　石田千絵編『地域・在宅看護論②地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3300円（税別）
参考図書　石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス ・訪問看護サービスの理解	予習：テキストの該当部分を熟読し、関心があるテーマや質問をまとめる。（予習60分）　復習：資料の復習と、講義内で課す課題をノートにまとめる。（復習60分）	在/地4A1 在/地4B1-5	
第2回	・訪問看護の技術①講義演習（家庭訪問、接遇マナー）	予習：同上 復習：同上	在/地2A2,在/地2C1,在/地7F1-2,在/地9B1-2	
第3回	・訪問看護の技術（技術試験）（家庭訪問、接遇マナー）　技術試験	予習：同上 復習：同上		
第4回	・日常生活を支える看護技術（食生活と清潔）	予習：同上 復習：同上	在/地7B1-5,在/地6C5,在/地7D1-3	
第5回	・療養を支える看護技術①講義（排泄ケア、ストーマ、排尿ケア）	予習：同上 復習：同上	在/地7C1-5 在/地7D1-3	
第6回	・同①演習（排泄ケア-おむつ交換）	予習：同上 復習：同上		
第7回	・同②（医療ケアの原理原則、在宅における薬物療法、化学療法、放射線療法） 小テスト①	予習：同上 復習：同上	在/地6B5,在/地6C1-2	
第8回	・療養を支える看護技術③講義演習（褥瘡・足病変・インシュリン）	予習：同上 復習：同上	在/地6C6,在/地7B9	
第9回	・療養を支える看護技術④講義演習在宅酸素（HOT）	予習：同上 復習：同上	在/地6A4,在/地6B9,在/地6C3-4	
第10回	・療養を支える看護技術⑤講義演習在宅人工呼吸療法（HMV）	予習：同上 復習：同上		
第11回	・療養を支える基本的な技術⑥講義（環境整備、生活リハビリ）	予習：同上 復習：同上	在/地7A1-2,在/地7E1-4	
第12回	・同⑥演習自助具作製の発表 小テスト②	予習：同上 復習：同上		

第13回	・在宅における安全と感染予防および健康危機管理　講義	予習：同上 復習：同上	在/地3A1-5,在/地3B1-2,在/地6C7	
第14回	・同　演習	予習：同上 復習：同上		
第15回	・在宅療養におけるターミナルケア ・期末テスト	予習：同上 復習：同上	在/地5A3	
評価方法・評価基準	期末試験60%、小テスト20%、提出レポート10%、課題ノート（10%　加点・減点対象）、技術試験は別途評価（再試有り）			

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。

B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。

C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		80 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		20 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	◎	
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

鈴木岸子：保健師の勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を生かして、地域で自分らしく暮らすことの意義や地域を支える看護の役割を教授する。
粟津昌枝：行政保健師として勤務した経験を活かし、様々な健康レベルにある子どもから高齢者等、地域住民を支える看護やその役割が学べるよう教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
粟津昌枝：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111058				ケア・スピリット	○
授業科目名	地域包括ケア・他職種連携論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子、栗津昌枝				多　職　種　連　携	○

講義概要

本授業では、地域包括ケアシステム構築の歴史的背景を学び、地域で暮らす人々の生活を支える様々な制度を通して、展開される多職種間、多機関との連携から、看護の役割と機能の理解を深める。さらに、海外の地域包括ケアの現状等を通して、これからの地域包括ケアについて考察する。

授業内容（到達目標を含む）

本授業は、講義、グループワーク、自己学習の発表等を行い、8コマで修得する。到達目標は以下の5つである。
1．地域包括ケアシステムの歴史的背景を通して目的、役割について説明できる。
2．地域包括ケアの中で人々の暮らしを支える制度政策、社会資源について説明できる。
3．地域包括ケアの中で展開される多職種・多機関連携から看護の役割や独自性について考えを深めることができる。
4．海外の地域包括ケアの現状を説明することができる。
5．自己学習、グループ学習を通して今後求められる地域包括ケアシステムについて意見を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本授業の履修には、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ、Ⅱの単位取得が必要です。また、本授業を受講するにあたり予習・復習をしてください（予習30・復習60分）。講義中は個人ワークの発表、グループワークなどを行いますので、積極的に自己学習をしてください。無断遅刻・無断欠席等がある場合、学生生活改善レポートの提出を求めます。本授業は８コマ授業の為、3コマ以上休んだ場合は単位取得できません。なお、「20分以上の遅刻は欠席」「遅刻・早退3回で欠席1回」とします。

教材

石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・ガイダンス、地域包括ケアシステム構築の歴史的背景と多職種・多機関連携	予習：テキストを熟読しまとめる。（予習60分） 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をまとめる。（復習60分）	在/地5B4,在/地8A1-4,在/地8B1-2,在/地9A1-5	
第2回	・地域包括ケアシステムと共生社会 ・地域療養を支える法・制度	予習：授業内で指示された課題についてて調べ、課題ノートにまとめる。（予習120分） 復習：同上	在/地9A1-5,	
第3回	・地域包括ケアを支える地域包括支援センターの役割や機能	予習：同上 復習：同上	在/地8B1-4,	
第4回	・地域包括ケアにおける地域アセスメント	予習：同上 復習：同上	在/地2D5,在/地8A3,在/地8B3,在/地8C3,在/地8D3,在/地8E3,在/地8F3	
第5回	・地域アセスメントから地域包括ケアシステムへの展開　GW	予習：同上 復習：同上		
第6回	・海外に見る地域包括ケアの現状　（発表）	予習：同上 復習：同上		
第7回	・今までの学習をふまえて、日本の地域包括ケアのこれからの発展を考える。GW	予習：グループワークに備え、自分の意見が言えるように、地域包括ケアのこれからについてまとめておく。 復習：同上		
第8回	・まとめ ・期末テスト			
評価方法・評価基準	期末試験80%、課題への取り組み10%、課題ノート（10%、加点・減点対象）により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		80 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

保健師としての勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を用い、地域で自分らしく暮らす意義や地域を支える看護の役割を教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail　kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111059				ケア・スピリット	
授業科目名	岐阜県の地域医療				実　践　的　理　解	
配当年/学期	4年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子、豊田雅孝、纐纈正浩、玉木ひとみ				多　職　種　連　携	○

講義概要

（概要）岐阜県は、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に区分され、都市部から山間部に至る多様な地域が、広大な県域に含まれている。岐阜県の地域医療について、その特色と現状を、医療、保健、住民の健康、高齢者福祉、介護等の観点から、将来の保健医療構想も含めて包括的に学修する。岐阜県における地域包括ケアシステム、岐阜県保健医療計画等の行政施策についても学び、その保健医療の地域特性について深く理解する。本講義を通じ、岐阜県の地域の特性を実践的に理解し、医療専門職に求められるその活用方法を考察し、卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

１．岐阜県の地域医療について、地域の医療と保健、住民の健康の観点から実際的に学ぶ。
２．岐阜県の地域医療について、高齢者福祉や介護の観点から実際的に学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につけるための情報の収集に努める。

教材

適宜配布する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	地域医療構想の 概 要（石井）	地域医療構想の位置づけを岐阜県のネットからの取集		不可
第2回	各圏域の方向性（石井）	岐阜圏域の5圏域について調べる		不可
第3回	岐阜県の地域医療について（石井）	岐阜県内の保健医療に関する情報収集を分析する		不可
第4回	岐阜県の地域歯科医療の現状（豊田）	岐阜県の歯科医療の状況をネットから収集しておこう		不可
第5回	岐阜県の福祉サービスの現状課題(纐纈)	岐阜県の福祉サービスを調べる		不可
第6回	岐阜県の児童福祉の現状課題(玉木)	児童福祉施設について調べる		不可
第7回	岐阜県の赤十字血液駅センターの役割（所長）	血液の世界的状況と岐阜県における位置づけを調べる		不可
第8回	将来あるべき医療提供体制を実現するための施策の内容（５つの柱）（石井）	課題レポートの提出		不可

評価方法・評価基準：課題レポート

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			○	○		20 %
宿題・授業外レポート			○	○		30 %
授業態度･授業への参加度		◎				50 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

h-ishii@gifuhoken.ac.jpへ連絡

実習科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード	111060				ケア・スピリット	
授業科目名	地域・在宅看護学実習Ⅰ（予防的家族訪問・地区診断）				実践的理解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子、粟津昌枝				多職種連携	○

講義概要

本実習の目的は、地域・在宅で療養する様々な人々の健康を支える保健医療福祉制度をはじめとした社会資源を広く学修することを通して、地域と人々の暮らしを理解し、多職種と共に地域の健康づくりに貢献する看護の役割と独自性を思考することである。

授業内容（到達目標を含む）

本実習は1週間の集中実習である。臨地で健康支援に当たる様々な専門職の講義や、実際の事業に参加し、参加者や専門職へのインタビューを行うこと、グループワーク等を通して地域の健康を支える社会資源と看護の役割を学ぶ。主な実習目標は以下の5つである。
1．地域包括支援センターの役割を通して、地域に暮らす人々の健康を守る制度やシステムを理解すると共に、その中で展開される看護職の役割と意義が説明できる。
2．地域・在宅で提供される各種サービスの現状を学び、多職種連携の意義と看護の役割が思考できる。
3．地域で生活する人々の健康支援を通して、地域・在宅で提供される看護の今後あり方が考察できる。
4．地域に赴き住民の方たちから直接話を聴くことを通して、生活環境や課題が把握できる。
5．学びを通してグループで健康教育を考案し、健康を支える看護の意義と役割を考察する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本実習は、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ、地域包括ケア・多職種連携および岐阜県の地域医療の単位を取得と、技術試験に合格していなければ、本科目を履修することができない。効果的な実習を行うために、実習前学修として以下の4点を行う。①1,2学年での既習科目全般の復習、②地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論1、Ⅱ、地域包括ケア・多職種連携および岐阜県の地域医療の復習③事前課題の「地域で提供されている様々な社会資源への参加」を実習開始前までに実施し、レポートを提出する。④自己学習および実習要項の熟読をすること。本実習においては、無断遅刻、無断欠席が認められた場合は、これ以降の実習は継続することができない（科目履修不可）。また、やむを得ない事由がない限り、臨地・学内を問わず、遅刻は欠席扱いとなる。

教材

石田千絵編『地域・在宅看護論②地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3300円（税別）
石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）
その他、既習科目のテキスト全般

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1．事前学習
1）居住する地域の社会資源について調べ、各自でアポイントメントを取り、事業に参加させて頂く。実施後はレポートとして提出する。
2）地域・在宅看護に関連する各種制度について復習しておく。
2．実習場所
1）学外：きーとす岐阜、あいそら羽島、および各種社会資源施設（学生により異なる）
2）学内：講義室
3．対象学生
岐阜保健大学3年生
4．実習内容
1）グループに分かれて、地域にある社会資源の学びと多職種連携の中での看護師の役割を考察する。
2）各自で調査した様々な社会資源への参加・交流を通して暮らしと健康を考察する。
3）グループで作成した「健康教育」（PPT）を発表する。
その他、詳細は『2024年度地域・在宅看護学実習Ⅰ実習要項』を参照のこと

評価方法・評価基準	実習記録（60%）、事前課題（30%）成果発表（10%）授業態度・参加度（加点、減点対象）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	60 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	30 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	○	
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	10 %
演習	文献検索、討論					
補足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

鈴木岸子：保健師の勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を生かして、地域で自分らしく暮らすことの意義や地域を支える看護の役割を教授する。
粟津昌枝：行政保健師として勤務した経験を活かし、様々な健康レベルにある子どもから高齢者等、地域住民を支える看護やその役割が学べるよう教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：水曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
粟津昌枝：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111061				ケア・スピリット	
授業科目名	地域・在宅看護学実習Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栗津昌枝、鈴木岸子				多　職　種　連　携	○

講義概要

本臨地実習では、地域で生活する療養者と家族の療養生活の継続を支援するために必要な、訪問看護の知識と技術、臨床判断能力について、地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら実践的に学ぶ。対象に応じた看護過程の展開を実践するための能力と態度を養うと同時に、地域包括ケアシステムの中での看護の役割と機能を思考しながら、学生自身の看護観を深めることを目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

本実習は、訪問看護ステーションにて、1週間の臨地実習を行う。実習目標は以下の5つである。
１．訪問看護ステーションの機能と役割から、在宅療養者と家族に提供される看護の意義と役割が説明できる。
２．あらゆる療養者と家族の療養生活を支える、訪問看護師の臨床判断能力を学ぶことができる。
３．在宅療養の特性を通して、倫理的配慮の重要性を述べることができる。
４．地域で生活するあらゆる療養者とその家族の支援を通し、自分らしく生きることの意義が説明できる。
５．メンバーと協力して実習目的・目標の到達を目指すと共に、自己の課題が明確にできる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本実習は、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ、地域包括ケア・多職種連携および岐阜県の地域医療の単位を取得と、技術試験に合格していなければ、本科目を履修することができない。効果的な実習を行うために、実習前学修として以下の3点を行う。①1,2学年での既習科目全般の復習、②地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論1、Ⅱ、地域包括ケア・多職種連携および岐阜県の地域医療の復習③事前課題の自己学習および実習要項の熟読をすること。特に、地域で療養する様々な人々と家族に看護支援を提供する訪問看護サービスは、幅広い知識と技術、それに裏付けられた臨床判断能力が求められる。そのため、既習科目の内容を整理し、理解して実習に臨むことが必要である。本実習においては、無断遅刻、無断欠席が認められた場合は、これ以降の実習は継続することができない（科目履修不可）。また、やむを得ない事由がない限り、臨地・学内を問わず、遅刻は欠席扱いとなる。

教材

石田千絵編『地域・在宅看護論②地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3300円（税別）
石田千絵編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3100円（税別）
その他、既習科目のテキスト全般

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1.実習場所
訪問看護ステーション
2.対象学生
岐阜保健大学3年生
3.実習期間および実習時間
実習時間：原則8:30～16:00（実習時間は実習施設により若干異なる）
学内は原則9:00～16:00
4.実習メンバー
各訪問看護ステーションにつき2名
5.実習スケジュール
月曜日から木曜日までは訪問看護ステーションにて実習
金曜日は学内発表と記録物の提出
その他、事前学習課題等は合同オリエンテーション時に提示、詳細は『2024年度地域・在宅看護学実習Ⅱ実習要項』を参照のこと

評価方法・評価基準	実習記録（70%）、事前課題（20%）成果発表（10%）授業態度・参加度（加点、減点対象）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	70 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	20 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	○	
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

鈴木岸子：保健師の勤務経験と、地域包括ケアの中で療養者と家族を支援したケアマネジャーの経験を生かして、地域で自分らしく暮らすことの意義や地域を支える看護の役割を教授する。
栗津昌枝：行政保健師として勤務した経験を活かし、様々な健康レベルにある子どもから高齢者等、地域住民を支える看護やその役割が学べるよう教授する。

学習相談・支援体制

鈴木岸子：水曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
栗津昌枝：火曜日12：10～13：00　　連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -精神看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111062				ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	夛喜田惠子				多　職　種　連　携	

講義概要

精神看護・精神保健の役割について、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、心のしくみと発達、人間関係のダイナミクスなどの心の働きなどを前提に、人の精神的・身体的・社会的な援助の考え方を教授する。また、精神科で出会う人々の状態像や治療過程を学び、対象者の状況に対応した援助の根拠を学ぶ。最終講では、精神医療・保健福祉における今日的な課題を考察する。

授業内容（到達目標を含む）

精神の健康や健康障害について、心の働きや人間関係、文化、社会、歴史とのつながりから理解するとともに、講義で紹介する文献や資料を通して各自の考え方を深める。学習の到達目標として以下を目指す。
1.精神看護の基本概念や精神保健の意味を説明できる。
2.人間の心のはたらきやパーソナリティの発達を説明できる。
3.ライフサイクルや生活の場における精神的危機や危機加入の特徴を説明できる。
4.精神看護の場で出会う人々や精神科での治療看護の特徴を説明できる。
5.社会における精神保健医療福祉の現状や精神医療における今日的課題を指摘できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

精神看護に幅広い視野をもつため、本科目では、予習や復習を前提としているため、教科書だけでなく授業で紹介する図書などを読み、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）レポートは毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノート・小テストの内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テスト（中間）を行う。本科目の単位を取得できなかった場合、補講やレポート課題での対応はしない。したがって、次年度本科目の開講時に履修すること。なお、本科目の単位を取得しなければ、３年生後期開講の「精神看護学実習」は履修することができない。

教材

テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第６版）、武井麻子編、医学書院、2,530円（税込）
参考図書「系統看護学講座別館　精神保健」（第３版）、末安民生編、医学書院、2,620円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	精神看護学で学ぶこと：精神看護学とはなにか、精神障害をもつ人の病いの体験、精神看護の課題	予習：事前課題①1回目授業のキーワーズ学習 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間120分	複数項目のため授業時に提示します。	可
第2回	精神保健の考え方：精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレス、精神障害のとらえ方	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第3回	心的外傷（トラウマ）と回復：心的外傷体験とサバイバーの心理、トラウマ反応、レジリエンス	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第4回	心のはたらき：意識、認知機能、感情、学習と行動、知能、心の理論	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第5回	心のしくみと人格の発達：人格と気質、意識と無意識、精神分析と精神力動理論、対象関係論、	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第6回	ライフサイクルとアイデンティティ：エリクソンの漸成的発達、愛着と心の安全基地、自己愛、甘え	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第7回	生活の場と精神的危機：家庭・学校・職場・地域における精神的危機の特徴と危機介入 小テスト（第1回～第7回目の学習内容）	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第8回	家族の精神の健康：多様化した家族と精神の健康、家族内コミュニケーション、システムとしての家族	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第9回	人間と集団：集団と個人、グループプロセス、全体としてのグループ、組織のダイナミクス	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：学修振り返りレポート⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可

第10回	精神科で出会う人々：精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像、特異症状と非特異症状	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：学修振り返りレポート⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	複数項目のため授業時に提示します。	可
第11回	当事者に学ぶ病いの体験①：精神障害との出会い、生きにくさの意味	予習：事前課題レポート⑪行う。 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第12回	当事者に学ぶ病いの体験②：精神障害とともに生きる意味	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：学修振り返りレポート⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第13回	精神障害と治療の歴史：西洋における精神障害と治療の歴史、日本における精神医療の流れ	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第14回	精神障害と文化：精神障害の多様性と普遍性、精神障害と社会	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：学修振り返りレポート⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第15回	精神障害と法制度：精神看護の基本となる法律、精神科領域で必要な法制度、精神保健医療福祉対策	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可

評価方法・評価基準	小テスト（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。

B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。

C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		60 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		30 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

多喜田：臨床経験12年ののち、看護職のメンタルサポートや教育研究支援を行っています。当事者の視点や援助者の立場から
精神看護実践を伝えていきます。

学習相談・支援体制

月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで
事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先　e-mail　：k-takita@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -精神看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111063				ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	多喜田恵子				多　職　種　連　携	○

講義概要

「精神看護学概論」での学修を前提に、精神看護実践に必要な理論や知識を基盤とした援助の方法論を学ぶ。本科目では、精神障害をもつ人や家族に対する援助方法だけでなく、医療におけるメンタルヘルス上の課題や精神看護における看護の役割について理解する。

授業内容（到達目標を含む）

精神看護実践の基盤とな看護の役割の理論・知識をもとに、精神障害をもつ人や家族に対する援助の方法論を理解する。また、身体疾患をもつ患者のメンタルヘルスやリエゾン精神看護の役割について理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。
１．精神看護におけるケアの原則や患者との関係アセスメントを説明できる。
２．精神障害をもつ人の回復（リカバリー）を支援する方法を説明できる。
３．精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。
４．医療の場におけるメンタルヘルス上の課題に対する精神看護の役割を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノートやレポート内容は授業時間内に適宜、解説する。本科目の単位を取得できなかった場合、補講やレポート課題での対応はしない。したがって、次年度本科目の開講時に履修すること。なお、本科目の単位を取得しなければ、３年生後期開講の「精神看護学実習」は履修することができない。

教材

テキスト
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込）
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込）
参考図書
「新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」（第６版）、岩崎弥生編、メヂカルフレンド社、2021年、4,400円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	精神看護とは：ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法（多喜田）	予習：事前課題①（授業キーワーズの学修） 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	複数項目のため授業時に提示する。	可
第2回	関係をアセスメントする：患者－看護師関係、プロセスレコードの活用、感情体験の分析（多喜田）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第3回	回復を支援する：回復の意味、精神科リハビリテーション、回復を支えるプログラム（多喜田）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第4回	地域におけるケアと支援：地域生活支援、地域生活支援のシステムと社会資源（多喜田）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第5回	入院治療の意味：精神科を受診するということ、治療の器としての病院・病棟（多喜田）	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：グループワーク課題レポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第6回	安全を守る：リスクマネジメントの考え方と方法、緊急事態への対応	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：グループワーク課題レポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第7回	身体をケアする：精神看護における身体ケアの意味、皮膚を介在した看護技術の精神療法的な意義	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可
第8回	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		可

評価方法・評価基準	レポート（35%）、定期試験（65%）により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		50 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		30 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

多喜田：臨床経験12年ののち、看護職のメンタルサポートや教育研究支援を行っています。当事者の視点や援助者支援の立場から精神看護実践を伝えていきます。

学習相談・支援体制

月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで
事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先　e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -精神看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111064				ケア・スピリット	
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	夛喜田惠子、高木みちる（非常勤講師）				多　職　種　連　携	○

講義概要

「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ」での学修を前提に、精神看護実践の基盤となる治療的関係や看護の役割の理論や知識をもとに、精神障害をもつ人や家族に対する看護の展開方法を学ぶ。精神看護の対象理解や援助方法の演習を通して、精神看護の具体的な方法を理解する。また。治療的コミュニケーション技術、SST(社会生活技能訓練）、集団活動の演習を通して、精神看護実践に必要な基本的技術を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

精神看護実践の基盤となるアセスメントや患者－看護師の治療的関係をもとに、演習を通して精神障害をもつ人や家族への精神看護の援助方法の理解を深める。また、グループワークを通して、患者との関係アセスメントや回復を促進する支援方法を理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。
１．精神障害をもつ人の看護を展開するためのアセスメント・治療的関係を説明できる。
２．精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。
３．精神障害をもつ人の地域生活を支える制度や社会資源や方法を説明できる。
４．精神看護実践の基盤となる看護技術の方法を説明できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。演習はレポートおよび演習評価表で学修の振り返りを行う。ミニッツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。本科目の単位を取得できなかった場合、補講やレポート課題での対応はしない。したがって、次年度本科目の開講時に履修すること。なお、本科目の単位を取得しなければ、３年生後期開講の「精神看護学実習」は履修することができない。

教材

テキスト
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込)
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込)
参考図書
「新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」（第６版）、岩崎弥生編、メヂカルフレンド社、2021年、4,400円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	精神看護の看護展開の特徴①：ストレングス～リカバリー支援の特徴（多喜田）	予習：事前課題（ストレングス、リカバリーの学修） 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	複数項目のため授業時に提示する。	不可
第2回	精神看護の看護展開の特徴②：精神科・生活アセスメントの特徴と実際　　（多喜田）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第3回	精神障害をもつ人への看護展開の実際①：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク①】事例提示、精神疾患の理解、患者の背景（生育歴、生活歴、家族関係）　（多喜田）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：グループワーク課題レポート①を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第4回	精神障害をもつ人への看護展開の実際②：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク②】患者の精神症状・診断・治療・入院の目的と意味　（多喜田）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：グループワーク課題レポート②を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第5回	精神障害をもつ人への看護展開の実際③：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク③】アセスメントⅠ（多喜田）	予習：事前課題レポート⑤を行う。 復習：グループワーク課題レポート③を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第6回	精神障害をもつ人への看護展開の実際④：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク④】アセスメントⅡ（多喜田）	予習：事前課題レポート⑥を行う。 復習：グループワーク課題レポート④を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第7回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑤：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク⑤】統合アセスメント（多喜田）	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑤を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可

第8回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑥：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク⑥：発表①】全体像・援助の方向性（多喜田）	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑥を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	複数項目のため授業時に提示する。	不可
第9回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑦：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク⑦：発表②】全体像・援助の方向性（多喜田）	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑦を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第10回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑦：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク⑦：発表②】全体像・援助の方向性（多喜田）	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑧を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第11回	Aクラス 回復を支える技術②【演習】：コラージュ（多喜田） Bクラス 回復を支える技術①【演習】：SST　（髙木）	予習：事前課題レポート⑪を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑪を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第12回	Aクラス 回復を支える技術①【演習】：SST　（髙木） Bクラス 回復を支える技術②【演習】：コラージュ（多喜田）	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑫を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第13回	治療的コミュニケーション技法の特徴：プロセスレコードの目的と活用方法　（多喜田）	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑬を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第14回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑨：事例を通して看護展開を学ぶ【演習】再構成法の活用、シナリオ・ロールプレイによる体験学習（多喜田・髙木）	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑭を行う。 予習時間：90分、復習時間90分		不可
第15回	精神科病院での看護の実際：精神専門看護師（CNS）の役割、実習病院の紹介　（髙木）	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。		不可
評価方法・評価基準	レポート（35%）、定期試験（65%）により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	20 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	20 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	○	10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	○	○	15 %
演　習	文献検索、討論		◎	◎	◎	35 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

臨床経験12年ののち、看護職のメンタルサポートや教育研究支援を行っています。当事者の視点や援助者支援の立場から精神看護実践を伝えていきます。

学習相談・支援体制

月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで
事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先　e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -精神看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力 ○
授業コード	111065				ケア・スピリット ○
授業科目名	精神看護学実習				実　践　的　理　解 ○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム ○
担当教員	夛喜田恵子、実習補助教員(非常勤)				多　職　種　連　携 ○

講義概要

本科目では、精神看護学実習の対象者の体験に添って、精神健康上の問題の陰にある生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として発揮し関係性を発展させながら援助を展開していく能力を修得する。また、対象理解については、その人がこれまで生きてきた過程や状態像、回復過程を統合的に判断し、リカバリーに焦点を当てた援助の方法を修得する。さらに、精神障害をもつ人が地域で生活するために必要な支援や多職種連携の実際を通して、入院治療から地域生活支援までの援助の実際を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

精神障害をもつ人が体験している生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、対象がその人らしく生きるためのストレングスを活用したリカバリー支援を実践する。また、援助のプロセスにおいて、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象と関わることを学ぶ。

1．精神障害をもつ人が日常生活を送る上でどのような課題を抱えているのか、また、それはその人にとってどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。
2．精神障害をもつ人が体験している生きにくさを、その人の生育史や生活背景から捉え、その人がもつレジリエンスやストレングスに着目した援助の方向性(リカバリー）を明らかにすることができる。
3．精神障害をもつ人と関わる中で生じた自らの気持ちを言語化し、患者－看護者の治療的関係の視点からやりとりを解釈し、関わりの方向性を考察することができる。
4．治療的環境が、精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉え、そうした場を作り出す一員として、自らの役割を意識して行動することができる。
5．精神障害をもつ人々を取り巻く状況において、その人がその人らしく生きるための地域生活支援について、その人の立場に考え、今後の支援を考察することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習前学修として、テキスト及び精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの学修をもとに、実習目標及び学習内容について事前課題レポートにまとめて提出する。実習最終日は、ケース発表を行う。実習後、ケース発表資料をもとに「事例報告」としてレポート作成し、実習記録、実習自己評価表とともに提出する。また、地域生活支援施設の機能と役割については、デイケア実習終了後にレポート（A4用紙1枚）を提出する。なお、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を取得していなければ、本科目を履修することができない。

教材

テキスト
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込)
「系統看護学講座 専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第６版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込)
参考図書
「新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」（第６版）、岩崎弥生編、メヂカルフレンド社、2021年、4,400円（税別）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	1．実習場所 公益社団法人 岐阜病院および地域生活支援施設 （岐阜市日野東3丁目13番6号） 2．対象学生 岐阜保健大学看護学部３学年次生 3．実習期間及び実習時間 実習期間：令和7（2025）年9月22日（火）～　令和8（2026）年3月13日（金） 実習時間：原則として9時00分～16時00分（15時30分～カンファレンス） 4．実習メンバー 1病棟につき4名の学生配置 5．実習スケジュール 実習中、地域生活支援実習としてデイケアセンター「あさがお」で実習を行う。 実習最終日に実習病院で「ケース発表」を行う。 その他、詳細は「令和7年度実習要項」を参照のこと。		全項目	不可
第2回				
第3回				
第4回				
第5回				
第6回				
第7回				
第8回				
評価方法・評価基準				

<table>
<tr><td rowspan="7">評価方法・評価基準</td><td rowspan="7">【評価基準】
S(90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td>35 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td>65 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="6">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

臨床経験12年ののち、看護職のメンタルサポートや教育研究支援を行っています。当事者の視点や援助者支援の立場から精神看護実践を伝えていきます。

学習相談・支援体制

月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで
事前にアポイントメントを取ってください。　　連絡先　e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111066				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子（実務家）、柿原加代子（実務家）				多　職　種　連　携	

講義概要

成人老年各期の発達段階、身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学修する。また、成人老年各期の患者とその家族の看護援助に必要な概念や理論について学修し、この時期にある患者の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察する。

授業内容（到達目標を含む）

1.成人老年各期の定義と身体・心理・社会的特徴を理解できる。
2.成人老年各期の成長発達、家族・社会における役割、健康問題の特徴を理解できる。
3.成人老年患者の理解と看護に有効な概念や理論を理解できる。
4.成人老年各期の身体機能および生活・健康観の視点に関するアセスメント方法を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ,成人看護学①成人看護学概論,メディカ出版,2024.
②ナーシング・グラフィカ,高齢者の健康と障害,メディカ出版,2023.
③老年看護学概論「老いを生きる」を支える,南江堂,2023.
※成人・老年看護援助論Ⅰと共通
参考図書：成人看護学,成人看護学概論,第2版,NOUVELLE　HIROKAWA、
ナーシング・グラフィカ,成人看護学③セルフマネジメント,メディカ出版,2019.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	成人であるということ：成人の定義、成人であることの自覚、成人の特徴 成長発達の特徴：成人の成長発達、成人の役割、各期の健康問題、成人と死	予習：テキスト①P11～P54を読み、看護として必要な部分を各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、各期の発達課題を家族や身近な人を通して記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人1A1 成人1A2 成人1B1 成人1B2 成人1C1	可
第2回	成人の身体機能の特徴と看護：安定性と変化、身体機能の理解に基づく看護、変化を分析する視点、変化に着目した看護、個人の身体機能を理解する方法	予習：テキスト①P58～P87を読み、身体機能の特徴を各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、身体機能の変化を記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人2A2 成人2A3	可
第3回	成人の生活を理解する視点と方法：生活とは、成人の生活の理解 健康観の多様性と看護：健康観、健康観に影響を及ぼす要因、健康観を理解する方法、保健行動と健康観	予習：テキスト①P90～P125を読み、成人の生活において影響する部分と健康観を各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、生活を及ぼす影響と健康観について記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人2B1 成人2B2 成人6C1	可
第4回	成人の学習の特徴と看護：学びの特徴、成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）、学びの目標、健康状態と学習方法の関係	予習：テキスト①P128～P148を読み、成人の学習とエンパワメントモデルについて各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、P142医学モデルとエンパワメントモデルの動画を見て、学びや気づきを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人6-C-2 成人6-C-3	可
第5回	病の軌跡：慢性の病と人間、考え方、看護への適用、事例で考える	予習：テキスト①P228～P241を読み、病みの軌跡について各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、P228事例で考える病みの軌跡の動画を見て、学びや気づきを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人6A2 成人6B3 成人6C2	可
第6回	セルフケア：セルフケアとは、オレムの看護理論（セルフケア不足理論）、セルフケアと成人看護、事例で考える	予習：テキスト①P244～P254を読み、セルフケアについて各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、看護でセルフケア理論をどんな場面でどのように活用していくかを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人5E4 成人6B2 成人6B3 成人6C1	可
第7回	自己効力：自己効力とは、事例で考える自己効力理論	予習：テキスト①P294～P302を読み、自己効力アについて各200字程度でまとめて講義に参加する。 復習：課題レポート、患者教育に自己効力理論をどのように使っていくのかを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人6C3	可
第8回	ストレス：ストレスとは、ストレス・コーピングプロセスに関連する主要な概念、ストレスマネジメント	予習：テキスト①P278～P285を読み、ストレスおよびコーピングについて各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート、臨床でどのようにストレスマネジメントをすると効果的であるのかを記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	成人2C1 成人2C2	可

第9･10回	老年看護を理解するための基盤 （ライフサイクルにおける老年期、老年期の理解、人間発達論における老年期、老いを生きることの意味）	予習：テキストの第Ⅰ章（テキストp1～16）を読み、老年期の特徴、老いの意味、老いに向き合う態度について200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分 事後課題:あなたの高齢者像を書き出し、なぜそのような高齢者像を抱いているか考えてみよう。2.あなたの身近にいる高齢者に、日々の生活において大切にしていること、願いや望み、これまでの人生をどのように生きてきたか（これまでの経験、価値、力、強み）等インタビューしてみよう。3.死期を受容したこころのありようとはどんなものであるか考えてみよう。 １～3について、レポートにまとめる。	老年1A1 老年1A3	可
第11･12回	老年看護を理解するための基盤 (高齢者と社会制度、高齢者と家族、高齢者の労働)	予習：・テキスト第Ⅰ章（テキストp32～77）を読み、高齢者を取り巻く社会制度の成立背景とその目的・役割、就労について400字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各400字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年1C1 老年1C2 老年1C3 老年1C4 老年1C5	可
第13回	老年看護の理念・目標 （老年看護の理念・目標、老年看護の倫理）	予習：テキスト第Ⅱ章(テキストp87～98）老年看護の理念・目標を読み、要点を200字程度にまとめて講義に参加する。 復習:配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各40字程度にまとめる。	老年4B1 老年4B2 老年4B3 老年4B4	可
第14回	老年看護の対象理解 （生活史･健康歴･文化･価値観）	予習：テキスト第Ⅱ章(テキストp87～98）老年看護の理念・目標を読み、要点を200字程度にまとめて講義に参加する。 復習:配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各40字程度にまとめる。	老年2B1	可
第15回	老年看護に活用できる理論・概念	予習：第Ⅲ章（テキストp99～147）を読み､関心のある理論を取り上げて､その特徴を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各40字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分 事後課題：第9･10回の事後課題のインタビュー内容をにより、ストレングスモデルの視点から、個人ストレングス 要素、環境ストレングス要素、それらの要素間の関係、以上により必要な支援を検討する。 ①:連休中に後期高齢者へのインタビューを行い､その内容に関するレポート（A4版用紙2枚程度）を作成する。	老年4A2	可

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		40 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			○			10 %
演　習	文献検索、討論		○			10 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：急性期・慢性期・高齢者施設での臨床経験を活かし、教科書と臨床場面が結びつくようにわかりやすく講義をします。
柿原加代子：急性期・慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義します。

学習相談・支援体制

永坂和子：e-mail　k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
柿原加代子：e-mail　k-kakihara@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	111067			人間力	
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅰ（成人・老年期の保健活動）			ケア・スピリット	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1	実践的理解	○
担当教員	永坂和子（実務家）、柿原加代子（実務家）			プロフェッショナリズム	○
				多職種連携	○

講義概要

日本の成人老年保健の動向を解説し、成人老年各期に関連する保健医療福祉活動について学修する。さらに、この時期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について学修する。

授業内容（到達目標を含む）

1.生活習慣と健康障害の関連を理解できる。
2.労働と健康障害の関連を理解できる。
3.性に関連する健康障害を理解できる。
4.成人老年各期の健康課題の特徴を踏まえた保健医療福祉活動の必要性を理解できる。
5.成人老年各期の様々な健康状態にある人々への保健医療福祉制度を理解できる。
6.成人老年各期にある人々を対象とする保健医療福祉活動の目的と看護方法を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ,成人看護学①成人看護学概論,メディカ出版,2023.
②ナーシング・グラフィカ,高齢者の健康と障害,メディカ出版,2023.
参考図書：成人看護学,成人看護学概論,第2版,NOUVELLE　HIROKAWA、
ナーシング・グラフィカ,成人看護学③セルフマネジメント,メディカ出版,2023.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	生活習慣に関連する健康障害：生活習慣に関連する健康課題、生活習慣の是正 ワーク・ライフ・バランスと健康障害：健康障害の関連、職業と健康障害、生活ストレスと健康障害、身体活動と健康障害	予習：テキスト①P138～P185を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	必11B1 成人2A1 成人2B1 成人2B2 成人2C1 健支8A2	可
第2回	セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害：関連する概念、性的健康の指標および実態、健康障害の予防及び対応 更年期にみられる健康障害：更年期障害とは、原因、症状、予防と治療	予習：テキスト①P188～P214を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	母性2A1 母性2A2	可
第3回	ヘルスプロモーション：ヘルスプロモーションとは、ヘルスプロモーションの目標・プロセス・方法、トータルヘルスプロモーション、健康日本21、健康増進法、がん対策基本法	予習：テキスト①P288～P293を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	成人2A2 成人2A3 健支6A3 健支9A2 健支9E1	可
第4回	高齢者の暮らしの場：多様な生活の場と生活様式、生活の場の移転	予習：第Ⅰ章(テキスト79～85)を読み要点を400字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年2B6	可
第5回	高齢者の健康維持･回復への支援(高齢者の「豊かな生」、ADL機能の維持･回復への支援、セルフケア能力の維持･向上への支援、健康問題の予測と予防への支援	予習：第Ⅵ章(テキストp225～244)を読み要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年2A1 老年2A2 老年2A3 老年2A4	可
第6回	高齢者のエンドオブライフケア （高齢者のエンドオブライフケアに求められること、意思決定支援とアドバンスプランニング、高齢y者の尊厳を支える看取り、終末期の家族支援アドバンスディレクティブ＜事前指示＞、リビング・ウィル）	予習：第Ⅸ章（テキストp325～348）読んで高齢者への看護の要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年6E1 老年4E2	可
第7回	生かし生かされる地域づくり （安全に安心して希望をもって暮らせる地域づくり、よりよい地域づくりのための多職種協働）	予習：第Ⅹ章（テキストp351～368）を読み、よりよい地域づくりのための多職種協働について200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年4C5 老年9D3 老年9F2 老年9F2	可
第8回	成人・老年保健医療福祉活動の実際（演習）	予習：居住地域の保健医療福祉活動を下調べしておく。 復習：課題レポート 予習時間：120分、復習時間：120分	健支9A3 在地8F4 在地9A3 在地9B1	可
評価方法・評価基準	筆記試験（80%）および、レポート課題（20%）の達成状況により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎			60 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論		◎	○		20 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：病院(急性期・慢性期・外来）・高齢者施設の臨床および看護管理として携わった経験を活かし、教科書と実際の保健医療福祉活動をイメージしやすいように講義します。
柿原加代子：急性期・慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義します。

学習相談・支援体制

永坂和子：e-mail　k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
柿原加代子：e-mail　k-kakihara@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード	111068				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅱ（疾患別健康援助看護１）				実践的理解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子				多職種連携	

講義概要

成人老年期における急性期や重症な状態にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護を学修する。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、必要な看護技術を学修する。また回復期にある患者の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支える看護を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

1. 急性疾患および治療・変化している療養環境の特徴、看護の役割、チーム医療の重要性について理解する。
2. 急性疾患を有する人の身体・心理・社会的特徴と発達課題を関連させて理解する。
3. 急性疾患による障害からの回復を心理過程に沿って理解する。
4. 急性疾患を有する人の家族の特徴、家族のセルフケアマネジメント方法、マネジメントを促進する教育を理解する。
5. 急性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するために必要な社会資源である医療保健福祉制度やサービスおよびその活用方法について理解する。
6. 急性疾患の代表的な治療、援助について理解する。
7. 代表的な急性疾患を有する人の身体的・心理・社会的特徴について理解し、看護アセスメント、看護援助について理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくること。また各自でノートを整理し、復習すること。

教材

テキスト：①臨床外科看護総論, 矢永勝彦, 高橋則子編集, 医学書院, 2022
②写真でわかる臨床看護技術②, 本庄恵子, インターメディカ, 2020
※成人・老年看護援助論Ⅳと共通
参考図書：ナーシング・グラフィカ, 成人看護学④周術期看護, メディカ出版, 2022

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション　急性期疾患看護の特徴 ショック、熱傷、熱中症	成人・老年看護援助論Ⅱのシラバスを確認して授業に参加する。急性期看護の特徴について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	必13C1 疾病3A3 成人4B4 成人4B5 成人12A5	
第2回	循環器疾患患者の看護（心筋梗塞、狭心症）	循環器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	疾病6A2 成人11A1 成人11B4 成人11C1 成人11C8 成人11C9	
第3回	循環器疾患患者の看護（心電図の基礎、不整脈）	循環器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	疾病6A6 成人11A2成人11B1 成人11C5 成人11D4	
第4回	呼吸器疾患患者の看護（肺がん、急性呼吸不全）	呼吸器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	必13C3　成人10A1 成人10A2 成人10A3 成人10A4 世人10B1	
第5回	気管吸引、体位ドレナージの基礎	呼吸状態を観察するのに必要な観察項目と気管吸引の手技について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	基礎5A1 基礎5A2 基礎5A5 必16E9	
第6回	人工呼吸器装着患者の看護	呼吸のメカニズムと人工呼吸器について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	必13C3　必16F1　必16E8　必16F	
第7回	消化器疾患患者の看護（胃がん、胆石症）	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分 復習：30分	成人12A2	
第8回	消化器疾患患者の看護（大腸がん）	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	疾病7C3 成人12B1成人12B3成人12B6	

第9回	消化器疾患患者の看護（急性膵炎）	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	成人12B3	
第10回	運動器疾患患者の看護（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折）	運動器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分　復習：30分	疾病14A1	
第11回	脳神経疾患患者の看護（脳出血、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア）	脳神経疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分 復習：30分	成人17D1	
第12回	急性期における特殊な治療と看護（ダビンチ）	特殊な治療と看護について、テキスト①P.166を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	成人12C5	
第13回	感覚器疾患患者の看護（突発性難聴、メニエール病）	感覚器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分 復習：30分	疾病12C2	
第14回	感覚器疾患患者の看護（白内障、網膜剥離）	感覚器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分 復習：30分	成人18A1 成人18B1 成人19C1 成人18C3	
第15回	病態関連図作成	病態関連図の作成に必要な資料準備を予習とする。関連図の修正を復習とする。予習：30分　復習30分	基礎2B3 基礎3C1 基礎3C2	

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

吉崎純夫：急性期病棟での臨床経験を活かし、具体例を用いた講義によって急性期看護を理解しやすく教授します。

学習相談・支援体制

吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111069				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅲ（疾患別健康援助看護２）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子				多　職　種　連　携	○

講義概要

疾病をもちながら生きる対象の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。慢性病を持つ対象者の健康障害・疾病の特徴とライフヒストリーを理解し、その人のQOLを尊重した自己管理に繋がる看護援助法を修得する。健康状態の変化によって引き起こされる患者の身体的、心理的変化を理解し、慢性病を受容し主体的に生きるための看護援助方法を学ぶ。がん患者の看護（手術後、化学療法、放射線療法、緩和ケア等）、長期療養を必要とする慢性疾患の看護についても学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

1. 慢性疾患および治療・変化している療養環境の特徴、看護の役割、チーム医療の重要性について理解する。
2. 慢性疾患を有する人の身体・心理・社会的特徴と発達課題を関連させて理解する。
3. 慢性疾患による障害からの回復を心理過程に沿って理解する。
4. 慢性疾患を有する人の家族の特徴、家族のセルフケアマネジメント方法、マネジメントを促進する教育を理解する。
5. 慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するために必要な社会資源である医療保健福祉制度やサービスおよびその活用方法について理解する。
6. 慢性疾患の代表的な治療、援助について理解する。
7. 代表的な慢性疾患を有する人の身体的・心理・社会的特徴について理解し、看護アセスメント、看護援助について理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくること。また各自でノートを整理し、復習すること。随時、課題レポートを課す場合がある。

教材

テキスト：成人看護学,慢性期看護,病気とともに生活する人を支える,改定第３版,鈴木久美,南江堂,2024
参考図書：ナーシング・グラフィカ,成人看護学①成人看護学概論,安酸史子,メディカ出版,2024

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	慢性期看護の特徴：動向・社会の変化、治療・療養環境の特徴、看護の役割	成人・老年看護援助論Ⅲのシラバスを確認して授業に参加する。慢性期看護の特徴について、テキストP.2～47を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	成人6A1 成人6A2 成人6A3	可
第2回	呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護（気管支喘息）	呼吸器疾患看護について、テキストP.250～257を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病5A2 成人10A3成人10B2成人10D2成人10D4	可
第3回	呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全）	呼吸器疾患看護について、テキストP.258～268を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病5A3 成人9A3 成人10D2	可
第4回	循環器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性心不全）	循環器疾患看護について、テキストP.308～317を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病6A4 成人9B1 成人11A1成人11B1成人11B4成人11D1	可
第5回	消化器系の障害を有する人とその家族への看護（肝硬変）	消化器疾患看護について、テキストP.334～344を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病7B4 疾病7D2 成人9B1 成人13A1成人13B1成人13C3成人13D2	可
第6回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の看護（糖尿病1）	代謝・内分泌疾患看護について、テキストP.367～379を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病8B2 成人9B1 成人15D3成人15D4	可
第7回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の看護（糖尿病2）	代謝・内分泌疾患看護について、テキストP.367～379を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病8B2 成人9B1 成人15C4成人15C5	可
第8回	インスリン療法を受ける患者の援助（演習）	インスリン療法の配布資料を予習とする。テキストP.156～166を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。予習：30分　復習60分	成人15C3成人15C3成人15C4	可

第9回	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性腎不全）	腎・泌尿器疾患看護について、テキストP.400～410を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	成人6B2 成人6C2 成人14C1 成人14B1 成人14D2	可
第10回	人工透析を受ける患者の援助	人工透析を受ける患者の看護について、テキストP.167～177を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病4C8 成人9B1 成人14C2 成人14C3 成人14C4 成人14C5	可
第11回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（脳梗塞）	脳・神経系疾患看護について、テキストP.418～425を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病12A1 成人7A2 成人9B1 成人17A3 成人17A4 成人17A5 成人17D1	可
第12回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（パーキンソン病）	脳・神経系疾患看護について、テキストP.473～480を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病12A3 成人9B1 成人17A2成人17A5	可
第13回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（筋委縮性側索硬化症）	脳・神経系疾患看護について、テキストP.481～488を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	疾病12A3 成人9B1 成人17A1 成人17A2 成人17A5 成人17D6	可
第14回	がんを有する人とその家族への看護 疼痛コントロール　緩和ケア	疼痛コントロール・緩和ケアについて、配布資料、テキストP.68～70を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	成人9A1 成人9B1 成人9B2 成人9B3 成人9B4	可
第15回	がんを有する人とその家族への看護 化学療法を受ける患者の看護 放射線治療を受ける患者の看護	化学療法・放射線治療について、テキストP.197～220を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。　予習：30分　復習：30分	必12A2 疾病4C3 成人8B2 成人8B3 成人9B1 成人9B6	可

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		15 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		15 %
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論		○	○	◎	20 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：外科病棟、内科病棟、慢性期病棟での経験を活かし、成人期・老年期の各発達課題を踏まえた看護援助ができるように経験を伝えながら講義・演習を行います。
吉崎純夫：臨床経験を活かして、具体例を用いることで慢性期疾患とその看護を理解しやすく教授します。

学習相談・支援体制

永坂和子：k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111070				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅳ（周手術期看護とクリティカルケア）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子				多　職　種　連　携	

講義概要

成人老年期における生命の危機的状態、周手術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護を学ぶ。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、救急看護法やクリティカルケアに必要な看護技術を学修する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 周手術期にある対象者の急激な変化について理解し説明できる。
2. 手術を受ける対象者を理解するためのアセスメント方法が理解できる。
3. 手術を受ける対象者に必要な看護技術を理解できる。
4. クリティカルな状態にある対象者に対する具体的な看護方法について理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①臨床外科看護総論、矢永勝彦、高橋則子編集、医学書院：2800円
②写真でわかる臨床看護技術②, 本庄恵子, インターメディカ, 2020
※成人・老年看護援助論Ⅱと共通
参考図書：ナーシング・グラフィカ, 成人看護学④周術期看護, メディカ出版, 2022.
クリティカルケア看護学、道又元裕、医学書院：2100円
救急看護学、山勢博彰、医学書院：2500円

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	周手術期看護１　術前の看護と麻酔の基礎	術前オリエンテーション、麻酔について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5A1 成人5A2 成人5A4 成人5A5 成人5B3	可
第2回	周手術期看護2　術中の看護	手術室の環境、手術中の看護師の役割について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5B1 成人5B2 成人5B4	可
第3回	周手術期看護3　術直後の看護 帰室時のアセスメント	術直後の看護、帰室直後に必要な観察項目を事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5C1 成人5C2 成人5C2 成人5C4	可
第4回	周手術期看護4　術後合併症予防の看護（呼吸・循環）	術後の呼吸器合併症、循環動態の変化について予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5D1 成人5D2 成人5A3	可
第5回	周手術期看護5　術後合併症予防の看護（疼痛、消化機能、術後せん妄）	疼痛のメカニズム、せん妄のメカニズム、消化器官の機能について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5C2 成人5D6 成人	可
第6回	周手術期看護6　術後合併症予防の看護（感染、離床、退院支援）	スタンダードプリコーション、感染症について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人5C1 成人4B6 成人5E2	可
第7回	クリティカルケア看護	クリティカルケアについて予習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人3B1 成人5A5	可
第8回	救急看護	救急看護とクリティカルケア看護の違いを予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる　予習：120分、復習：120分	成人4A2 成人4B1 成人4B3 成人4B5 成人4B6	可
評価方法・評価基準	定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）						
評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

吉崎純夫：急性期病棟での臨床経験を活かし、具体例を用いた講義によって急性期看護を理解しやすく教授します。

学習相談・支援体制

吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111071				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅴ（機能障害の看護）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子(実務家)、柿原加代子、水田恵利子				多　職　種　連　携	○

講義概要

高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。それらの疾患や障害が、高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のセルフケアの促進や予防を含めた看護について探求し、高齢者が“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

1. 高齢期特有な疾患や症状を踏まえた必要なアセスメント方法が理解できる。
2. 高齢者の残存機能を維持・向上するための看護の必要性が理解、実施できる。
3. 高齢者体験を通じて、加齢に伴う、身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ,老年看護学②高齢者看護の実践,メディカ出版,2023.
②看護実践のための根拠がわかる老年看護技術(第3版),メヂカルフレンド社
※成人・老年看護援助論Ⅵと共通
参考図書：生活機能からみた老年看護過程(第4版),医学書院
高齢者の臨床検査値の見方・考え方　臨床病理レビュー 特集第156号　ラボ検査研究会編集,克誠堂出版

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	排泄機能障害：排泄障害を有する疾患と症状、検査・治療、看護、尊厳、倫理の基本的な考え方	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	疾病15A5 成人20A1 成人20A2	可
第2回	排泄機能障害のアセスメント(身体、心理、社会)、多職種の役割と連携、診療報酬、排尿チーム、実際の評価、演習（超音波を用いた残尿測定）	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	成人20B3	可
第3回	排泄機能障害を有する人への援助（オムツ装着体験、オムツ交換演習）	予習：オムツ装着体験レポートをまとめる。 復習：演習後課題レポートをまとめる。 予習：120分、復習：120分	成人20A1成人20D4	可
第4回	食生活を支える看護（食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養）	予習：テキスト①P12～P40を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	成人12A1 成人14A1 成人14A2 成人14A3 成人14C1	可
第5回	清潔・衣生活を支える看護（清潔・衣生活、掻痒、痛み・しびれ、感染症）	予習：テキスト①P64～P89を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	老年5E1 老年5E2 老年6E3 老年7*8 老年7*7	可
第6回	活動と休息を支える看護（活動と休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害）	予習：テキスト①P90～P113を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	老年5F1 老年5F2	可
第7回	歩行・移動を支える看護（歩行・移動、骨粗鬆症、骨折、廃用症候群）	予習：テキスト①P114～P141を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート　各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	老年5B1 必14C2 必14C3 必15B1	可
第8回	高齢者体験（演習）	予習：演習資料を熟読し、これまでの講義内容を復習し、演習に向けて準備をする。 復習：演習後課題レポートをまとめる。 予習：120分、復習：120分	老年5B1	可
評価方法・評価基準				

評価方法・評価基準	【評価基準】 S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。 B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。 C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。 D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎			20 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		20 %
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		40 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論		○	○	◎	20 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：急性期・慢性期病棟、高齢者施設での臨床経験や看護管理活かし、高齢者の発達課題から見た具体的なケアについて講義・演習をします。
柿原加代子：急性期・慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義します。
吉崎純夫：急性期病棟での臨床経験を活かし、各機能を障害した患者への援助について理解しやすく教授します。
水田恵利子：病院と高齢者施設での経験を活かし、実際に起こりうる課題について具体的に教授します。

学習相談・支援体制

講義科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111072				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅵ（老年期の看護）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	柿原加代子、水田恵利子				多　職　種　連　携	○

講義概要

高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、高齢者が築いてきた生活史や持てる力に着目して、豊かな人生の統合へと向かっていけるような支援方法を学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や、権利擁護とその家族の支援について学びを深め、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が人生の最期まで尊厳を持って生活するための支援について学修する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 高齢期特有な疾患や症状の特徴とその要因を理解し予防のための看護方法が理解できる。
2. 治療を受ける高齢者の特徴とその看護が理解できる。
3. 様々な健康状態にある人々を支えるチーム医療について理解できる。
4. 認知症や障害があっても最期までその人らしく尊厳を持った生活を支援することの重要性が理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・看護学概論を受講済みが履修条件である。事前課題を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず課題を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ,老年看護学②高齢者看護の実践,メディカ出版,2023、978-4840472098、3960円
②生活機能からみた老年看護過程（第4版）,医学書院、978-4260042741、4070円
※成人・老年看護援助論Ⅴと共通
参考図書：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（第3版）,メヂカルフレンド社
高齢者の臨床検査値の見方・考え方　臨床病理レビュー 特集第156号　ラボ検査研究会編集、克誠堂出版
ナーシング・グラフィカ,老年看護学①高齢者の健康と障害,メディカ出版,2023

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1･2回	高齢者に特有な症候、高齢期疾患の特徴	成人・老年看護援助論Ⅵのシラバスを確認して授業に参加する。 予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。　予習：120分　復習：120分		可
第3･4回	高齢者に特有な症候、高齢期疾患の特徴	成人・老年看護援助論Ⅵのシラバスを確認して授業に参加する。 予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。　予習：120分　復習：120分		可
第5･6回	認知症の高齢者・家族への看護	予習：テキスト①P.242～287を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分　復習：120分		可
第7･8回	認知症の高齢者への看護： 認知症高齢者へのコミュニケーション技術、中核症状に対応するための看護技術 認知症高齢者の事例（ビデオ視聴） ロールプレーニング （演習・グループワーク）	予習：認知症高齢者とのコミュニケーションについてへのアセスメント・コミュニケーション技術について、方法（観察点含む）、留意点・根拠をまとめる。 復習：ロールプレーニングの振り返りでの気づき・学びから自己の課題をまとめる。 講義後復習：・高齢者の自尊感情に配慮したコミュニケーション技術について200字でまとめる。 予習：120分、復習：120分		可
評価方法・評価基準	定期試験80%、レポート20%により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		20 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○		10 %
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		60 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論	◎	◎	◎		10 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

柿原加代子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-kakihara@gifuhoken.ac.jp
水田恵利子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。m-mizuta@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111073				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護学演習（看護技術）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子(実務家)、柿原加代子、水田恵利子(実務家)				多　職　種　連　携	

講義概要

健康障害を抱え治療や検査を受ける成人老年期にある患者とその家族が、健康障害から回復または健康障害に適応して、社会復帰や自立した生活を継続するための看護実践を紙面事例を用いた演習を通して習得する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 成人・老年の対象者が疾患を抱え疾患と共に生活する患者とその家族を理解するためのアセスメントおよび看護援助が実践できる。
2. 侵襲の大きい治療や検査を受ける急性期・回復期にある患者とその家族を理解するためのアセスメントおよび看護援助が実践できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：江川隆子,ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断,第6版,NOUVELLE,HIROKAWA,2019.
看護学テキストNiCE　老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵、真田弘美編 南江堂
看護実践のための根拠がわかる　老年看護学技術（第3版）、泉キヨ子・小山幸代編、メジカルフレンド社

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	成人看護の看護過程のオリエンテーション ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程（情報のアセスメント、情報の解釈と統合、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価修正）、関連図	予習：テキスト看護過程の基礎を整理して講義に参加する。 復習：ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程を図で整理する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C3 成人1A1	可
第2回	看護過程の展開（事例紹介・情報収集）	予習：事例を読んでくる。機能的健康パターン、11の分類を200字程度でまとめて授業に参加する。 復習：事例より、分類されたアセスメントを完成させる。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎4B4 基礎4C2 基礎4D2 基礎4E2	可
第3回	看護過程の展開（アセスメント）	予習：配布資料を読み、アセスメントを作成してくる。 復習：アセスメントを完成する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C2	可
第4回	看護過程の展開（アセスメント）	予習：配布資料を読み、アセスメントを作成してくる。 復習：アセスメントを完成する。　予習： 120分、復習：120分	基礎3C2 成人9B1	可
第5回	看護過程の展開（関連図）	予習：関連図を書く目的・書き方を写しte講義に参加する。 復習：関連図を完成させる。　予習： 120分、復習：120分	基礎3C2	可
第6回	看護過程の展開（問題の明確化、看護計画）	予習：配布資料を読んで200字程度にまとめて参加する。 復習：看護診断を修正する。看護計画を完成する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C3	可
第7回	看護過程の展開（実施、評価：ロールプレイ）	予習：指導媒体を作成する。 復習：演習後課題レポートを記述する。評価を完成させる。 予習時間：120分、復習時間：120分	基礎3C4 基礎3C5	可
第8回	老年看護学援助論Ⅱガイダンス ・高齢者の特徴をいかした看護の展開 ・アセスメントの枠組み、生活機能評価 ・高齢者の援助・評価の視点 ・施設で生活する高齢者の事例紹介 ・情報収集・整理、アセスメント（グループワーク）個々が予習してきた内容を発表し、事例について理解を深める。	講義前復習：成人看護学のゴードン機能パターンの復習をする。 予習：予め配布する事例を熟読し、自分がとらえた対象について各200字程度でまとめる。 復習：予習内容と講義での内容との違いについて考察し、必要な内容について学習する。 予習：120分、復習：120		可
第9回	高齢者の看護過程演習（情報収集・整理、アセスメント）（グループワーク） ・事例における生活歴	予習：事例におけるの情報整理・アセスメント・生活歴 復習：事例の情報収集・整理、・アセスメント、生活歴（グループワーク）で自分が不足していた内容について学習・追加する。 予習：120分、復習：120	基礎3C1 基礎3C2	可

第10回	高齢者の看護過程演習（情報収集・整理、アセスメント）（グループワーク）	予習：事例におけるの情報整理・アセスメント復習：事例の情報整理・アセスメント（グループワーク）で自分が不足していた内容について学習・追加する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2	可
第11回	高齢者の看護過程演習（生活歴作成）（グループワーク）	予習：高齢者の看護過程演習（生活歴）作成 復習：グループワークで、全体関連図で不足したいた内容について学習・追加する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2	可
第12回	高齢者の看護過程演習（看護問題の明確化・優先度決定）（グループワーク）	予習：高齢者の看護過程演習（看護問題の明確化） 復習：グループワークで、全体関連図で不足したいた内容について学習・追加する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2	可
第13回	高齢者の看護過程演習：看護計画立案（グループワーク）	予習：看護計画立案 復習：グループワークで自分が不足した内容の学習し追加する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2 基礎3C3	可
第14回	グループワーク発表の準備・看護問題１つの看護計画について、パワーポイント・発表原稿を作成する。（グループワーク）	予習：120分グループ発表する看護問題の看護計画について立案 復習：グループワークで自分が不足した内容の学習し追加する。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2 基礎3C3 基礎3C4 基礎3C5	可
第15回	グループワーク発表・まとめ	予習：グループワーク発表に向けて準備をする。 復習：他グループの発表から、自分の看護問題とその看護計画に不足していた内容について学習し追加する。グループの看護問題とは違う看護問題1つについての看護計画立案し提出する。授業終了後（2週間後）。 予習：120分、復習：120分	基礎3C1 基礎3C2 基礎3C3 基礎3C4 基礎3C5	可
評価方法・評価基準	課題レポート100%により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		○	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論		◎	◎	○	50 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：臨床で経験した急性期・慢性期での高齢者看護を活かし、現場で必要な看護の考え方や看護技術のコツ等を指導します
柿原加代子：急性期・慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義します。
吉崎純夫：臨床経験と教員経験を活かし、事例を通した看護過程の展開を指導します。
水田恵利子：病院と高齢者施設での経験を活かし、実際に起こりうる課題について具体的に教授します。

学習相談・支援体制

永坂和子：k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
柿原加代子：k-kakihara@gifuhoken.ac.jp
吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp
水田恵利子：e-mizuta@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111074				ケア・スピリット	
授業科目名	老年看護学実習（施設）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	柿原加代子(実務家)、水田恵利子(実務家)				多　職　種　連　携	○

講義概要（実習目的）

施設で生活する高齢者の特徴を理解し、その人らしく安定した生活を送るための支援について学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

1. 高齢者を尊重した態度で接することができる。

2. 施設で生活する高齢者の特徴が理解できる。

3. 施設で生活する高齢者がその人らしく安定した生活を送るための支援が理解できる。

4. 施設で生活する高齢者を支援するための多職種連携の必要性について理解できる

5. 看護専門職者を目指すものとしての自覚を持ち責任ある言動ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論および成人・老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの単位が取得済みであることが履修条件である。これら講義・演習で培った知識・技術を十分に復習し、事前学習を通して学び、実習に臨むこと。

教材

参考図書：①ナーシング・グラフィカ,老年看護学②高齢者看護の実践,メディカ出版,2023
②生活機能からみた老年看護過程（第4版）,医学書院

授業計画及び学習課題（予習・復習）

詳細は成人・老年看護学実習Ⅰ要項を参照のこと

評価方法・評価基準	実習記録60%、実習態度・実践内容40%により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	80 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

柿原加代子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-kakihara@gifuhoken.ac.jp
水田恵利子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。m-mizuta@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111075				ケア・スピリット	
授業科目名	成人看護学実習（急性期慢性期）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子（実務家）、水田恵利子(実務家)				多　職　種　連　携	○

講義概要

様々な健康レベルにある成人期老年期の対象の特徴、健康障害、治療、およびそれらの相互作用を総合的に理解し、対象およびその家族に適した援助の実践を通して、様々な健康レベルにある成人期老年期の看護に必要な基本的能力を養う。

授業内容（到達目標を含む）

1. 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴が理解できる

2. 対象の健康問題が理解できる

3. 対象とその家族の特徴をふまえ、問題解決へ向けた看護過程が展開できる

4. 多職種連携による対象への支援と看護の役割が理解できる

5. 退院後の生活に向けた継続看護の援助ができる

6. 学生の倫理観に基づいた責任ある行動がとれる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論および成人・老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの単位が取得済みであることが履修条件である。これら講義・演習で培った知識・技術を十分に復習し、事前学習を通して学び、実習に臨むこと

教材

NANDA-I看護診断　定義と分類2021-2023、上鶴重美訳、医学書院,2023.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

詳細は成人・老年看護学実習Ⅱ要項を参照のこと

評価方法

実習記録（50%）、実践内容（30%）、課題レポート（10%）、アクティビティ活動（10%）により評価。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	80 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	○		10 %
演　習	文献検索、討論		◎	◎		10 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：急性期/慢性期病棟、老人保健施設での臨床経験を活かし、現場で必要な看護や看護技術のコツ等を指導します。
吉崎純夫：急性期病棟での臨床経験を活かし、人生の主体者である患者に対する入院中の看護について実習指導します。

学習相談・支援体制

永坂和子:k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
吉崎純夫:s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111076				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	野田みや子、村瀬ゆかり、清水ゆかり、石田美知				多　職　種　連　携	

講義概要

リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、女性の生理心理社会的変化を学び、それに伴う家族の変化や適応へのケアが必要である。その特性に適応した援助への理解を深めつつ、人間のライフサイクルで性科学を学び、生殖期の女性の健康問題をwell-beingに看護実践できる方法論と母性看護の基本的概念を修得する。また学生が内在化する母性観・父性観を確認し対象への共感的理解能力を高め、社会的変遷や国際化社会における看護を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 人間のライフサイクルで性科学を学び、学生自身の「母性と父性」概念を培う
2. 対象へwellness型思考で母性看護の実践ができる方法論と基本概念を修得する
3. 女性の生涯を通じて家族の健康問題と社会的変遷や国際化社会で看護行動がとれる基礎知識を修得する。
4. 授業形態は書籍やPC視聴覚で一斉講義やクリティカルなPBL討議で展開し適時資料・ビデオ教材を活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位を修得するにあたり、毎回120分の予習と120分の復習が必要である。
確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。

教材

テキスト　現代の母性看護学概論、入山茂美他、名古屋大学出版会 2025、2970円
参考図書　マタニティ診断ガイドブック第6版、医学書院、2020年第6版、2970円（本体2,700円+税10%）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷 母性看護の歴史的変遷と現状 母子を取り巻く環境　　（野田）	予習：母性性･父性性･親性について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母1A1-4 母2B1-3	可
第2回	妊娠期からの継続した支援に関する法や施策 働く妊産婦への支援に関する法や施策 女性の健康支援に関する法や施策　（野田）	予習：妊婦を守る法律について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母1B1-6	可
第3回	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 母性・父性・家族に関する概念 女性や母子へのケアに関する概念　（野田）	予習：ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞ･ﾍﾙｽについて考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母2A1-4	可
第4回	母性看護における倫理、・性の多様性 思春期・成熟期女性の健康維持への看護 思春期・成熟期女性の健康課題　　（野田）	予習：女性の健康について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母2C1-4	可
第5回	更年期・老年期女性の健康と看護 正常な妊娠経過と妊娠期の異常 母性看護における看護過程　　（野田）	予習：更年期について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母4A1-8	可
第6回	母性看護で有用な理論、女性の意思決定支援 妊娠期の健康問題に対する看護　　（野田）	予習：妊娠期の生活について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母4A13-18	可
第7回	正常な分娩の経過と分娩期の異常 正常な分娩の経過と分娩期の異常 正常な産褥の経過と産褥期の異常　（野田）	予習：分娩の異常について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母5A1-6 母6A1-10 母7A1-18	可
第8回	性感染症とその予防 性暴力を受けた女性への支援　　（野田）	予習：思春期のｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨについて考える(120分) 復習：課題についてレポートする(120分)	母3B1-3	可
第9回	ウェルネス志向について①　　（村瀬）	予習：正常分娩について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母5B1-3 母5C1-3	可
第10回	ウェルネス志向について②　　（村瀬）	予習：正常産褥について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母5B1-3 母5C1-3	可
第11回	人工妊娠中絶と看護　　（清水）	予習：母性性･父性性･親性について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母6B1-10	可

第12回	不妊治療と看護　（村瀬）	予習：産褥期の異常について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	母7B1-14	可
第13回	プレコンセプションケア　（清水）	予習：産後うつについて考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする　(120分)	母2C5 母2A1-3	可
第14回	若年妊娠のケア　（石田）	予習：若年女性への支援について考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする　(120分)	母3A1-4	可
第15回	まとめ、今後の課題発表　（野田）	予習：プレコンセプションについて考える　(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：最終課題についてレポートする　(120分)		可

評価方法・評価基準	5minutes test(10%)、授業態度(10%)、課題レポート(20%)、定期試験成績(60%)、により評価する

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		15 %
宿題・授業外レポート		○	◎			15 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

臨床での長年の助産師経験･病棟管理経験を活かし、母性看護の特徴と概要、法律や制度、女性のライフサイクル各期の特徴や支援等について、学生にとってイメージしやすく理解しやすい授業を構築展開します。

学習相談・支援体制

野田：火曜・木曜・金曜の16:10～17:00まで、研究室2（事前にアポイントメントを取ってください）　連絡先　e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp
石田：　連絡先　e-mail ishida@gifuhoken.ac.jp
村瀬：　連絡先　e-mail y-murase@gifuhoken.ac.jp
清水：　連絡先　e-mail y-shimizu@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111077				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり				多　職　種　連　携	

講義概要

マタニティサイクルの対象を理解するための基本的な知識および、支援の方向性を理解するための基盤となる概念を学ぶ。また、母性看護援助論Ⅱでの演習、支援のための思考プロセスへとつなげる。

授業内容（到達目標を含む）

妊娠・分娩期の対象の支援を学修する。そのために以下を到達目標とする。
〈到達目標〉1.妊娠期・分娩期の対象へ支援をするための基本的知識を説明できる。
2.対象理解のための基盤となる概念および支援の基盤となる概念を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

「人体構造機能学」「母性看護学概論」を復習して受講する。

教材

テキスト：母性看護学各論、母性看護学２，系統看護学講座、医学書院、2023年第14版、3,410円（本体3,100円＋税10%）
マタニティ診断ガイドブック，医学書院、2020年第6版、2,970円（本体2,970円+税10%）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 妊娠期の経過の特徴と妊婦と胎児のアセスメントについて理解する。①　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母4A 1-6	不可
第2回	ガイダンス 妊娠期の経過の特徴と妊婦と胎児のアセスメントについて理解する。②　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母4A 1-6	不可
第3回	妊婦・胎児の健康と生活および妊婦と家族への支援を理解する。　小テスト　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母4A 7-8,15-16,4B1-7,4C1-6,4E1-6	不可
第4回	分娩期の経過の特徴と産婦と胎児のアセスメントについて理解する。①　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母5A1-4,5B1-3	不可
第5回	分娩期の経過の特徴と産婦と胎児のアセスメントについて理解する。②　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母5A1-4,5B1-3	不可
第6回	産婦・胎児の健康と生活および産婦と家族への支援を理解する。　小テスト　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母5C1-3	不可
第7回	妊娠期の異常と看護について学ぶ。切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊婦貧血等　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母4A13-18	不可
第8回	分娩期の異常と看護について学ぶ。分娩時の異常出血、異常分娩時の産婦の看護等　小テスト（石田）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	母5A1-6 母6A1-10 母7A1-18	不可
第9回	看護過程（事例展開）妊婦①	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	第1～8回の内容に基づく	不可
第10回	看護過程（事例展開）妊婦②	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	第1～8回の内容に基づく	不可

第11回	看護過程（事例展開）妊婦③	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	第1～8回の内容に基づく	不可
第12回	演習の説明、看護技術の教員のデモスト	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test		不可
第13回	妊娠・分娩期の看護実践とスキル演習①②、＜レオポルド触診、胎児心拍聴取、子宮底長と腹囲測定、胎児心拍数モニタリング＞　（石田、村瀬、清水）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	第1回～14回の内容に基づく	不可
第14回	妊娠・分娩期の看護実践とスキル演習①②、＜レオポルド触診、胎児心拍聴取、子宮底長と腹囲測定、胎児心拍数モニタリング＞ （石田、村瀬、清水）	予習：指定された教科書に目を通す（120分） 復習：配布資料を読み返す（120分） ※授業開始時　5minutes test	第1回～14回の内容に基づく	不可
第15回	まとめ、試験	授業の第1回～14回のまとめを行う。	第1回～14回の内容に基づく	不可

評価方法・評価基準	定期試験(65%)、課題レポート(20%)、ミニテスト(15%)により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		15 %
宿題・授業外レポート		◎	○	◎		15 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論		○	◎	○	20 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

石田：対象の特徴を理解出来るよう、授業方法を工夫し取り組みます。
村瀬：看護師と助産師の経験を活かして、分かりやすい授業を提供します。
清水：臨床経験を活かして、楽しい授業にしたいと思います。

学習相談・支援体制

石田：事前連絡は：ishida@gifuhoken.ac.jp
村瀬：事前連絡は：y-murase@gifuhoken.ac.jp
清水：事前連絡は：y-shimizu@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111078				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり				多　職　種　連　携	○

講義概要

マタニティサイクルの対象に支援するための思考プロセス、支援のための基本的技術を学ぶ。また、マタニティサイクルに起きる健康問題について多職種連携を含めて理解する。

授業内容（到達目標を含む）

妊娠・分娩・新生児・産褥および育児期の対象の支援を学修する。そのために以下を到達目標とする。
〈到達目標〉1.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象へ支援をするための技術の基本を習得できる。
2.産褥期・新生児期への支援のためのプロセスを展開できる。
3.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康問題に対する支援を理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

「母性看護援助論Ⅰ」「疾病治療論Ⅳ（小児・新生児）」「フィジカルアセスメント」「看護過程演習」を復習して受講する。

教材

テキスト：母性看護学各論、母性看護学２，系統看護学講座、医学書院、2023年第14版、3,410円（本体3,100円＋税10%）
マタニティ診断ガイドブック第6版、医学書院、2020年第6版、2970円（本体2,700円+税10%）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 産褥期の経過の特徴と褥婦のアセスメントについて①　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母6A1-5,母6B1-10	不可
第2回	ガイダンス 産褥期の経過の特徴と褥婦のアセスメントについて②　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母6A1-5,母6B1-10	不可
第3回	褥婦の健康と生活及び褥婦と家族への支援を理解する　小テスト(石田)	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母6C1-7	不可
第4回	新生児期の経過の特徴と新生児のアセスメントについて①(石田)	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母7A1-11,7B1-14	不可
第5回	新生児期の経過の特徴と新生児のアセスメントについて②(石田)	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母7A1-11,7B1-14	不可
第6回	新生児の健康と生活及び新生児と家族への支援を理解する　小テスト(石田)	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母7C1-9	不可
第7回	産褥期の異常と看護について学ぶ（子宮復古不全、乳腺炎、マタニティブルーズ、産後うつ病）（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母6A6-10	不可
第8回	新生児期の異常と看護について学ぶ（新生児仮死、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、高ビリルビン血症等）小テスト（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	母7A12-18	不可
第9回	褥婦と新生児の看護過程①（事例展開）（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	第1回～8回の内容に基づく	不可
第10回	褥婦と新生児の看護過程②　（石田）	予習：指定された教科書に目を通す　(30分) 復習：配布資料を読み返す　(60分) ※授業開始時　5minutes test	第1回～8回の内容に基づく	不可

第11回	褥婦と新生児の看護過程③、(石田)	予習：指定された教科書に目を通す (30分) 復習：配布資料を読み返す (60分) ※授業開始時　5minutes test	第1回～8回の内容に基づく	不可
第12回	演習の説明、看護技術の教員のデモスト	予習：指定された教科書に目を通す (30分) 復習：配布資料を読み返す (60分) ※授業開始時　5minutes test		不可
第13回	褥婦・新生児の看護実践とスキル演習①② ＜退行性変化と進行性変化、新生児の観察、沐浴＞　(石田、村瀬、清水)	予習：指定された教科書に目を通す (30分) 復習：配布資料を読み返す (60分) ※授業開始時　5minutes test	第1回～第6回の内容に基づく	不可
第14回	褥婦・新生児の看護実践とスキル演習①②、 ＜退行性変化と進行性変化、新生児の観察、沐浴＞　(石田、村瀬、清水)	予習：指定された教科書に目を通す (30分) 復習：配布資料を読み返す (60分) ※授業開始時　5minutes test	第1回～第6回の内容に基づく	不可
第15回	まとめ、試験	第１回～14回のまとめを行う。	第1回～14回の内容に基づく	不可

評価方法・評価基準	定期試験(50%)、課題レポート15%、看護過程20%、ミニテスト15%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		15 %
宿題・授業外レポート		◎	○	◎		15 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論		○	◎	○	20 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

石田：対象の特徴を理解出来るよう、授業方法を工夫し取り組みます。
村瀬：看護師と助産師の経験を活かして、分かりやすい授業を提供します。
清水：臨床経験を活かして、楽しい授業にしたいと思います。

学習相談・支援体制

石田：連絡先　e-mail ishida@gifuhoken.ac.jp
村瀬：連絡先　e-mail y-murase@gifuhoken.ac.jp
清水：連絡先　e-mail y-shimizu@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力 ○
授業コード	111079				ケア・スピリット ○
授業科目名	母性看護学実習Ⅰ（妊娠～分娩期保健管理）				実践的理解 ○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム ○
担当教員	石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり				多職種連携 ○

講義概要

母性看護援助論Ⅱで学んだ周産期にある母性及び新生児への看護において実施する母性看護技術について、臨地実習開始前の学内実習でその習得状況を確認する。さらに、母性看護の対象である妊産褥婦・新生児について理解し、必要なコミュニケーションや態度を養う。

授業内容（到達目標を含む）

1）褥婦の情報を系統的に収集し観察することができる。
2）褥婦の観察した情報から生理的経過であるかどうかのアセスメントを実施できる。
3）新生児の情報を系統的に収集し観察することができる。
4）新生児の観察した情報から生理的経過であるかどうかのアセスメントを実施できる。
5）褥婦及び新生児に対し安全に配慮した看護技術の提供を行う。
6）褥婦及び新生児に対し倫理的配慮に基づく態度で関わることができる。
7）自己の学習を振り返り考察することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習は、教科書だけでなく授業で紹介した参考図書などを読み自己学習を行う。本科目は、予習や復習を前提としており、自己学習をして授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するため小テストを適宜行う。授業では関係する実習指導者および教員と積極的に関わり学修する。詳細は、学生便覧の89-91頁及び「看護学実習の手引き－母性看護学実習」を参照。尚、本科目は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

テキスト：母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱに使用したもの

授業計画及び学習課題（予習・復習）

日	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
1	1）臨地実習前の技術練習における進め方と課題について＜OSCE＞	・褥婦及び新生児に関する必要な観察内容及び観察方法、アセスメント、報告を通して臨地の現場を想定した技術を学習する。		
2	1)臨地実習前の技術練習 (1) 褥婦の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容 (2) 新生児の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容	・褥婦及び新生児に必要な観察内容、観察方法、アセスメント、報告を通して臨地の現場を想定した技術を学習する。対象への配慮及びプライバシーを考慮した看護者の対応を学習する。		
3	1)臨地実習前の技術練習 (1) 褥婦の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容 (2) 新生児の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容	・褥婦及び新生児に必要な観察内容、観察方法、アセスメント、報告を通して臨地の現場を想定した技術を学習する。対象への配慮及びプライバシーを考慮した看護者の対応を学習する。		
4	1)臨地実習前の技術練習 (1) 褥婦の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容 (2) 新生児の一般状態の観察,経過の判断,症状に応じたケア内容	・褥婦及び新生児に必要な観察内容、観察方法、アセスメント、報告を通して臨地の現場を想定した技術を学習する。対象への配慮及びプライバシーを考慮した看護者の対応を学習する。		
5	1）実習前の基礎知識の確認 2）5日間のまとめ	・国家試験出題基準に基づいた知識の確認 ・5日間の学習内容をふりかえり、自己の実習課題を明確にする。		
評価方法・評価基準	母性看護学実習の評価基準表に基づく形成評価と絶対評価の総合評価（100%） ＜実習内容・実習記録の提出、事前学習レポート、学生自己評価・教員評価を含む＞			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	15 %
宿題・授業外レポート		◎	○	○	◎	15 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	20 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

石田：対象の特徴を理解出来るよう、授業方法を工夫し取り組みます。
村瀬：
清水：

学習相談・支援体制

石田：　　連絡先　e-mail ishida@gifuhoken.ac.jp
村瀬：　　連絡先　e-mail y-murase@gifuhoken.ac.jp
清水：　　連絡先　e-mail y-shimizu@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	111080				
授業科目名	母性看護学実習Ⅱ				
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		
担当教員	石田美知、村瀬ゆかり、清水ゆかり				

人　間　力	○
ケア・スピリット	○
実　践　的　理　解	○
プロフェッショナリズム	○
多　職　種　連　携	○

講義概要

1. 妊娠期・分娩期・産褥期の母児の特徴と正常な経過を理解する。
2. 妊産褥婦や早期新生児を看護理論から母児や家族をアセスメントし、看護過程を展開をする。
3. 周産期の母子関係や家族への支援の重要性を理解し、切り目ない包括的援助方法を修得する。
4. 実習を通して、生命の尊厳と生命を守る大切さや、学生自身の親性の理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

1. 周産期にある母児の生理的変化と病態生理を関連づけ、母児の健康状態の経過を理解できる。
2. 周産期の母児に対して、看護理論を用いて看護過程を展開し、健康維持及び増進を促す必要な援助ができる。
3. 周産期にある母児及び家族の人格の尊重、プライバシーの擁護について、倫理的観点に基づき行動できる。
4. 母子保健医療チームの一員として、母子保健の関連法規及び他職種の役割、他職種との相互連携について理解できる。
5. 生命の尊厳について考え、自己の親性について述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習は、教科書だけでなく授業で紹介した参考図書などを読み自己学習を行う。
本科目は、予習や復習を前提としており、自己学習をして授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するため小テストを適宜行う。
授業では関係する実習指導者および教員と積極的に関わり学修する。
詳細は、学生便覧及び「看護学実習の手引きー母性看護学実習」を参照。
尚、本科目は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学実習Ⅰ学内の単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

関連する既習のテキストを使用し、他は適時、提示する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

日	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
1	1．実習する施設：中濃厚生病院、稲沢厚生病院、セブンベルクリニック 2．対象となる学生：看護学部3年次生 3．その他詳細は、別途配布する「母性看護学実習要項」を参照のこと。			不可
2				
3				
4				
5				

評価方法・評価基準	母性看護学実習における評価基準に基づく形成評価と絶対評価の総合評価（100%）

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	15 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	65 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	10 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

石田：対象の特徴を理解出来るよう、授業方法を工夫し取り組みます。
村瀬：
清水：

学習相談・支援体制

石田：　連絡先　e-mail ishida@gifuhoken.ac.jp
村瀬：　連絡先　e-mail y-murase@gifuhoken.ac.jp
清水：　連絡先　e-mail y-shimizu@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -小児看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111081				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	水木幸子、森田真矢				多　職　種　連　携	

講義概要

現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について理解する。小児各期の成長・発達の特性を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について学ぶ。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解し、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

小児看護の対象者である子どもの成長発達上の特徴及び小児看護の基本となる理念、子どもの人権、現代の子どもと家族の概況や倫理的観点から子どもの健康問題、小児看護の役割と課題について講義する。
子どもの全体像をイメージするために、各期の子どもの成長・発達及び栄養の特徴、健康、家族、看護の特徴について説明する。小児と家族の諸統計から小児の健康問題の動向を知るとともに、小児に関連する保健医療福祉のシステム、および法規を知り具体的な施策について説明する。国内外の小児看護の変遷を学び包括的ケアへと発展してきている現代の小児看護の役割について倫理的観点を含み意見交換・発表する場を設ける。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。
全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト　中野綾美：ナーシング･グラフィカ､小児の発達と看護、メディカ出版、2023年、4180円(税込)
参考図書　ドナ･C･アグレア他：危機療法の理論と実際､川島書店､1978年､2200円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 小児看護の理念と目標、小児看護の変遷を理解する。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小1A1-3	可
第2回	小児保健統計を理解する。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小1B1-3	可
第3回	小児看護に必要な発達理論と、身体の特徴について理解する。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小1C1-3 小2A1-3	可
第4回	子どもの死の受け止め方について理解する。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小9B1-2 小9C1-2	可
第5回	乳乳幼児期の健康問題に必要な看護を説明できる。幼児期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小3A1-5 小3B1-4	可
第6回	学童思春期の健康問題に必要な看護を説明できる。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小3C1-4 小3C1-4	可
第7回	学童思春期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。　（近藤）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小3D1-3 小3H1-5	可
第8回	小児および家族・同胞とのコミュニケーションについて理解する。　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小3C13-17 小7A1-5	可
第9回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる　（近藤）	予習：指定された教科書に目を通す　（120分） 復習：提示された課題についてまとめる　（120分） ※授業開始時　5minutes test	小8A1-7	可

第10回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。(近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小8B1-3 小8C1-4	可
第11回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。(近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小8B1-3 小8C1-4	可
第12回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。(近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小6A1-3	可
第13回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。(近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test		可
第14回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。(近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test		可
第15回	まとめ：①～⑭の授業内容について総括する (水木、近藤)	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test		可
評価方法・評価基準	授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎				80 %
宿題・授業外レポート		○	◎	○		10 %
授業態度･授業への参加度				◎		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

水木：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -小児看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111082				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	水木幸子、森田真矢				多　職　種　連　携	

講義概要

小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児とその家族のニーズを把握し、適切な看護の方法を身につける。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識と技術を修得する。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。

授業内容（到達目標を含む）

子どもとその家族に向けた適切な看護援助のあり方について、具体的理解を踏まえた基礎的な実践能力を修得する。
小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援についての基本的知識を講義する。
疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について意見交換・レポート作成ができるようになる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックは講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト・中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術第5版、メディカ出版、2023年、3520円(税込)
参考図書・中野綾美：ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護、メディカ出版、2023年、4180円(税込)
・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円(税込)
・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、子どもの日常生活援助と入院の子どもへのプレパレーションやデストラクションについて学習する	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小5A1-13	不可
第2回	演習 :入院の子どもへのプレパレーション作成する（抑制・固定・与薬・吸入など）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4B1	不可
第3回	子どもの病気認知と子どもに行われるフィジカルアセスメントについて学習する	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小5A1-13	不可
第4回	演習：抱っこの仕方・衣類交換・おむつ交換など清潔ケアに関連するアセスメントの実際について学習する。	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小5A1-13	不可
第5回	子どもの発達年齢に応じた正しい身体計測の方法について学習する	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小5A1-13	不可
第6回	演習：子どもの正しい身体計測の仕方について学習する	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小5A1-13	不可
第7回	発熱が身体に及ぼす影響について学習する。（脱水・小児感染症・隔離）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された課題についてまとめる　(120分) ※授業開始時　5minutes test	小71-8	不可
第8回	呼吸器疾患児の把握とその対応について学習する。（喘息・肺炎・クループ）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小71-8	不可
評価方法・評価基準	授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）						
評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		50 %
宿題・授業外レポート		○	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度				○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	○	10 %
演　　習	文献検索、討論		◎	◎	◎	20 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

水木：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -小児看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111083				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	水木幸子、森田真矢				多 職 種 連 携	○

講義概要

小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響を考え、小児の発達過程の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができることを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、小児の成長・発達を促し、小児が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、小児看護援助技術を演習を通して修得する。

授業内容（到達目標を含む）

・子どもとその家族に向けた適切な看護援助のあり方について、「小児看護学援助論1」で実施した内容を踏まえ、看護過程特にアセスメントを深めることにより、具体性を深めた実践能力を修得する。
・小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援の方法を身につける。
・疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について考え、他者との意見交換、グループワーク、全体発表を通して、思考力・判断力・チーム力を養う。
・臨床実習の準備として、小児への援助技術が一定水準以上に達するよう修練する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックは講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト・中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術第5版、メディカ出版、2023年、3520円(税込)
参考図書・中野綾美：ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護、メディカ出版、2023年、4180円(税込)
・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円(税込)
・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円(税込)テキスト

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 子どもを対象とした看護技術：検査や処置を受ける子どもと家族への看護　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4A1-4	不可
第2回	急性期にある子どもと家族への看護の実際：子どものフィジカルアセスメント（臨床推論）急性期事例　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4E1-4	不可
第3回	演習：チャイルドビジョン作成　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4F1-3	不可
第4回	子どもと家族への看護過程の展開：進め方と方法　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4EFGH	不可
第5回	紙上事例における看護過程の展開① グループワーク　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4EFGH	不可
第6回	１Ｇ：紙上事例における看護過程の展開② ２Ｇ：小児の看護技術演習①　与薬、吸入 （水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4EFGH	不可
第7回	１Ｇ：紙上事例における看護過程の展開③ ２Ｇ：小児の看護技術演習②保育器内の低出生体重児のケア、採尿方法　（水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4EFGH	不可
第8回	１Ｇ：小児の看護技術演習①与薬、吸入 ２Ｇ：紙上事例における看護過程の展開② （水木）	予習：指定された教科書に目を通す　(120分) 復習：提示された最終課題についてまとめる(120分) ※授業開始時　5minutes test	小4EFGH	不可
評価方法・評価基準	授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。 B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。 C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。 D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		50 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		10 %
授業態度･授業への参加度			○	○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	○	10 %
演　　習	文献検索、討論		◎	◎	◎	20 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

水木：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -小児看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111084				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護学実習Ⅰ（乳幼児・周手術期管理）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	水木幸子、森田真矢				多　職　種　連　携	○

講義概要

本実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、シミュレーションセンターにおいて1週間のシミュレーション実習を通して、小児看護に必要となる基本的な知識・技術・態度を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。
2. 小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施し、保育の特徴とそのあり方を述べることができる。
3. 健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対して、看護過程の展開ができる。
4. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

小児・家族を想定した設定で、シミュレーション実習を通して成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。なお、臨地実習の前提条件として本科目の単位取得する必要がある。

教材

テキスト(2年次に購入済再掲)・中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術第5版、メディカ出版、2023年、3520円(税込)
参考図書・中野綾美：ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護、メディカ出版、2023年、4180円(税込)
・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円(税込)
・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

日	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
1	・実習場所：教室、シミュレーションセンター ・実習期間：月曜日～金曜日　5日間 ・実習内容： ①ペーパーペイシェント事例(各学生1事例)の看護過程を展開し、看護計画を立案することができる ②立案した看護計画(援助計画)に沿って、看護援助を実施し、小児の看護技術を修得する ③実施した看護援助についての技術チェックを受け目標達達成レベルまで演習・技術チェックを受ける ・実習グループ：本実習のグループを構成し、そのグループで協力し実習を進める ※実習期間中、医療的ケア児が通所している施設、療育を必要とする児童のいる施設で見学実習を実施、いずれも各施設1日 ※詳細は、講義時に提示する。			不可
2				不可
3				不可
4				不可
5				不可

評価方法・評価基準

原則100%出席すること。
実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			◎			10 %
宿題・授業外レポート			◎	◎		30 %
授業態度･授業への参加度						
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表				○	○	10 %
演　習	文献検索、討論			◎	◎	50 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

水木：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -小児看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111085				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護学実習Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	水木幸子、森田真矢				多　職　種　連　携	○

講義概要

本実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、保育所・重症心身障がい児センター・総合病院等における2週間の臨地実習を通して、小児看護に必要となる基本的な知識・技術・態度を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。
2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施し、保育の特徴とそのあり方を述べることができる。
3. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対して、看護過程の展開ができる。
4. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

保育所実習では8施設に分かれて、各自3日間の実習を行う。前後して、9月からは総合病院と重症心身障がい児センターの3つの医療機関での実習を行う。健康な小児とのコミュニケーションをとり成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。なお、本科目は、小児看護概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

テキスト(2年次に購入済再掲)・中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術第5版､メディカ出版、2023年、3520円(税込)
参考図書・中野綾美：ナーシング･グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護、メディカ出版、2023年、4180円(税込)
・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術､医学書院､2020年､4400円(税込)
・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ､2020年､3520円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

日	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
1	授業計画及び学習課題（予習・復習） 1）保育施設実習　岐阜市の保育園、幼保園7か所			不可
2	2）病院実習　長良医療センター　一宮西病院　藤田医科大学病院			不可
3	2　対象学生 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱの単位を取得している学生 3．その他詳細は、別途配布する「小児看護学実習要項」を参照のこと。			不可
4	※・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を実践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を実践する。 ・保育所実習では、3～4人で配置されるので、主体的に受け持つクラスで実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗い法」等の健康指導を行う。			不可
5	※詳細は、講義時に提示する。			不可

評価方法・評価基準

原則100%出席すること。
実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	15 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	10 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	65 %
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表			◎	◎	◎	10 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

水木：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	111086			人間力	
授業科目名	災害看護論			ケア・スピリット	○
配当年/学期	4年　前期　必修	単位数	1	実践的理解	○
担当教員	藤丸郁代、　野田みや子、水木幸子、水田恵理子			プロフェッショナリズム	○
				多職種連携	○

講義概要

災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の発生時から直後、中期、長期にわたって必要となる看護について学ぶ。災害の概念や災害サイクル、災害の疾病構造、救急医療と災害医療の異なり、災害看護の特殊性について説明する。次いで、防災の重要性とその実際、災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護実践の基礎的知識・技術について理解を深め修得する。最後に、災害時の国際的な協力活動について考察を深める。

授業内容（到達目標を含む）

① 防災と減災、地域防災計画、災害の種類や災害サイクル、支援体制について理解できる。
② 健康危機管理と災害各期における看護支援活動をイメージできる。
③ 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。
④ 災害時の医療救護活動の基本である CSCATTT）について理解できる。
⑤ 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣チームと看護の連携及び役割を理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、各領域別看護学及び在宅看護学を十分に復習しておくこと。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

教材

適宜案内する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回 (野田)	防災と減災、地域防災計画、災害関連法 1)災害看護とは 2)災害医療に関する国の政策と法律 3)地域防災計画（防災と現在）	予習：岐阜県の自然災害を調べる 復習：居住する自治体防災計画を調べる	看統2　A1	
第2回 (野田)	災害の種類や災害サイクル、支援体制について 1)災害の定義と分類 2)災害サイクルとその支援	予習：岐阜県の自然災害を調べる 復習：居住する自治体防災計画を調べる	看統2　A2	
第3回 (藤丸)	健康危機管理 1)健康危機管理の概念と現状 2)集団感染症対策 3)健康被害:公害･薬害･食品被害･放射線	予習：健康危機管理とは何かを調べる 復習：災害以外の健康危機管理をまとめる	疾病3 B10 C1	
第4回 (野田)	災害のレベルに応じた看護活動（1） （フェーズ0～1） 1)災害時の医療救護活動の基本CSCATTT 2)DMATの活動	予習：DMATとは何かを調べる 復習：フェーズ0～1の、被災者への支援についてまとめる	必16 F 7 看統2　B1 看統2　B4	
第5回 (野田)	災害のレベルに応じた看護活動（2） （フェーズ2～3） 1)救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における生活支援 2)DHEATの活動	予習：該当する教科書ページを読んでおく 復習：発災後の居住環境による違いをまとめる	看統2　B1 看統2　B4	
第6回 (藤丸)	災害のレベルに応じた看護活動（3） （フェーズ4～5）　1) 多職種との連携・協働による看護の必要性　2)まちづくり支援	予習：該当する教科書ページを読んでおく 復習：個別の支援から集団への支援をまとめる	看統2　B1 看統2　B4	
第7回 (野田)	被災者、救護者のストレスと心のケア 1)被災者の心理状態 2)DPATの活動	予習：自身の身近で被災した方の心の変化についてまとめる 復習：自身が救援者となった時のストレスについて考える	看統2　B2	
第8回 (野田)	災害看護の意義 1)二次災害の発生と危険について 2)平常時の重要性	予習：１～7回までの講義で災害支援をまとめる 復習：平常時に必要なことをまとめておく	看統2　B3	
評価方法・評価基準				

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎				15 %
宿題・授業外レポート		O				15 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	◎	○	20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	○
授業コード	111087				ケア・スピリット	
授業科目名	薬物療法と看護				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永井博弐（実務家）、野田みや子（実務家）、				多　職　種　連　携	○

講義概要

正確で安全な薬物療法を実施するための看護師の役割という観点で、主な薬物の作用や薬物動態の基礎的な理解を目的とする。また、事例により、用量、用法による違いや作用、副作用の意味を学び、リスクも踏まえて実際に薬物療法を行う際の援助の留意点に結びつけられるような基礎知識の獲得を目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

１．主な薬物の作用や薬物動態について説明できる。
２．与薬法：経口、点滴、直腸内、点眼、経皮などの投与経路による作用や薬物動態の特徴を記述できる。
３．神経系に作用する薬剤、呼吸器・消化器・循環器疾患に用いる薬剤、疼痛緩和に用いる薬剤、化学療法の特徴や注意点を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

後日周知

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1.2回	薬物療法と看護。①薬物の体内動態と相互作用の理解②薬物の剤形とその特徴に応じた患者教育指導の理解③薬物の体内動態とハイリスク患者の看護	薬物管理学での学修を行う		可
第3回	①服薬支援と与薬（社会復帰に向けた自己管理、在宅での管理）、②薬物療法における看護師役割理解（統合失調症、うつ病）	基礎看護学の教本を熟読する		可
第4回	②薬物療法における看護師役割理解（事例：パーキンソン病、脳梗塞後遺症患者、心臓病、高齢者）	基礎看護学の教本を熟読する		可
第5回	③薬物療法における看護師役割理解（事例：女性のライフサイクルと疾患）	基礎看護学の教本を熟読する		可
第6回	対象に応じた自己管理①妊婦が薬を服用するときの心理的援助、②胎児への影響と危険度と使用時期，③服薬行動に向けた指導	薬物管理学での学修を行う		可
第7回	事例に応じた薬物治療の基礎的知識に基づいた安全管理についての指導案作成	指導案に積極的に行動する		
第8回	薬物治療における安全管理の発表			

評価方法・評価基準：試験（80%）、課題（20%）

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎				15 %
宿題・授業外レポート		O				15 %
授業態度･授業への参加度		◎	○	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	◎	○	20 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永井博弐：臨床薬理学の立場から、薬物の適正使用と薬物使用による臨床上の問題を概説します。
野田みや子：臨床での長年の助産師経験を活かし、学生にとってイメージしやすく理解しやすい授業を構築展開します。
吉崎純夫：総合病院での臨床経験を活かし、薬物療法に関わる実際の看護場面をイメージしやすく教授します。

学習相談・支援体制

教員にアポイントを取って、オフィスアワーに質問等を行ってください。
永井博弐：h-nagai@gifuhoken.ac.jp　月曜から水曜日の間、いつでも良いですが、前もって連絡ください。
野田みや子：火・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：m-noda@gifuhoken.ac.jp
吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111088				ケア・スピリット	○
授業科目名	医療安全管理論（感染含む）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	藤原奈佳子、野田みや子、石井英子、柿原加代子				多　職　種　連　携	

講義概要

今までに履修した授業科目や臨地実習で学んだ患者の安全･安楽を守る看護技術や、感染予防対策などについて学習する。、その上で、本科目では、臨床への橋渡しとして、事故発生のメカニズム、事故防止などの安全対策の理論と方法、危険の予知と回避、チームでのリスクマネジメントおよび小児･高齢者、在宅療養者などの医療安全についてふれる。

授業内容（到達目標を含む）

看護職は、多職種の中でも対象となる人々に近い存在であることを考慮して、
1. 医療安全の基本的な知識を説明できる。
2. 看護業務に関連する事故と安全対策について、看護師個人からの視点および組織の視点から説明できる。
3. 在宅看護に関連する事故と安全対策の特徴について説明できる。
4. KYTに関してグループワークを通して、自身の臨地実習での振り返りをして討議に参加できる。
5. 患者、利用者および医療者の安全性確保のために今後の臨地実習にむけての留意点を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

▸この科目は対面授業を原則とする。▸日常のヒューマンエラーや、これまでの臨地実習等での経験を基にした振り返りをまとめて授業に参加すること。さらにこの授業で学んだことをこれからの臨地実習の場で確認すること。▸毎回の授業時間外にの学習課題などとして予習(120分)･復習(120分)をしておくこと。授業の予習として学習課題に提示された教科書または参考資料の該当箇所の通読（一通り目をとおす）まはた熟読（よく読んで理解をする）をしてくること。復習でわからないところがあれば担当教員に質問すること。▸医療安全に関する看護師国家試験出題基準対照表（教科書 pp.278-279）を各自で確認しておくこと。

教材

【教科書】ナーシング・グラフィカ、看護統合と実践②医療安全、第5版、松下由美子編、メディカ出版、3,300円（税込）
【参考資料】（2025年1月31日現在）：
①看護職の倫理綱領、日本看護協会、2021年3月15日発行
<https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/statistics_publication/publication/rinri/code_of_ethics.pdf>
②日本医療機能評価機構→医療事故情報収集等事業→事例検索
<https://www.med-safe.jp/mpsearch/SearchReport.action>
③医療安全推進のための標準テキスト、日本看護協会、2013年10月31日発行
<https://www.oita-kango.com/img/iryou/20131113.pdf>
④看護職の夜勤･交代制勤務に関するガイドライン、日本看護協会、2013年2月28日発行、
<https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/guideline/yakin_guideline.pdf>
⑤職場の安全対策　始めよう！危険予知訓練(KYT)、病院事業編、地方公務員災害補償基金、平成30年2月
<https://www.chikousai.go.jp/gyoumu/bousi/pdf/bousi47.pdf>

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回 （藤原）	医療安全と看護の理念： 医療安全の意味と重要性、歴史的背景、関連法規、業務独占、名称独占、看護職の法的規定、看護師の倫理綱領など	▸予習:テキスト第1章を通読、医療安全に関する基礎知識pp.20-21を熟読、保助看法pp.27-29、第8章pp.242-243を熟読／2.参考資料①「7 看護職…責任をもつ。」の解説部分を熟読。 ▸復習:1.医療安全に関する基本的用語を理解する。/2.業務独占、名称独占を理解する。	**必5A1-3**	
第2回 （藤原）	医療安全への取り組みと医療の質の評価： 医療法、医療事故調査制度、日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業、医療事故への対応（予防、発生時、医療安全管理体制）など	▸予習:テキスト第2章を通読／第1章(p.27)医療提供者としての姿勢を熟読／参考資料②を閲覧 ▸復習:1.医療法における医療安全への取組の概略を理解する。／2.医療事故調査制度(医療法第6条の10)の目的、報告対象、調査および調査の結果を報告する機関をまとめる(テキストpp.43,75)。	**健支11D2**	
第3回 （藤原）	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント／チームで取り組む安全文化の醸成： ヒューマンエラー、事故分析(SHELモデル、mSHELモデル、4M4E、RCAなど)、フールプルーフ、リスクマネジメント(ハインリッヒの法則、組織の安全文化、個人的エラー防止(HALT,IMSAFE)、SafetyⅠ、SafetyⅡ、レジリエンス、インシデント報告システムなど／チームSTEPPSなど	▸予習:テキスト第3章、第4章を通読する。／ヒューマンエラーのメカニズム(pp.84-85)、SHELモデル、mSHELモデル(pp.93-95)を熟読する。 ▸復習:1.ヒューマンエラーのメカニズムを人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明する。／2.ハインリッヒの法則からインシデントレポートの必要性を理解する。	**看統1E1-2**	
第4回 （藤原）	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策（医療関連感染、医療機器の使用に関わる危険と予防、医薬品･医療品への曝露と予防、労働形態と生体リズム･作業、ハラスメント）など	▸予習：第7章を通読する。／参考資料④pp.14-17を閲覧し、夜勤･交替制勤務の心身への影響を考える。 ▸復習：1.看護実践に潜む危険性を判断し、危険を回避するための方策を修得する。2.第1回から第4回をとおして、看護師として看護業務に関わる際の自らの課題を見いだす。	**健支7A3**	
第5回 （野田）	・患者家族の協同と安全文化の醸成 ・医療安全管理者の役割 ・看護業務における医療安全対策 ・看護業務における感染防止対策 ・病院経営の指標から考える医療安全	▸予習：課題資料を通読する。 講義開始時：5minutes test ▸復習：講義時の事例および事後課題について、レポート記述、グレクサ(医療安全管理論)に投函する。	**看統1** **看統2**	

第6回 （野田）	・医療事故発生時の初期対応 ・コンフリクトマネジメント、ADR、 メディエーション ・患者の安全確保と医療者の安心確保 ・病院における事故事例を通して考える	▸予習：課題資料を通読する。 講義開始時：5minutes test ▸復習：講義時の事例および事後課題について、レポート記述、グレクサ(医療安全管理論)に投函する。	**必15B1 必15B2 必15B3 必15B4 必15B5**	
第7回 （野田）	・看護学生の実習と安全、法的責任 ・実習中の事故防止と事故発生時の対応 ・実習中の事故事例を通して考える	▸予習：課題資料を通読する。 講義開始時：5minutes test ▸復習：講義時の事例および事後課題について、レポート記述、グレクサ(医療安全管理論)に投函する。	**必15C2 必15C3 必16G1-2**	
第8回 （野田）	・患者安全、感染防止に関する多くの場面を 通して、実習生としての行動を考える ・環境調整 ・ADL援助 ・患者急変時の対応 ・褥瘡予防・感染予防	予習：課題資料を通読する。 講義開始時：5minutes test 復習：講義時の事例および事後課題について、レポート記述、グレクサ(医療安全管理論)に投函する。	**必16F5 必16G2**	
第9-10回 （石井）	在宅看護における医療事故と安全対策： 住宅改修の一例、介護ベッドでの事故など	▸予習：テキスト第6章_1～3を通読し、在宅で医療安全事故が起こる背景を調べる。 ▸復習：在宅看護における安全対策を理解する。	**在/地3A1 在/地3A2 在/地7R4**	
第11・12回 （柿原）	医療現場における患者および医療者の安全性を確保するための対策としてのKYTの実際：医療従事者に起こる事故(医療従事者に起こる災害：災害の恐ろしさ、職業感染、災害防止策）事故に対する感受性を高める、危険予知訓練（KYT）とは、職場で役立つKY活動、KYTの方法、 以上の知識をもとに、やってみようKYT （グループワーク・発表)	▸予習：参考資料KYT資料を通読する。 ▸復習：1.KYTの講義・グループワークを通して、気づき、学び、今後の学習課題を記述する。	**基礎3G1-5**	
第13・14回 （柿原）	事故に関する安全対策のスキルアップ（ＫＹＴ演習）：1.事例（3事例）、現状把握、本質追求、対策樹立、確認、2)講義・グループワークを通して気づき、学び、今後の学習課題についてグループでまとめる。 3)グルプワーク発表の準備PP作成、発表原稿作成（ＰＣ、準備物品：ＵＳＢ（各グループ　１～２台、個）	▸予習：参考資料KYT資料を通読する。臨地実習を通して看護業務に関連する事故と安全対策の組織的取り組みがどのようにされていたかを振り返る。 ▸復習：1.KYTの講義・グループワークを通して、気づき、学び、今後の学習課題を記述する。		
第15回 （柿原）	グループワーク発表：1)事例（1事例）、現状把握、本質追求、対策樹立、確認2)について、2)講義・グループワークを通して気づき、学び、今後の学習課題について、グループグループ毎の発表	▸予習：グループワークの内容のPP作成、発表原稿作成、Q&Aの作成、それぞれの役割を決め発表準備をする。 ▸復習：他グループの発表からの学び、気づき、今後の学習課題をまとめる。		

評価方法・評価基準	授業の事前事後（予習、復習）の課題レポート50%、発表25%、小テスト15%、授業態度10%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15 %
宿題・授業外レポート			◎	○		50 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○		10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	25 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

野田は看護管理･病院管理者として、病院の患者安全･職員の安全･実習生の安全について教授する。石井は保健師としての経験をふまえて在宅療養環境の安全について教授する。

学習相談・支援体制

授業後に対応、その他の時間帯はメールで事前連絡(***@gifuhoken.ac.jp)　　***: 藤原(n-fujiwara)、野田(m-noda)、石井(h-ishii)、柿原(k-kakihara)

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111089				ケア・スピリット	○
授業科目名	国際保健医療活動論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子				多　職　種　連　携	○

講義概要

国や地域によって政治、経済、文化が異なり、それに伴い国民の生活や健康も違う。開発途上国では多くの乳幼児が感染症で死亡し、また妊産婦の健康問題、エイズ、結核、マラリアの３大感染症等が問題になっている。国際保健医療活動論では、途上国の健康問題に関連する要因をはじめ、WHOなど保健医療分野で支援を行う国際機関、日本の政府開発援助や国際協力機構、民間団体など、組織の役割や活動について学修する。

授業内容（到達目標を含む）

世界の健康課題とそれらに対する取り組みを、国際情勢と関連づけて理解する。国際保健の基本となる概念を理解し、国際保健活動の現状と課題について考察する。
到達目標：
1）現代国際社会における健康課題の特徴とその背景を理解し、他の人に説明できる。
2）現代国際社会における健康課題に対する国際的な取り組みを具体的に挙げ、その課題を分析することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。
注意）JICAなごや地球ひろばの訪問日時については、決まり次第連絡します。

教材

教科書：「ナーシンググラフィカ看護の統合と実践④　国際化と看護」メディカ出版（2,600円+税）（1年時に購入済）
参考図書：外務省ホームページ、JAPAN SDGs Action Platform SDGs達成に向けた分野別取り組み 「平和と健康のための基本方針」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000099126.pdf

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	国際保健とは？プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション	予習120分：教科書1 p.18-29を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3A1、 看統3A3	可
第2回	国境を越える健康課題1：三大感染症、その他感染症	予習120分：教科書1 p.44-50を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3A2	可
第3回	国境を越える健康課題2：HIV感染予防対策の取り組み	予習120分：教科書1 p.51-62を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	母性4A10	可
第4回	グローバルヘルス・ガバナンス、人間の安全保障、持続可能な開発目標（SDGs）	予習120分：教科書1 p.63-77を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	母性2A2、 母性2A3、 母性3B2、 健支7B1 健支7B6	可
第5回	国境を越える健康課題3：移民の健康	予習120分：教科書1 p.208-217を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。		可
第6回	日本の中の国際保健：日本で暮らす外国人の健康課題	予習120分：教科書1 p.218-224を読む。 復習120分：予習と講義内容について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	看統3B1	可
第7回	異文化看護の実践（JICAなごや地球ひろば訪問）	予習240分：教科書1 p.80-111を読む。 復習240分：体験講義内容をまとめ、課題レポートにまとめる。	看統3B2	
第8回	国際保健を担う組織とその活動： 国際機関、政府開発援助（JICAなごや地球ひろば訪問）			
評価方法・評価基準	復習提出20%、小テスト20%、レポート60%により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="7">評価方法・評価基準</td><td rowspan="7">【評価基準】
S(90-100点): 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点): 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点): 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点): 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満): 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="8">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>50 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>30 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>20 %</td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="6">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

WHO、JICA、NGOなど国際協力分野の実務経験のある教員が講義を行う。

学習相談・支援体制

木曜（研究日）以外の平日。昼休み対応可。
できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111090				ケア・スピリット	
授業科目名	国際看護活動論実践看護				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子、小萱康徳				多　職　種　連　携	○

講義概要

実習目的：
1. グローバルな視点を持ったうえでの対応が必要となる国際感染症（HIV/AIDS,性感染症）の予防対策の実際を知る
2. 世界の健康問題と社会のつながりの実際を知る

授業内容（到達目標を含む）

1. 国際感染症の一つであるHIVについて、予防としての検査の種類や検査方法、検査前情報提供、検査の実施、結果通知のあり方、予防情報の提供について理解し、ケア提供のスキルを習得する。
2. HIV/AIDSの感染リスクが高いポピュレーションをとりまく社会的背景、健康課題、看護ケア提供における配慮すべき点を理解することができる。
3. HIVやAIDSと共に生きる人々へのケア、周囲の支援の実際を理解することができる。
4. 東海地域のLGBTQ+当事者が抱える健康課題、医療サービスへのアクセスにおける問題を理解し、看護ケアの実践に結び付けることができる。
5. 東海地域のHIV/AIDS関連支援団体の活動に参加し、特定の健康課題の社会的要因について論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本実習は、国際保健医療活動論の単位を取得していなければ履修できない。

教材

教科書1:「ナーシンググラフィカ看護の統合と実践④　国際化と看護」メディカ出版（2,600円+税）（1年時に購入済み）
教科書2:厚生労働統計協会「厚生統計協会　国民衛生の動向・厚生の指標」（購入済みの書籍で良しとする）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
１日目	LGBT+へのHIV予防啓発イベントの説明会参加・準備作業　（学外）		母性2A2	
２日目	・ 実習オリエンテーション（実習内容の確認）、実習目標の説明（学内） ・ LGBTの健康課題についての事例検討（グループワーク）		母性2A4	
３日目	・ LGBTの健康課題についての事例検討（グループワーク）（続き）（学内） ・ LGBT当事者による講演参加・討議		健支7B6	
４日目	LGBTQ＋の健康課題実習（LGBT＋対象のHIV啓発イベント）（学外）		健支2A4	
５日目	実習のまとめ（学内） グループになり、LGBTQ+の健康課題のサブテーマを付けて実習の学びをまとめて発表準備を行う		成人16C4	
６日目	グループごとに実習の学びを発表（学内）		成人16D4	

評価方法・評価基準	実習目的の達成度50%、出席および学習態度20%、課題レポート30%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	10 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	30 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		◎	◎	◎	◎	20 %
演　習	文献検索、討論	○	○	○	○	10 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

高久：WHO、JICA、NGOなど国際協力分野の実務経験があり、在日外国人や性的マイノリティの健康課題を研究フィールドにしています。ともに異文化看護を学び、実践できるようにサポートします。

学習相談・支援体制

高久：研究日以外の平日、昼休みも対応します。連絡先　m-takaku@gifuhoken.ac.jp
小萱：メールで対応します。連絡先　y-kogaya@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111091				ケア・スピリット	○
授業科目名	医療的ケア論実践看護（小児・母性）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	野田みや子、水木幸子、水田恵理子				多　職　種　連　携	○

講義概要

生活の場における医療的ケアの現状と学校に勤務する看護師の役割について学ぶ

授業内容（到達目標を含む）

①経管栄養や導尿等を通じた生活のリズムの形成
②吸引や姿勢変換の必要性など自分の意思や希望を伝える力を学ぶ
③排痰の成功などによる自己肯定感・自尊感情の向上を理解する
④安全で円滑な医療的ケアの実施による信頼関係の構築を理解する

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

全ての回数を参加する

教材

適宜提示する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

日	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
1	学校における医療的ケア特定行為（・口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内の喀痰吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養）と特定行為以外の医行為看護師等の免許を持った者が実施）違い			不可
2	栄養：●経管栄養（鼻腔に留置されている管からの注入）、●経管栄養（胃ろう）、●経管栄養（腸ろう）、経管栄養（口腔ネラトン法）、ＩＶＨ中心静脈栄養			不可
3	呼吸：●口腔・鼻腔内吸引（咽頭より手前まで）、口腔・鼻腔内吸引（咽頭より奥の気道）●気管切開部（気管カニューレ内）からの吸引、気管切開部（気管カニューレ奥）からの吸引、経鼻咽頭エアウェイ内吸引、気管切開部の衛生管理、ネブライザー等による薬液（気管支拡張剤等）の吸入、経鼻咽頭エアウェイの装着、酸素療法、人工呼吸器の使用			不可
4	まとめ、発表、レポート作成			不可
5				不可

評価方法・評価基準

原則100%出席すること。
実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		15 %
宿題・授業外レポート		○	◎			15 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		50 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		20 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

野田みや子：総合病院の小児病棟での小児看護経験を活かし、学生に現状と疾病との関連をイメージしやすく指導する。
水木幸子：臨床での長年の小児看護経験･管理経験を活かし、小児看護の特徴･概要･制度等について授業を構築展開する。

学習相談・支援体制

事前にアポイントを取ってください
野田みや子：火･木･金 16:10～17:00　連絡先e-mail:m-noda@gifuhoken.ac.jp
水木：　　連絡先　e-mail s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			人　間　力	○
授業コード	111092			ケア・スピリット	
授業科目名	災害看護活動実践看護（公衆衛生・小児）			実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1	プロフェッショナリズム	○
担当教員	藤丸郁代、　野田みや子、水木幸子、水田恵理子			多　職　種　連　携	○

ディプロマポリシーを達成するために必要な能力

講義概要

災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学修する。授業内容は災害の種類と疾病構造、災害サイクルにおけるフェーズの特徴、災害に関する社会の仕組みや個人の備え、災害が人々に及ぼす影響と災害サイクルにおける看護活動等とし、災害発生時の被災者に向けた安全なケア環境の提供を行うための能力を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

被災者の生活の場の特性、被災者のニーズについて、教科書等を基にグループワークを行う。避難所の設営と運営の一環として、避難所に居住する被災者の時期別健康障害、生活上の課題について学ぶ。要配慮者の法制度、健康障害、災害関連死の予防対策等について学ぶ。避難所の設営と運営を実践的に行う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、災害看護論講義資料及びテキストを十分に復習しておくこと。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。予習については必要時示す。

教材

テキスト　酒井明子編ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践(3)『災害看護』　第4版　3,080円（税込み）
参考図書　小原真理子監修　南山堂　災害看護：心得ておきたい基本的な知識　改訂3版　3,080円（税込み）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	1)本演習科目のオリエンテーションを行う。 2)病院が被災した場合と被災者の生活の場となる避難所について考える。	予習：災害看護論を復習しておく 復習：病院で被災した場合と自宅で被災した場合の行動を考えておく		不可
第2回	グループワーク１ 病院が被災した場合どんな問題が起こるか考える。	予習：災害看護論を復習しておく 復習：病院で被災した場合と自宅で被災した場合の行動を考えておく		不可
第3回	グループワーク２ 入院中患者が被災した場合の課題とニーズについてグループワークを行う。	予習：病院で被災を想定して平常時何をすべきか考える 復習：平常時の入院患者指導をまとめる		不可
第4回	１・2についてプレゼンテーションと意見交換	予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：平常時の看護職の役割をまとめる		不可
第5回	グループワーク３ 地域住民のバラバラなニーズに対応するために、平時どうしたらよいか考える。	予習：自分自身の防災をまとめておく 復習：避難所の問題を考える		不可
第6回	グループワーク４ ハイリスク被災者をどうしたらよいか考える。	予習：ハイリスク被災者にあたる人はどんな人か考えておく 復讐：地域住民が被災した場合をまとめる		不可
第7回	グループワーク5 １から４のグループワークを踏まえ、理想の避難所を検討する。また看護職としての支援計画を考える。	予習：災害時必要な看護を考えておく 復讐：長期間にわたる支援をまとめる		不可
第8回	１から5についてプレゼンテーションと意見交換	予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：平常時必要な看護活動をまとめる		不可

評価方法・評価基準　課題レポート 30%演習参加度　70%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		O				20 %
宿題・授業外レポート		O	○			20 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			○	○		30 %
演　　習	文献検索、討論		○	○		10 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

実習科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111093				ケア・スピリット	○
授業科目名	シミュレーション実践看護（基礎）				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	原田英子、水木幸子				多　職　種　連　携	○

講義概要

本実習は基礎看護学実習ⅠとⅡを終え、3年後期から開始される領域実習を前にシミュレーションセンター室を活用して、看護実践力を育成します。具体的には、今までの技術・知識の振り返りを行い、看護技術の研鑽を行います。判断力・技術力・マナーなど実践の現場で必要とされる臨床技術について、自己の学修課題や疑問を明確にし、解決した上で実習に臨むことを目指します。

授業内容（到達目標を含む）

この実習を受講前までに学んだ全ての技術・知識について、技術・知識の定着を図ることができる。
自分の意見を述べ、相手の意見を尊重する姿勢で積極的な意見交換が行える。
自己の学習課題や疑問を明確にし、解決に導く方策を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

3年後期からの実習を前に、今まで学習してきたことを丁寧に復習することができる貴重な機会です。実習時間数は1単位45時間です。対面での実習時間を含め、1日9時間の学修が行えるよう行動計画を立てて下さい。自己の課題を明確にして、自己研鑽がつめるよう積極的な姿勢を求めます。

教材

特に指定しない。今まで購入した看護系教科のテキストを必要に応じて持参すること。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

週	実習計画　例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、解剖生理学の復習、呼吸器のアセスメント		
第2回	バイタルサイン測定の技術チェック、清潔援助の演習		
第3回	事例を用いてシミュレーション実践（グループ学習）、技術演習		
第4回	事例を用いてシミュレーション実践（グループ学習）、技術演習		
第5回	シミュレーション実践結果の発表、技術・知識の復習（知識を問う試験と解説）		

評価方法・評価基準	原則100%出席すること。 知識を問う試験結果、及び、シミュレーション実践の評価を合わせて100%。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		○	○	◎	○	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		30 %
演　習	文献検索、討論			○	◎	50 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

吉崎：総合病院での臨床経験を活かし、臨床実習へ出る前のシミュ―レーションを効果的に指導します。
原田：安全・安楽に正しい看護ケアが実施できるように一緒に習得していきましょう。
水木：

学習相談・支援体制

吉崎：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp
原田：e-harada@gifuhoken.ac.jp
水木：s-mizuki@gifuhoken.ac.jp

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111096				ケア・スピリット	○
授業科目名	健康と運動実技（市民スポーツ教室実習）成人・老年				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子（実務家）、柿原加代子（実務家）、水田恵利子（実務家）				多　職　種　連　携	○

講義概要

地域社会で行われるスポーツ大会等行事にボランティアスタッフとして参加することで、健康の維持・増進に深く関わる看護職の役割を学び、学生自身の健康についても考える機会とする。

授業内容（到達目標を含む）

1. 運動が健康に及ぼす影響を理解できる。
2. 運動時に起こりうる健康障害について理解できる。
3. 救護活動の基礎知識と留意点について理解できる。
4. 心肺蘇生法を修得できる。
5. 救護ボランティアとして活動できる。
6. 自身の健康について考えを述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 該当領域の単位を取得。
2. 実習要項に準ずる。

教材

1. 救命講習テキスト（消防署）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

救護のための消防署による研修受講・岐阜清流ハーフマラソン/ナゴヤマラソン救護ボランディア・

週	実習計画　例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
第1回	救護活動の知識と留意点
第2回	岐阜消防署による研修心肺蘇生法
第3回	運動と健康障害についてグループ学習・学内救命演習
第4回	ナゴヤマラソン・岐阜清流ハーフマラソン　救護ボランティア活動
第5回	まとめの会・レポート
評価方法・評価基準	実習態度・実践内容60%、課題レポート40%により評価する。

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート		◎	○	◎		20 %
授業態度･授業への参加度		○	○	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		20 %
演　習	文献検索、討論			○	◎	30 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

永坂和子：臨床で経験した外科病棟・ICU・救急外来の看護を活かしてわかりやすいように指導します。
柿原加代子：急性期・慢性期施設での臨床経験、基礎看護教育の長年の経験及び自らの介護経験を活かし全人的な看護についてわかりやすく講義します。
吉崎純夫：急性期病棟での臨床経験を活かし、救護場面で臨機応変に活動できるように指導します。
水田恵利子：病院と高齢者施設での経験を活かし、実際に起こりうる課題について具体的に教授します。

学習相談・支援体制

永坂和子：k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
柿原加代子：k-kakihara@gifuhoken.ac.jp
吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp
水田恵利子：e-mizuta@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			人　間　力	
授業コード	111095			ケア・スピリット	○
授業科目名	癒やしとタッチケア			実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　選択	単位数	1	プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子			多　職　種　連　携	○

ディプロマポリシーを達成するために必要な能力

講義概要

看護現場において癒しをもたらすケアの方法とその実践について、実際の臨地施設での事例を用いて、科学的見地から学び、将来の看護実践に役立てる。看護の役割と癒しのケアとの関連や、近年その効果が広く注目されているタッチケアの概念やホルモン効果を基盤として、有用な基本手技を学び、看護の対象者に癒やしをもたらすためのタッチケアが実践でき、その効果が考察できる能力を修得する。本科目を通じて、看護職者がその対象者に癒やしをもたらす技法を、実践的に身につける。

授業内容（到達目標を含む）

癒しとタッチケアに関するテキストで該当する章や項目を読み解く。
履修学生は、講義で実施される演習時間を有効に学習し、臨床看護実践能力を獲得する基礎知識となるよう、積極的に参加する。
履修学生は、想像力・考察力を高めるために演習項目ごとに、課題レポートを作成して提出する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

臨床看護で癒しとタッチケアは、対象の心理的・身体的な理解による看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう各回の授業テーマにあわせた課題の予習と復習を行う。この科目の単位修得には約15時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。

教材

テキスト　特に指定しない、適宜提示する
参考図書　・母子の健康科学特・基礎助産学3、医学書院、2020、3800円(税別)
・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」、医学書院、2020、2640円(税込)
・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論 」、医学書院、2020、3190円(税込)
・北川公子他著、系統看護学講座 老年看護学」、医学書院、2020、2970円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイドライン 癒しとは：タッチケアとは 補完代替医療について（野田）	予習：健康人の癒し、病人の癒しについてまとめる(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第2回	小児の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第3回	母性の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第4回	成人の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第5回	高齢者の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第6回	グループワークー医療現場で活用できる代替医療ー(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第7回	グループワークー医療現場で活用できる代替医療ー(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)		可
第8回	グループワークのまとめ、発表、相互評価	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 最終課題：提示されたテーマについて、レポートをまとめて提出する		可

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	○	◎		30 %
宿題・授業外レポート		○	◎			30 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎		20 %
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の展開			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111096				ケア・スピリット	
授業科目名	看護ゼミナールⅡ(ヒトの身体の理解)				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	1年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	主担当：1年生担任、他全教員				多 職 種 連 携	○

講義概要

人体のしくみを各器官のはたらき・生理学的機能と関係付けて学修し、機能形態学から生命現象の基本を理解する。前半は多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために細胞の構造と機能、細胞の増殖・分化、老化についての細胞生物学を学び、後半は人体の構成と機能（骨格、関節、筋肉、感覚、脳・神経系、内分泌、循環、血液、呼吸)について生理解剖学の基礎を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

１．生物学、生理学を理解している。
２．人体の構造と機能について、医学用語と正しい漢字を使って説明できる。
３．生命現象の本質を述べることができる。
４．各器官の基本的な機能を理解しており、器官間での相互作用について説明できる。
５．化学伝達物質および神経での電気的な変化を介する機構について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

各講義の前に１時間、教科書および教材資料を予習をして用語を正しく理解しておく。さらに、各講義の後、プリントで単元ごとの復習をするので、それを完全に理解するまで、教科書および参考書で調べて理解すること（１時間）。わからないことがあればそのままにしないで、必ず質問をして理解をしておくこと。

教材

テキスト：医学書院、解剖生理学ワークブック？

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 「身体構造機能学1」確認試験 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「身体構造機能学1」の復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第2回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第3回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第4回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第5回	まとめ、確認試験	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第6回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第7回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第8回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第9回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第10回	まとめ、確認試験	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第11回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第12回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第13回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可
第14回	講義開始時：5minutestest 「解剖生理学ワークブック」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		不可

<table>
<tr><td>第15回</td><td>まとめ、確認試験</td><td colspan="2">予習時間60分：「解剖生理学ワークブック」復習
復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施</td><td></td><td>不可</td></tr>
<tr><td>評価方法・評価基準</td><td colspan="5">原則として講義担当者が評価する。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">評価方法・評価基準</td><td rowspan="9">【評価基準】
S（90−100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80− 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70−79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60−69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="4">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>40 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>30 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>30 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
<tr><td colspan="6">実務経験のある教員による授業内容</td></tr>
<tr><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="6">学習相談・支援体制</td></tr>
<tr><td colspan="6">指導教員とのアポイントメールにより、時間調整をしてください。</td></tr>
</table>

講義科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111097				ケア・スピリット	
授業科目名	看護ゼミナールⅢ(身体の変化の理解)				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	主担当：2年生担任、他全教員				多　職　種　連　携	○

講義概要

看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸器、循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、腎泌尿器の病態を理解し、適切な対応について理解する。

授業内容（到達目標を含む）

１．人体の構造と機能について理解している
２．臓器別に代表的な疾患について、原因、検査、診断、治療、予後について述べることができる。
２．代表的な疾患について、医学用語と正しい漢字を使って説明できる。
３．各器官の基本的な機能を理解しており、器官間での相互作用について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

各講義の前に１時間、教科書および教材資料を予習をして用語を正しく理解しておく。さらに、各講義の後、プリントで単元ごとの復習をするので、それを完全に理解するまで、教科書および参考書で調べて理解すること（１時間）。わからないことがあればそのままにしないで、必ず質問をして理解をしておくこと。

教材

テキスト：医学書院、フィジカルアセスメントワークブック、看護学生のためのレビューbook

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス 「解剖生理学」確認試験 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「解剖生理学1」の復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第2回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第3回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第4回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第5回	まとめ、確認試験	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第6回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第7回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第8回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第9回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第10回	まとめ、確認試験	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第11回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第12回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		

第13回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第14回	講義開始時：5minutestest 「ワークブック」「レビューbook」課題学習	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
第15回	まとめ、確認試験	予習時間60分：「ワークブック」「レビューbook」復習 復習時間60分：ワークブックに沿って、与えられた課題の実施		
評価方法・評価基準				

評価方法・評価基準

【評価基準】

S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。

B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。

C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。

D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			◎	◎	◎	40 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30 %
授業態度･授業への参加度			◎	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学年担当をはじめ看護学部教員の専門性による講義や演習を行い、これまでの講義・実習で培った学びをさらに高めます。

学習相談・支援体制

指導教員とのアポイントメールにより、時間調整をしてください。

講義科目						
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111098				ケア・スピリット	
授業科目名	看護ゼミナールⅣ(看護･臨床の理解)				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	主担当：3年生担任、他全教員				多 職 種 連 携	○

講義概要

看護学を学ぶ上で必要な疾患･治療・看護についての基礎的知識を統合し、臨床実習に結び付けることを目的とする。一般教育・基礎看護学・臨床看護学の知識と、基礎看護学実習や臨床基本手技・コミュニケーション技術等の実習により基本的な態度・技能を修得した上で、臨床現場での臨床実習のための準備教育を行う。
　看護学生としての学習意欲を一貫して維持向上させ、将来医療現場を担う一員として、評価を受けることができるように努める。

授業内容（到達目標を含む）

１．臨床実習の目的を理解している
２．領域別に、代表的な疾患について、原因、検査、診断、治療、看護について述べることができる。
２．代表的な疾患や看護について、専門用語と正しい漢字を使って説明できる。
３．各領域の基本的な看護を理解しており、看護過程を展開でき、臨床推論を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

レポート課題や、個人学習が中心となる、教科書および教材資料を予習をして用語を正しく理解しておく。さらに、各領域ガイダンスの後、出題された課題に基づいて、A4用紙に課題をまとめていく。7月のオスキー実施までに各領域の課題をクリアーしておく必要がある。わからないことがあればそのままにしないで、必ず質問をして理解をしておくこと。

教材

適宜指定する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・ガイダンス ・「解剖生理学」「疾患の理解」確認試験			
第2回	・各領域の実習事前課題提示 ・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する			
第3回	インターンシップに関する講座（就職委員会）６月上旬			
第4回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第5回	自己分析講座（就職委員会）７月上旬			
第6回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第7回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第8回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第9回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第10回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第11回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第12回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第13回	・各領域実習前オリエンテーション ・事前に提示された、領域ごとの物品等の準備 ・テーマカンファレンス	・事前課題を整理し、課題レポートファイルを作成する ・グループワーク		
第14回	・宣誓式オリエンテーション ・宣誓式準備学習			
第15回	・志豊会宣誓式 ・各領域直前オリエンテーション			

評価方法・評価基準	

評価方法・評価基準

【評価基準】
S(90-100点): 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点): 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点): 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点): 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満): 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			◎	◎		40 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30 %
授業態度･授業への参加度			◎	◎		30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

連絡先　石田：ishida@gifuhoken.ac.jp 高久：m-takaku@gifuhoken.ac.jp

実習科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力		○
授業コード	111099				ケア・スピリット		
授業科目名	統合実習Ⅰ				実　践　的　理　解		○
配当年/学期	3年　後期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム		○
担当教員	主担当：就職委員会委員、他全教員				多　職　種　連　携		○

講義概要

本科目では、既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者、医療従事者との信頼関係の構築、コミュニケーション能力の習得等を目的とする。また、並行して実施している臨地・臨床実習を通じて、必要な実践能力や保健医療福祉チームの一員としての役割を思考し、安全かつ質の高い看護を限られた時間内で効率的に提供していくためのスキルについて理解を深め、将来の自身の姿を展望することを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

1. 医療における多職種連携にかかわる職種の特徴や役割を確認し、医療従事者との信頼関係の構築に活かすことができる
2. 専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護やチーム医療の一員として、看護職の役割を理解し発表することができる。
3. 組織の看護管理者や専門看護師/認定看護師の看護の役割を理解し発表することができる。
4. 組織の一員として自立して活動できるコミュニケーションスキルの向上を図るための知識と理解を深める。
5. 将来に向け安心で安定的な就業を目指し、個人の特性や能力が最大限に発揮できる職場を選択できるための基礎的リテラシーや医療機関情報を習得し、自身のキャリアプランを展望することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 3年前期の該当領域の単位を修得していること。
2. 各回とも、1日実習相当であり、事前学習120分、事後の学習課題120分を各回毎しっかり行うこと。
3. 実習開始前の事前学習として、「医療における多職種連携」について理解できるよう学習をしておくこと。

教材

参考文献　厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2025/2026』（刊行予定：2025年8月）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	主担当
第1回	実習マナー講座（9月実施）	就職委員会委員
第2回	病院ガイダンス	
第3回	就職面接対策講座（履歴書の書き方・面接の心構えなど）	
第4回	個人学習（アドバイザー教員の指導の下、以下の学習を行う） 本科目と並行して実施している臨地・臨床実習を通じて、保健医療福祉チームの一員としての役割を思考し、医療における多職種連携や組織の中での看護活動についてレポートにまとめる。また、これらの学習を通し、自身の将来像を見据えキャリアプランシートを作成する。 ① 多職種連携を図るために、下記の各職種の特徴や役割を調べるとともに、資料や文献から各職種と看護師の連携事例を1例ずつ調べレポートにまとめる。 保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、社会福祉士、介護福祉士、専門看護師、認定看護師 ② 自身の将来像を見据えて、キャリアプランシートを作成する(就職予定施設の情報等も踏まえて、将来像を考える) ※実施時期（9月～翌年1月）	アドバイザー教員
第5回	グループ学習（アドバイザー教員の下、以下のグループ学習を行う） アドバイザー教員は受持学生がまとめた資料に基づいたグループ学習を開催し、内容の充実を図る。学生はグループ学習を通じて「医療における多職種連携や組織の中での看護活動」をPPTにまとめグループ発表する。発表会方法はアドバイザー単独や複数人のアドバイザーによる合同発表会などアドバイザーが決める。発表会の内容は評価対象とする。 ※実施時期（第4回終了～翌年2月末日）	

評価方法・評価基準

成績評価方法および成績評価基準に基づき、第1回～第3回の評価は就職委員会委員が行う（50%）。第4回・第5回の評価はアドバイザー教員が行う（50%）。アドバイザー教員は、就職委員会委員の評価を合算し最終評価をする。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	就職委員会委員評価	ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ教員評価
小テスト・授業内レポート		○	○	○		10 %	5 %
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		20 %	10 %
授業態度･授業への参加度		○	○	◎	○	20 %	20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表		○	○	○			10 %
演　　習	文献検索、討論		○	○			5 %
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等						

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

実習科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111100				ケア・スピリット	○
授業科目名	統合実習Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　前期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	主担当：4年生担任、他全教員				多　職　種　連　携	○

講義概要

本臨地実習では、既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を習得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で必要なケア提供や保健福祉医療チームの中で、安全かつ質の高い看護を効率的に提供していくための看護管理・多職種との連携・協働について理解し、専門職業人として必要なスキルを明確にする。

授業内容（到達目標を含む）

1．学生4名で1グループを編成し、2週間の集中実習を行う。
2．看護の総合的実践能力を高めるために、組織における看護マネジメントの実際を理解することができる。
3．組織の看護管理者（看護部長・副部長・師長・副師長等）や専門看護師/認定看護師/各分野の専門職の看護の役割○を理解し、実践を学ぶことができる。
4．医療安全・質の高い看護を提供するための仕組みを学ぶことができる。
5．多職種との連携・協働の実際を学び、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

１．該当領域の単位を取得。
２．実習要項に準ずる。

教材

なし

授業計画及び学習課題（予習・復習）

週	曜日	学習課題　例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
	実習病院：津島市民病院、大垣徳洲会病院、稲沢市民病院、江南厚生病院	
学内	３日間	学内講義（　組織とは、病院の理念、看護部理念、方針、教育体制、病院経営、医療安全、感染対策、サービス等）、グループワーク、ロールプレイイング
病院実習	月 火 水 木 金	・看護部長等の臨床講義(理念・方針・看護体制・組織の仕組み・病院経営・　地域包括ケアシステム・ワークライフバランス・教育体制・看護方式等) ・組織内の専門的看護（医療安全・感染対策・専門看護師・認定看護師・院内認定等） ・棟看護責任者の講義(方針・病棟の仕組み・勤務表作成・委員会・多職種連携 ・病棟看護責任者の勤務の実際の見学 ・病棟主任またはリーダーの勤務の実際の見学 ・受け持ち患者の決定、情報収集、計画立案 ・カンファレンスや委員会等の参加 ・病棟のケアプランに沿って見学実習 ・優先度を考慮した看護ケアの実践と評価（3日間） ・他部門の見学 ・管理者または専門看護に携わる看護師にインタビュー　など
学内	月 火	グループワーク（実際の看護管理）、発表、記録

評価方法・評価基準

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（0%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート			○	○		10 %
宿題・授業外レポート		○	○			30 %
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎	◎	40 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						10 %
演　習	文献検索、討論		○	○		10 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

実習指導教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。

講義科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			人　間　力	
授業コード	111101			ケア・スピリット	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅰ			実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　前期　必修	単位数	2	プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本千鶴、柿原加代子、専任教員全員			多　職　種　連　携	○

ディプロマポリシーを達成するために必要な能力

講義概要

本学部で学修した看護の理論と実践の知識について、各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学ぶ科目である。看護領域の各テーマを国家試験問題を通じて、看護実践の理解と考察を深める。担当教員は、看護職として必要となる、看護職としての問題解決能力を養成する。原則として全ての専任教員が担当し、学生の能動的な学修を促す。

授業内容（到達目標を含む）

1. 各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学び、看護領域の看護実践の理解と考察を深める。
2. 現代における看護職の活動やその多彩な場面を学び、社会の中で看護職が果たす役割やマネジメントの重要性を理解することができる
3. 看護職としての資格修得に向けての自己のキャリア形成を理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。
授業は、国家試験に準じた課題解決の確認試験と振り返りを実施する。

教材

看護師・看護学生のためのレビューブック、必修問題、予想看護国師問題でパワーアップ

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス担当者･担当領域説明 社会保障　　確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3A3	不可
第2回	健康支援 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3A2	不可
第3回	地域・在宅 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A4	不可
第4回	人体１（薬理等） 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	4B2	不可
第5回	人体2（解剖生理学等） 確認試験と振り返り	確認テスト（46分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A1	不可
第6回	疾病（循環器・消化器器等） 確認試験と振り返り	確認テスト（47分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	2A1	不可
第7回	基礎看護 確認試験と振り返り	確認テスト（48分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A1	不可
第8回	急性期看護 確認試験と振り返り	確認テスト（49分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3B2	不可
第9回	慢性期看護 確認試験と振り返り	確認テスト（50分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	6A2	不可
第10回	老年看護 確認試験と振り返り	確認テスト（51分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A3	不可
第11回	小児看護 確認試験と振り返り	確認テスト（52分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A2	不可
第12回	母性看護 確認試験と振り返り	確認テスト（53分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	4A7	不可
第13回	精神看護 確認試験と振り返り	確認テスト（54分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	2C1	不可
第14回	看護管理 確認試験と振り返り	確認テスト（55分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1C2	不可

第15回	まとめ　試験	確認テスト及び解説した内容範囲から国家試験の形式で実施する	!B1	不可
評価方法・評価基準	最終試験100%とする。但し授業態度等の減点がある。			

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

評価方法・評価基準

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		100 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		
授業態度･授業への参加度		○	○	○		
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

実務経験のある教員による学生の国家資格修得に向けて、実践的理解と多職種連携ができる能力のプロフェショナルの育ある成をサポートする内容である

学習相談・支援体制

担当教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。

講義科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111102				ケア・スピリット	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅱ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　後期　必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本千鶴、柿原加代子、専任教員全員				多　職　種　連　携	○

講義概要

本学部で学修した看護の理論と実践の知識について、各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学ぶ科目である。看護領域の各テーマを国家試験問題を通じて、看護実践の理解と考察を深める。担当教員は、看護職として必要となる、看護職としての問題解決能力を養成する。原則として全ての専任教員が担当し、学生の能動的な学修を促す。

授業内容（到達目標を含む）

1. 各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学び、看護領域の看護実践の理解と考察を深める。
2. 現代における看護職の活動やその多彩な場面を学び、社会の中で看護職が果たす役割やマネジメントの重要性を理解することができる
3. 看護職としての資格修得に向けての自己のキャリア形成を理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。
授業は、国家試験に準じた課題解決の確認試験と振り返りを実施する。

教材

看護師・看護学生のためのレビューブック、必修問題、予想看護国師問題でパワーアップ

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	ガイダンス担当者･担当領域説明 社会保障　　確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3A3	不可
第2回	健康支援 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3A2	不可
第3回	地域・在宅 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A4	不可
第4回	人体１（薬理等） 確認試験と振り返り	確認テスト（45分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	4B2	不可
第5回	人体2（解剖生理学等） 確認試験と振り返り	確認テスト（46分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A1	不可
第6回	疾病（循環器・消化器器等） 確認試験と振り返り	確認テスト（47分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	2A1	不可
第7回	基礎看護 確認試験と振り返り	確認テスト（48分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A1	不可
第8回	急性期看護 確認試験と振り返り	確認テスト（49分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	3B2	不可
第9回	慢性期看護 確認試験と振り返り	確認テスト（50分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	6A2	不可
第10回	老年看護 確認試験と振り返り	確認テスト（51分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A3	不可
第11回	小児看護 確認試験と振り返り	確認テスト（52分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1A2	不可
第12回	母性看護 確認試験と振り返り	確認テスト（53分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	4A7	不可
第13回	精神看護 確認試験と振り返り	確認テスト（54分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	2C1	不可

第14回	看護管理 確認試験と振り返り	確認テスト（55分）と解説 予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	1C2	不可
第15回	まとめ　試験	確認テスト及び解説した内容範囲から国家試験の形式で実施する	!B1	不可

評価方法・評価基準	最終試験100%とする。但し授業態度等の減点がある。

評価方法・評価基準

【評価基準】

S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。

B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。

C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		100 %
宿題・授業外レポート		○	○	○		
授業態度･授業への参加度		○	○	○		
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

実務経験のある教員による学生の国家資格修得に向けて、実践的理解と多職種連携ができる能力のの育ある成をサポートする内容である

学習相談・支援体制

担当教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の展開			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111103				ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生看護学概論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	2年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本　千鶴				多　職　種　連　携	○

講義概要

公衆衛生看護の理念と目的、公衆衛生看護の原則、公衆衛生看護の対象について、地域保健法下における保健師の役割について教授する。また、公衆衛生看護活動のはじまりと歴史的な発展についての理解とこれからの住民との協同による地域づくり、ヘルスケアづくりについて教授する。

一般目標（GIO）

1．保健師の具体的な活動のイメージができる。
2．母子、成人、高齢者などのライフステージが理解できる。
3．精神障害、難病、感染症、口腔疾患疾患などの健康障害が理解できる。
4．在宅や災害の場など対象者の置かれている状況を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

配布資料した資料と講義の内容を教科書・参考書を使用してノートに整理し、復習しておくこと。（想定復習時間は 60 分程度）

教材

テキスト：標準保健師講座一公衆衛生看護学概論一（第６版）医学書院、標美奈子著、3520円（税込）　ISBN:978-4-260-04707-41
厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2024/2025』

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	公衆衛生看護の概念 1)公衆衛生看護の定義と役割 2)公衆衛生看護活動とは	公衆衛生の定義を理解する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。　予習時間：12分、復習時間：120分	3Ac	可
第2回	社会・家族機能と生活基盤の変化 1)生活単位の変化 2)家族機能の変化 3)ライフスタイルの変化	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	1C3	可
第3回	地域や職場における機能 1)ソーシャルサポートネットワーク 2)フォーマルサポート、インフォーマルサポート	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	2A1	可
第4回	保健活動の基盤と制度① 1)地域保健：保健所・保健センター 2)母子(親子)保健：乳幼児健康診査、 3)健やか親子21	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	2A2	可
第5回	保健活動の基盤と制度②成人保健 1)健康増進法・健康日本21 2)がん対策 3)循環器疾患の予防、糖尿病の予防	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	2A3	可
第6回	保健活動の基盤と制度③高齢者保健ほか 1)高齢者対策（介護保険を除く） 2)難病対策 3)その他支援が必要な人々	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	2A4	可
第7回	理論モデル 1)活用できる理論モデル 2)どこでどう使うか 3)保健指導とは	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：12分、復習時間：120分	6A3	可
第8回	これからの公衆衛生看護 1)最近のトピックス 2)まとめ	予習：１～14回の講義内容で疑問があればまとめておく。 復習：看護師国家試験過去問題で復讐をする。 予習時間：12分、復習時間：120分	6A4	可
評価方法・評価基準	授業態度10%、レポート（課題）20%、最終試験70%により評価する。			

<table>
<tr><td rowspan="7">評価方法・評価基準</td><td rowspan="7">【評価基準】
S(90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A(80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。
B(70-79 点)： 基本的な目標を達成している。
C(60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。
D(60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td><td colspan="7">成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価合計（100%）の内訳</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断・表現</td><td>関心・意欲・態度</td><td>技　能</td><td>評　価</td></tr>
<tr><td colspan="2">小テスト・授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">宿題・授業外レポート</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>70 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業態度･授業への参加度</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10 %</td></tr>
<tr><td>演　習</td><td>文献検索、討論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>補　足</td><td colspan="5">文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等</td></tr>
</table>

実務経験のある教員による授業内容

保健師として、尼崎市・名古屋市の保健所（政令市）の行政機関に勤務した経験から、公衆衛生看護活動を事例を提示しながら教授します。

学習相談・支援体制

火曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の展開			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111104				ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生看護活動論				実 践 的 理 解	○
配当年/学期	3年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本千鶴				多 職 種 連 携	○

講義概要

公衆衛生看護活動行うとき、保健師は専門的知識と技術で地域の健康課題にアプローチをする。保健活動の切口として、ライフステージの特性や心身の健康課題としての保健師活動の具体的な展開を学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

１．保健師の具体的な活動のイメージができる。
２．母子、成人、高齢者などのライフステージが理解できる。
３．精神障害、難病、感染症、口腔疾患疾患などの健康障害が理解できる。
４．在宅や災害の場など対象者の置かれている状況を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

配布資料した資料と講義の内容を教科書・参考書を使用してノートに整理し、
復習しておくこと（想定復習時間は 60 分程度）。

教材

参考図書：標準保健師講座ー公衆衛生看護学概論ー（第６版）医学書院、標美奈子著、3520円（税込）　ISBN:978-4-260-04707-41
厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2024/2025』

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	公衆衛生活動の位置づけ 公衆衛生活動の定義・目的・目標	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	9A3	可
第2回	発達段階と保健活動 家族の発達課題と保健価値有働	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	6A3	可
第3回	母子保健活動	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	9B2	可
第4回	成人保健活動 高齢者保健活動	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	10A7	可
第5回	難病保健活動 障害者（児）保健活動 精神保健活動	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	9B2	可
第6回	感染症保健活動 歯科口腔保健活動	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	7A5	可
第7回	災害保健活動 在宅ケアマネジメント 健康危機管理と保健活動	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	11D2	可
第8回	まとめ 保健師活動の実際から見えてくること	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	6D7	可

評価方法・評価基準：授業態度10%、レポート（課題）20%、試験70%

評価方法・評価基準

【評価基準】
S（90-100点）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A（80- 89点）：基本的な目標を十分に達成している。
B（70-79 点）：基本的な目標を達成している。
C（60-69 点）：基本的な目標を最低限度達成している。
D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（0%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度						
受講者発表(プレゼン)討論､まとめ､発表						
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

保健師として、尼崎市・名古屋市の保健所（政令市）の行政機関に勤務した経験から、公衆衛生看護活動を事例を提示しながら教授します。

学習相談・支援体制

火曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の展開			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111105				ケア・スピリット	
授業科目名	健康教育論				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本千鶴				多　職　種　連　携	○

講義概要

公衆衛生看護の基本的な技術としての健康教育について学ぶ。健康教育は健康課題をテーマにし、個人・集団を対象にした健康教育を立案し、教育媒体を用いて実施し、その健康教育の評価方法について学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

１．保健行動や健康教育に関わる理論について理解することができる。
２．個人や集団の健康課題の解決に向けた健康教育の展開過程として、対象の理解、アセスメント、課題の明確化、目的・目標の設定、計画立案、実施、評価の一連を理解できる。
３．健康教育の指導案を作成できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

日ごろからテレビ、雑誌、インターネット等に関する健康情報に関心を持ち、健康課題について考える習慣をもつ。
日常的にわかりやすい話し方、看板、広告等に関心をもち、健康教育指導案作成に生かす。

教材

参考図書：標準保健師講座一公衆衛生看護学概論一（第6班）医学書院、標美奈子著、3520円（税込） ISBN:978-4-260-04707-41
厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2024/2025』

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	健康教育の位置づけ 健康教育の定義・目的・目標	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必9A6	可
第2回	保健・医療と健康教育 健康日本21（第3次）の運動と健康教育	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必7B2	可
第3回	健康教育の技術 プライマリ・ヘルスケアと健康教育 健康教育とヘルスプロ、っモーション	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必2B1	可
第4回	健康教育の技術 セルフケアと健康教育 SAT 療法	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必7G3	可
第5回	保健行動への変容 ヘルス・ビリーフ・モデル セルフ・エフィカシー 変化のステージ理論	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必7G2	可
第6回	健康教育のアプローチ 問題解決学習 参加について	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必13B1	可
第7回	健康教育の企画 指導案の作成	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	必13B2	可
第8回	発表 まとめ	予習：参考図書に目を通す（120分） 復習：講義内容についてまとめる（120分）	10A5	可
評価方法・評価基準	課題提出（30%）、討議（30%）、レポートと発表（40%）			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		O	◎	○		30 %
宿題・授業外レポート		O	◎	○		10 %
授業態度･授業への参加度		O	◎	○		30 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	○		30 %
演　　習	文献検索、討論					
補　　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

保健師として、尼崎市・名古屋市の保健所（政令市）の行政機関に勤務した経験から、公衆衛生看護活動を事例を提示しながら教授します。

学習相談・支援体制

火曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。できれば事前にメールで連絡ください。連絡先　c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人　間　力	
授業コード	111106				ケア・スピリット	
授業科目名	看護研究Ⅰ				実　践　的　理　解	○
配当年/学期	3年　前期　必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	豛喜田恵子				多　職　種　連　携	○

講義概要

「看護研究Ⅰ」では、大学における研究の定義、看護研究の基礎的手法、倫理的配慮、文献検索、研究方法の種類、質的研究・量的研究、文献クリティークなど、看護研究に関する基礎的知識を学ぶとともに、4年次の「看護研究Ⅱ」に向けて、学生自身が研究課題を明らかにすることを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

本科目では、看護職の研究力を身につけるために、到達目標として以下を目指す。
1. 看護研究の目的と意義を説明できる。
2. 看護研究のプロセスを説明できる。
3. 文献検索の目的と方法を説明できる。
4. 文献のクリティークと文献レビューを実施できる。
5. 研究デザインの特徴と方法を説明できる。
6. 研究における倫理的配慮を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本科目は、看護研究の進め方を実践的に学ぶために、授業では毎回、学修課題（予習・復習）を提示する。学修課題はその都度提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は授業時間内に解説する。本科目終了後、「看護研究Ⅱ」で取り組みたい研究課題を明確にしておく。本科目の単位を取得できなかった場合、補講やレポート課題での対応はしない。したがって、次年度本科目の開講時に履修すること。なお、本科目の単位を取得しなければ、、4年次の「看護研究Ⅱ」を履修することができない。

教材

テキスト「系統看護学講座 別巻 看護研究」坂下玲子他著、医学書院、2022年、2,750円（税込）
参考図書　適宜、紹介する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	看護研究とは：看護研究の目的、意義、特徴、歴史	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	複数項目のため授業時に提示する。	不可
第2回	看護研究のデザインと種類：看護研究の問いの立て方、研究デザイン	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第3回	研究プロセスの方法①：研究課題の明確化、文献検索と文献検討の目的と方法 （多喜田）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第4回	研究プロセスの方法②：研究論文の批評（クリティーク）、文献レビューの記述 （多喜田）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第5回	研究デザイン：研究の設定と方法の選択、量的研究の特徴、質的研究の特徴	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第6回	看護研究における倫理的配慮：研究倫理とは、研究倫理ガイドライン	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第7回	研究計画書の作成：研究計画書の意義と目的、研究計画書の書式と記載内容	予習：事前課題レポート⑦を行う 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
第8回	文献レビューの実際：EBISCO、医学中央雑誌Web・J-STAGE・などの和文献、Pub Med・MEDLINEなどの欧文献検索	予習：事前課題⑧を行う 復習：事後課題⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分		不可
評価方法・評価基準	小レポート（30%）、レポート（70%）			

評価方法・評価基準	【評価基準】 S (90-100点)： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。 A (80- 89点)： 基本的な目標を十分に達成している。 B (70-79 点)： 基本的な目標を達成している。 C (60-69 点)： 基本的な目標を最低限度達成している。 D (60点未満)： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	○	65 %
宿題・授業外レポート		○	○	○	○	25 %
授業態度･授業への参加度		○	○	○	○	10 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表						
演　習	文献検索、討論					
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

臨床経験12年ののち、看護職のメンタルサポートや教育研究支援を行っています。看護研究の視点や研究方法を研実践者の立場から伝えて行きます。

学習相談・支援体制

毎週月曜日16時10分から17時30分　事前にアポを取って下さい。
（連絡先）k-takita@gifuhoken.ac.jp

講義科目

科目区分	看護専門教育科目-看護の統合と実践			人　間　力	
授業コード	111107			ケア・スピリット	
授業科目名	看護研究Ⅱ			実　践　的　理　解	○
配当年/学期	4年　通年　必修	単位数	2	プロフェッショナリズム	○
担当教員	藤原奈佳子、他全教員			多　職　種　連　携	○

ディプロマポリシーを達成するために必要な能力

講義概要

「看護研究Ⅱ」では、「看護研究Ⅰ」で修得した基礎的研究能力を踏まえて、学生一人ひとりが、臨地実習等を含めた4年間の看護の学びから関心のあるテーマを設定し、文献検索・データ収集・分析・考察を進め、研究成果としてまとめる。本科目での研究への取り組みを通じて、卒業後も生涯持続的に学び続ける姿勢も身につける。指導教員による少人数指導を演習形式で行い、原則として全ての専任教員が担当する。

授業内容（到達目標を含む）

1　看護研究の意義と主な研究方法の特徴を説明できる。
2　看護研究における学術情報の探索方法を説明できる。
3　看護研究の過程で学術情報を探索し活用できる。
4　自ら関心ある研究テーマを設定できる。
5　研究テーマに沿って研究方法を検討し、研究計画書を作成できる。
6　研究計画に基づいて，研究を実施できる。
7　研研究における倫理的配慮について説明できる。
8　研究計画を発表し，相互評価を踏まえて、卒業論文を作成することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

・「看護研究Ⅱ」では将来の研究活動の基盤となる研究に関する基礎の知識・技術を体得しましょう。
・系統的な学術情報検索を通して研究課題に関する文献を吟味しましょう。
・各自の研究計画に沿って研究を実施し，指示された期限までに，担当教員の指導に基づいて、論文作成や発表の準備を進められるよう，授業以外の時間を計画的に活用しましょう。

教材

「看護研究Ⅰ」で使用した教材を用意する。必要に応じて資料を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内　　容	学習課題（予習・復習）	小項目確認シートNo	遠隔授業
第1回	・ガイダンス、担当教員決定 ・研究Ⅱの、方法と進め方	担当教員との打ち合わせにより、今後の方向性を検討する		可
第2回	研究テーマ決定	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画書を作成する		可
第3回 ～ 第14回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマに基づいて、研究計画に従って研究を進める		可
第15回	中間発表(研究計画書)	各グループ単位で進捗状況を発表し、グループメンバーからの意見や、指導教員からの助言を得る		可
第16回 ～ 第28回	研究の実施	前回の発表や、メンバー教員からの意見を参考に、研究計画書を完成させ、卒業研究論文を作成する		可
第29回	最終発表(卒業論文)　PPTにて発表	研究計画書を基に作成した卒業論文を発表し、グループメンバーからの意見や、指導教員からの助言を得る		可
第30回	論文及び研究資料のまとめと提出	最終発表や、メンバー教員からの意見を参考に、卒業論文を完成させ、資料、データをまとめて提出する		可

評価方法・評価基準　研究への取り組みおよび論文作成過程とその発表を通して評価する.

評価方法・評価基準

【評価基準】
S (90-100点)：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (80- 89点)：基本的な目標を十分に達成している。
B (70-79 点)：基本的な目標を達成している。
C (60-69 点)：基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満)：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）

評価合計（100%）の内訳		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技　能	評　価
小テスト・授業内レポート						
宿題・授業外レポート						
授業態度･授業への参加度		◎	◎	◎		20 %
受講者発表(プレゼン)討論、まとめ、発表			◎	◎	◎	50 %
演　習	文献検索、討論		◎	◎		30 %
補　足	文献検索,意見発表,意見交換,プレゼンテーション,レポート作成等					

実務経験のある教員による授業内容

学習相談・支援体制

各担当教員にアポイントを取って、指導を受けてください。